

基本計画書（共同教育課程）

事項	記入欄																											
計画の区分	研究科の専攻の設置																											
構成大学の設置者	国立大学法人福岡教育大学			国立大学法人北海道教育大学			国立大学法人大阪教育大学																					
構成大学の名称	福岡教育大学大学院（Graduate School of Teacher Education Fukuoka）			北海道教育大学大学院（Graduate School of Hokkaido University of Education）			大阪教育大学大学院（Graduate School of Osaka Kyoiku University）																					
構成大学の本部の位置	福岡県宗像市赤間文教町1丁目1番			北海道札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号			大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698番1号																					
共同教育課程の名称	共同学校教育学専攻（Cooperative Doctoral Course in Science of School Education）																											
共同教育課程の目的	学校教育学に関する諸分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。																											
共同教育課程の概要	入学定員	編入学定員	収容定員		入学定員	編入学定員	収容定員		入学定員	編入学定員	収容定員		修業年限	入学定員（合計）	編入学定員（合計）	収容定員（合計）												
	4	-	12		4	-	12		4	-	12		3	12	-	36												
学位	博士（教育学）（Doctoral Program: Doctor of Education）																											
学位の分野	教育学・保育学関係																											
開設時期及び開設年次	令和7年4月 第1年次																											
教育課程	講義	演習	実験・実習	計	講義	演習	実験・実習	計	講義	演習	実験・実習	計	講義（合計）	演習（合計）	実験・実習（合計）	計												
（各構成大学が開設する授業科目数）	3科目	34科目	0科目	37科目	3科目	40科目	0科目	43科目	3科目	48科目	0科目	51科目	3科目	55科目	0科目	58科目												
	専任教員					専任教員以外の教員（助手を除く）	専任教員					専任教員以外の教員（助手を除く）	専任教員（合計）					専任教員以外の教員（助手を除く）（合計）										
	教授	准教授	講師	助教	計		教授	准教授	講師	助教	計		教授	准教授	講師	助教	計											
	10人 (10)	4人 (4)	0人 (0)	0人 (0)	14人 (14)	0人 (0)	0人 (0)	15人 (15)	6人 (6)	1人 (1)	0人 (0)	22人 (22)	0人 (0)	0人 (0)	15人 (15)	11人 (11)	1人 (1)	0人 (0)	27人 (27)	0人 (0)	1人 (1)	40人 (40)	21人 (21)	2人 (2)	0人 (0)	63人 (63)	0人 (0)	1人 (1)
	研究指導教員等					その他の教員	研究指導教員等					その他の教員	研究指導教員等（合計）					その他の教員（合計）										
	教授	准教授	講師	助教	計		教授	准教授	講師	助教	計		教授	准教授	講師	助教	計											
	10人 (10)	4人 (4)	0人 (0)	0人 (0)	14人 (14)	0人 (0)	0人 (0)	15人 (15)	6人 (6)	1人 (1)	0人 (0)	22人 (22)	0人 (0)	0人 (0)	15人 (15)	11人 (11)	1人 (1)	0人 (0)	27人 (27)	1人 (1)	40人 (40)	21人 (21)	2人 (2)	0人 (0)	63人 (63)	1人 (1)		
職種	専属	その他	計	専属	その他	計	専属	その他	計																			
事務職員	97人 (97)	58人 (58)	155人 (155)	215人 (215)	79人 (79)	294人 (294)	151人 (151)	86人 (86)	237人 (237)																			
技術職員	11人 (11)	0人 (0)	11人 (11)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	9人 (9)	5人 (5)	14人 (14)																			
図書館職員	5人 (5)	4人 (4)	9人 (9)	7人 (7)	0人 (0)	7人 (7)	9人 (9)	14人 (14)	23人 (23)																			
その他の職員	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	7人 (7)	49人 (49)	56人 (56)	1人 (1)	21人 (21)	22人 (22)																			
指導補助者	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)																			
計	113人 (113)	62人 (62)	175人 (175)	229人 (229)	128人 (128)	357人 (357)	170人 (170)	126人 (126)	296人 (296)																			

校 地 等			区 分		専 用 共 用 共用する他の 学校等の専用				計				専 用 共 用 共用する他の 学校等の専用				計				専 用 共 用 共用する他の 学校等の専用				計				専用（合計）		共用（合計）		共用する他の学校 等の専用（合計）		計	
			校 舎 敷 地		185,815㎡		0㎡		0㎡		185,815㎡		572,547㎡		0㎡		0㎡		572,547㎡		229,161㎡		0㎡		0㎡		229,161㎡		987,523㎡		0㎡		0㎡		987,523㎡	
			そ の 他		388,390㎡		0㎡		0㎡		388,390㎡		571,693㎡		0㎡		0㎡		571,693㎡		487,508㎡		0㎡		0㎡		487,508㎡		1,447,591㎡		0㎡		0㎡		1,447,591㎡	
			合 計		574,205㎡		0㎡		0㎡		574,205㎡		1,144,240㎡		0㎡		0㎡		1,144,240㎡		716,669㎡		0㎡		0㎡		716,669㎡		2,435,114㎡		0㎡		0㎡		2,435,114㎡	
講義室等			講 義 室		実験・実習室		演 習 室		講 義 室		実験・実習室		演 習 室		講 義 室		実験・実習室		演 習 室		講 義 室		実験・実習室		演 習 室											
			56室		164室		110室		111室		309室		359室				154室		9室																	
新設研究科等の専任教員研究室			14室										22室										27室													
図 書 ・ 設 備			図書		学術雑誌		機械 器具	標本	図書		学術雑誌		機械 器具	標本	図書		学術雑誌		機械 器具	標本	図書		学術雑誌		機械 器具	標本										
			〔うち外国書〕	電子冊子	〔うち外国書〕	電子ジャーナル			〔うち外国書〕	電子冊子	〔うち外国書〕	電子ジャーナル			〔うち外国書〕	電子冊子	〔うち外国書〕	電子ジャーナル																		
			冊〔うち外国書〕		種	〔うち外国書〕	冊〔うち外国書〕		種	〔うち外国書〕	冊〔うち外国書〕		種	〔うち外国書〕	冊〔うち外国書〕		種	〔うち外国書〕																		
			532,480〔13,267〕	3,429〔3,169〕	8,188〔2,060〕	6,417〔6,417〕	47	0	5,174,146〔125,860〕	8,372〔7,313〕	28,339〔6,847〕	4,538〔4,538〕	49	0	971,064〔217,940〕	14,914〔13,838〕	22,529〔7,234〕	3,816〔3,816〕	0	0																
			(532,480〔13,267〕)	(3,429〔3,169〕)	(8,188〔2,060〕)	(6,417〔6,417〕)	(47)	(0)	(5,174,146〔125,860〕)	(8,372〔7,313〕)	(28,339〔6,847〕)	(4,538〔4,538〕)	(49)	(0)	(971,064〔217,940〕)	(14,914〔13,838〕)	(22,529〔7,234〕)	(3,816〔3,816〕)	(0)	(0)																
経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次																		
			第 4 年 次	第 5 年 次			第 4 年 次	第 5 年 次			第 4 年 次	第 5 年 次																								
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円	— 千円	— 千円		— 千円	— 千円	— 千円																
			— 千円	— 千円			— 千円	— 千円			— 千円	— 千円			— 千円	— 千円																				
		共 同 研 究 費 等		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円	— 千円	— 千円		— 千円	— 千円	— 千円																
			— 千円	— 千円			— 千円	— 千円			— 千円	— 千円			— 千円	— 千円																				
		図 書 購 入 費	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円																
			— 千円	— 千円			— 千円	— 千円			— 千円	— 千円			— 千円	— 千円																				
	設 備 購 入 費	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円																	
		— 千円	— 千円			— 千円	— 千円			— 千円	— 千円			— 千円	— 千円																					
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次 <th>第 1 年 次</th> <td>第 2 年 次</td> <td>第 3 年 次</td> <td>第 4 年 次</td>	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次																							
		第 5 年 次					第 5 年 次					第 5 年 次																								
— 千円		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円																								
— 千円						— 千円					— 千円																									
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要			—				—				—																									
備 考			国費による				国費による				国費による																									

既設 研究科等 の状況	大 学 等 の 名 称	福岡教育大学						
	研 究 科 等 の 名 称	修業年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	開設 年度	所 在 地
	教育学部	年	人	年次 人	人			福岡県宗像市赤間文教町1番1号
	初等教育教員養成課程	4	385	—	1,540	学士（教育学）	平成11年度	
	中等教育教員養成課程	4	170	—	680	学士（教育学）	平成11年度	
	特別支援教育教員養成課程	4	60	—	240	学士（教育学）	平成20年度	
	教育学研究科							※令和3年度より学生募集停止
	教育科学専攻	2	—	—	—	修士（教育学）	平成21年度	
	教職実践専攻	2	50	—	100	教職修士（専門職）	平成21年度	
校 舎		専用		共用		共用する他の 学校等の専用	計	
		48,528㎡ (48,528㎡)		0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)	48,528㎡ (48,528㎡)	

既設研究科等の状況	大 学 等 の 名 称	北海道教育大学						
	研 究 科 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設年度	所 在 地
	教育学部	年	人	年次人	人			①（札幌校）北海道札幌市北区あいの里5条3丁目1番5号 ②（旭川校）北海道旭川市北門町9丁目 ③（釧路校）北海道釧路市城山1丁目15番55号 ④（函館校）北海道函館市八幡町1番2号 ⑤（岩見沢校）北海道岩見沢市緑が丘2丁目34番地1
	教員養成課程	4	720	—	2,880	学士（教育学）	平成18年度	①②③
	国際地域学科	4	285	—	1,140	学士（地域学） 学士（教育学）	平成26年度	④
	芸術・スポーツ文化学科	4	180	—	720	学士（芸術・スポーツビジネス） 学士（音楽文化） 学士（美術文化） 学士（スポーツ文化）	平成26年度	⑤
	教育学研究科（修士課程）							
	学校教育専攻	2	—	—	—	修士（教育学）	平成4年度	①②③④ ※令和3年度より学生募集停止
	教科教育専攻	2	—	—	—	修士（教育学）	平成4年度	①②③④ ※令和3年度より学生募集停止
	学校臨床心理専攻	2	9	—	18	修士（教育学）	平成14年度	①②③④
校 舎	教育学研究科（専門職学位課程）							
	高度教職実践専攻	2	80	—	160	教職修士（専門職）	平成20年度	①②③④
		専用		共用		共用する他の学校等の専用	計	
		112,457㎡ (112,457㎡)		0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)	112,457㎡ (112,457㎡)	

既設研究科等の状況	大 学 等 の 名 称	大阪教育大学							
	研 究 科 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設年度	所 在 地	
	教育学部	年	人	年次人	人			①大阪府柏原市旭ヶ丘四丁目6 9 8 番地の1 ②大阪府大阪市天王寺区南河堀町4 番 8 8 号	
	学校教育教員養成課程	4	480	0	1,740	学士（教育学）	令和6年度	①②	
	学校教育教員養成課程（夜間）	5	40	3年次25	40	学士（教育学）	令和6年度	②	
	養護教諭養成課程	4	30	0	120	学士（教育学）	昭和51年度	①②	
	教育協働学科	4	350	0	1,400	学士（教育学）	平成29年度	①	
	初等教育教員養成課程	4	—	—		学士（教育学）	平成29年度	①・3年次より② ※令和6年度より学生募集停止	
	初等教育教員養成課程（夜間）	5	—	3年次25		学士（教育学）	平成29年度	② ※令和6年度より学生募集停止（3年次編入学を除く）	
	特別支援教育教員養成課程	4	—	—		学士（教育学）	昭和63年度	① ※平成29年度より学生募集停止	
	教養学科	4	—	—		学士（教養）	昭和63年度	① ※平成29年度より学生募集停止	
	第二部小学校教員養成課程	5	—	—		学士（教育学）	昭和29年度	② ※平成29年度より学生募集停止	
	教育学研究科								
	高度教育支援開発専攻	2	50	0	100	修士（教育学）	令和3年度	①②	
	健康科学専攻	2	—	—		修士（学術）	平成5年度	② ※令和3年度より学生募集停止	
	芸術文化専攻	2	—	—		修士（芸術）	平成7年度	① ※令和3年度より学生募集停止	
	連合教職実践研究科								
	高度教職開発専攻	2	150	0	300	教職修士（専門職）	平成27年度	①②	
	校 舎		専用		共用		共用する他の学校等の専用		計
			81,469㎡ (81,469㎡)		0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		81,469㎡ (81,469㎡)

(注)

1 共同教育課程を設置する場合、別記様式第2号（その1の2）に加え、この書類を作成すること。

2 大学院の研究科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「講義室等」、「新設研究科等の専任教員研究室」及び「図書・設備」の欄に記入せず、斜線を引くこと。

3 大学等の廃止の認可の申請を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「講義室等」、「新設研究科等の専任教員研究室」、「図書・設備」、「経費の見積もり及び維持方法の概要」及び「校舎」の欄に記入せず、斜線を引くこと。

4 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

5 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

基本計画書

基本計画書										
事項		記入欄							備考	
計画の区分										
フリガナ設置者		コクリツタ ^ニ イ ^ニ クホジ ^ン フクオキョウイクダ ^ニ イ ^ニ ク								
フリガナ大学の名称		フクオキョウイクダ ^ニ イ ^ニ クダ ^ニ イ ^ニ クイン								
大学本部の位置		福岡教育大学大学院（Graduate School of Teacher Education Fukuoka）								
大学の目的		本学は、学術の中心として深く専門の学芸を研究教授するとともに、広く知識技能を開発し、豊かな教養を与え、もって有為な教育者を養成し、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設研究科等の目的										
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	14条特例の実施
	計	年	人	年次人	人			年月次		
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）										
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数					修了要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計	科目	科目	科目	単位	
研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員（助手を除く）		
新設分		教授	准教授	講師	助教	計				
		人	人	人	人	人	人	人		
		()	()	()	()	()	()	()		
既設分										
		()	()	()	()	()	()	()		
	計	()	()	()	()	()	()	()		
大学院教育学研究科 教職実践専攻（専門職学位課程）		24人	7人	2人	0人	33人	0人	55人		
		(24)	(7)	(2)	(0)	(33)	(0)	(55)		
		()	()	()	()	()	()	()		
計		24人	7人	2人	0人	33人	0人	55人		
		(24)	(7)	(2)	(0)	(31)	(0)	(55)		
	計	(24)	(7)	(2)	(0)	(38)	(0)	(55)		
合計		27人	9人	2人	0人	38人	0人	55人		
		(30)	(9)	(2)	(0)	(38)	(0)	(55)		
職種		専属				その他		計		
事務職員		97人				58人		155人		
		(97)				(58)		(155)		
技術職員		11人				0人		11人		
		(11)				(0)		(11)		
図書館職員		5人				4人		9人		
		(5)				(4)		(9)		
その他の職員		0人				0人		0人		
		(0)				(0)		(0)		
指導補助者		0人				0人		0人		
		(0)				(0)		(0)		
計		113人				62人		175人		
		(113)				(62)		(175)		

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
	校 舎 敷 地		185,815㎡	0㎡	0㎡		185,815㎡				
	そ の 他		388,390㎡	0㎡	0㎡		388,390㎡				
	合 計		574,205㎡	0㎡	0㎡		574,205㎡				
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
			48,528㎡ (48,528㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)		48,528㎡ (48,528㎡)				
講義室等・新設研究科等 の 専 任 教 員 研 究 室			講義室	実験・実習室	演習室		新設研究科等の 専任教員研究室				
			56室	164室	110室		14室				
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称		図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具		標本			
			冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	点	点			
	教育学研究科 共同学校教育学専攻		532,480〔113,267〕 (532,480〔113,267〕)	3,429〔3,169〕 (3,429〔3,169〕)	8,188〔2,060〕 (8,188〔2,060〕)	6,417〔6,417〕 (6,417〔6,417〕)	47 (47)	0 0			
	計		532,480〔113,267〕 (532,480〔113,267〕)	3,429〔3,169〕 (3,429〔3,169〕)	8,188〔2,060〕 (8,188〔2,060〕)	6,417〔6,417〕 (6,417〔6,417〕)	47 (47)	0 0			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	国費による	
		教員1人当たり研究費等			— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		共同研究費等			— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		図書購入費		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		設備購入費		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		学生1人当たり 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次			
	— 千円			— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			—								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称		福岡教育大学大学院								
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地	
	教育学部		年	人	年次 人	人		倍		福岡県宗像市赤間 文教町1番1号	
	初等教育教員養成課程		4	385	—	1,540	学士（教育学）	1.03	平成11年度		
	中等教育教員養成課程		4	170	—	680	学士（教育学）	1.07	平成11年度		
	特別支援教育教員養成課程		4	60	—	240	学士（教育学）	1.05	平成20年度		
	教育学研究科										
	教育科学専攻		2	—	—	—	修士（教育学）		平成21年度		
教職実践専攻		2	50	—	100	教職修士（専門職）	0.97	平成21年度			

※令和3年度より学生募集停止

附属施設の概要	附属学校は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づいて、それぞれ学校教育を行い、学部・大学院等における児童、生徒又は幼児の教育又は保育に関する研究に協力し、及び学部の計画に従って学生の実習の実施にあたることを目的とする。		
	名称	所在地	設置年月
	附属福岡小学校	福岡県福岡市中央区西公園12番1号	昭和26年4月
	附属小倉小学校	福岡県北九州市小倉北区下富野3丁目13番1号	昭和26年4月
	附属久留米小学校	福岡県久留米市南1丁目3番1号	昭和26年4月
	附属福岡中学校	福岡県福岡市中央区西公園12番1号	昭和26年4月
	附属小倉中学校	福岡県北九州市小倉北区下富野3丁目12番1号	昭和26年4月
	附属久留米中学校	福岡県久留米市南1丁目3番1号	昭和26年4月
	附属幼稚園	福岡県宗像市赤間文教町1番30号	昭和46年4月

- (注)
- 1 共同教育課程の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設研究科等の目的」、「新設研究科等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 2 「既設分」については、共同教育課程に係る数を除いたものとする。
 - 3 私立の大学院の研究科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、及び「図書・設備」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、「図書・設備」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
 - 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人福岡教育大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和 6 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和 7 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
福岡教育大学				福岡教育大学				
教育学部				教育学部				
初等教育教員養成課程	385		1, 540	初等教育教員養成課程	385		1, 540	
中等教育教員養成課程	170		680	中等教育教員養成課程	170		680	
特別支援教育教員養成課程	60		240	特別支援教育教員養成課程	60		240	
計	615		2, 460	計	615		2, 460	
大学院教育学研究科				大学院教育学研究科				
教育科学専攻 (M)	—	—	—	教育科学専攻 (M)	—	—	—	
教職実践専攻 (P)	50	—	100	教職実践専攻 (P)	50	—	100	
計	50		100	共同学校教育学専攻 (D)	4	—	12	研究科の専攻の設置 (意見伺い)
				計	54		112	

教育課程等の概要（共同学科等）

（北海道教育大学大学院教育学研究科共同学校教育学専攻・大阪教育大学大学院学校教育学研究科共同学校教育学専攻・福岡教育大学大学院教育学研究科共同学校教育学専攻）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業科目	開設大学	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
課題研究 科目	発達教育学科学特別研究Ⅰ	1通		北教大・大教大・福教大		2			○		19	12	1				共同
	発達教育学科学特別研究Ⅱ	2通		北教大・大教大・福教大		2			○		19	12	1				共同
	発達教育学科学特別研究Ⅲ	3通		北教大・大教大・福教大		2			○		19	12	1				共同
	小計（3科目）	—	—	—	0	6	0	—	—	—	19	12	1	0	0	0	
	教科学特別研究Ⅰ	1通		北教大・大教大・福教大		2			○		22	7	1				共同
	教科学特別研究Ⅱ	2通		北教大・大教大・福教大		2			○		22	7	1				共同
	教科学特別研究Ⅲ	3通		北教大・大教大・福教大		2			○		22	7	1				共同
	小計（3科目）	—	—	—	0	6	0	—	—	—	22	7	1	0	0	0	
	学校教育学原論Ⅰ	1前		北教大・大教大・福教大	1			○			3	2	1				オムニバス・共同（一部）
	学校教育学原論Ⅱ	1後		北教大・大教大・福教大	1			○			2	4	1				オムニバス・共同（一部）
共通 科目	教育臨床参画研究Ⅰ	1後		北教大・大教大・福教大	1				○		4	1					オムニバス・共同（一部）
	教育臨床参画研究Ⅱ	2前		北教大・大教大・福教大	1				○		4	1					オムニバス・共同（一部）
	教員養成学開発論	2前		北教大・大教大・福教大	2			○			2	3					オムニバス
	教員養成学臨床研究	2後		北教大・大教大・福教大	2				○		1	3					オムニバス・共同（一部）
	小計（6科目）	—	—	—	8	0	0	—	—	—	8	8	1	0	0	0	
	地域教育課題研究	1前		北教大・大教大・福教大	2				○		4	2					オムニバス・共同（一部）
	小計（1科目）	—	—	—	2	0	0	—	—	—	4	2	0	0	0	0	
	人間発達理解研究	1後		北教大・大教大・福教大		2			○		2	3	1				オムニバス
	人間発達支援研究Ⅰ	1後		北教大・大教大・福教大		2			○		4	1					オムニバス・共同（一部）
	人間発達支援研究Ⅱ	2前		北教大・大教大・福教大		2			○		4	2					オムニバス・共同（一部）
分野 科目	学習認知研究	2前		大教大		2			○			1	1				オムニバス・共同（一部）
	キャリア支援研究	2前		北教大・福教大		2			○		1	1					オムニバス・共同（一部）
	小計（5科目）	—	—	—	0	10	0	—	—	—	7	5	1	0	0	0	
	教育方法学研究	1後		北教大・大教大		2			○			3					オムニバス
	教育DX研究	2前		大教大		2			○		3					1	オムニバス・共同（一部）
	特別支援教育研究	2前		北教大・大教大・福教大		2			○		5						オムニバス
	小計（3科目）	—	—	—	0	6	0	—	—	—	8	3	0	0	0	1	
	学校安全研究	2前		大教大		2			○		2						オムニバス・共同（一部）
	学校コミュニティ支援研究	1後		北教大・大教大		2			○		2	1					オムニバス
	教育データサイエンス研究	1後		大教大		2			○			1					
臨床 教科 科学 分野	教員キャリア・研修マネジメント研究	2前		北教大・大教大		2			○		1	1					オムニバス・共同（一部）
	小計（4科目）	—	—	—	0	8	0	—	—	—	4	3	0	0	0	0	
	臨床国語科教育研究	1後		北教大・福教大		2			○		1	1					オムニバス・共同（一部）
	臨床国語科教材開発研究	2前		北教大・福教大		2			○		2	1					オムニバス・共同（一部）
	臨床国語科内容学研究	1後		北教大・福教大		2			○		2	1					オムニバス・共同（一部）
	臨床英語科教育研究	1後		北教大・大教大		2			○		1	1					共同
	臨床英語科教材開発研究	2前		北教大・大教大		2			○		1	1					共同
	臨床英語科内容学研究	1後		北教大・大教大		2			○		2	1					共同
	臨床社会科教育研究	1後		大教大・福教大		2			○		1						オムニバス・共同（一部）
	臨床社会科教材開発研究	2前		北教大・大教大・福教大		2			○		3						オムニバス・共同（一部）
臨床 教科 科学 分野	臨床社会科内容学研究	1後		北教大・大教大・福教大		2			○		3						オムニバス・共同（一部）
	臨床理科教育研究	1後		大教大・福教大		2			○		1	1					オムニバス・共同（一部）
	臨床理科教材開発研究	2前		北教大・大教大		2			○		2	1					オムニバス・共同（一部）
	臨床理科内容学研究	1後		北教大・大教大		2			○		3	1					オムニバス・共同（一部）
	臨床数学科教育研究	1後		北教大・大教大・福教大		2			○		2		1				オムニバス・共同（一部）
	臨床数学科教材開発研究	2前		北教大・大教大・福教大		2			○		2		1				オムニバス・共同（一部）
	臨床数学科内容学研究	1後		北教大・大教大・福教大		2			○		2		1				オムニバス・共同（一部）
	臨床情報科教育研究	1後		大教大		2			○		2			1			オムニバス・共同（一部）
	臨床情報科教材開発研究	2前		大教大		2			○		2						オムニバス・共同（一部）
	臨床情報科内容学研究	1後		大教大		2			○		2						オムニバス・共同（一部）
臨床 教科 科学 分野	臨床音楽科教育研究	1後		大教大		2			○			1					
	臨床音楽科教材開発研究	2前		大教大		2			○			1					
	臨床音楽科内容学研究	1後		大教大		2			○			1					
	臨床音楽科内容学研究	1後		大教大		2			○			1					

	臨床美術科教育研究	1後		北教大・大教大	2		○	1	1					オムニバス・共同（一部）
	臨床美術科教材開発研究	2前		北教大・大教大	2		○	1	1					オムニバス・共同（一部）
	臨床美術科内容学研究	1後		北教大・大教大	2		○	1	1					オムニバス
	臨床保健体育科教育研究	1後		北教大・大教大・福教大	2		○	2	2					オムニバス・共同（一部）
	臨床保健体育科教材開発研究	2前		北教大・大教大・福教大	2		○	5	2					オムニバス・共同（一部）
	臨床保健体育科内容学研究	1後		北教大・大教大・福教大	2		○	5	2					オムニバス・共同（一部）
	臨床技術科教育研究	1後		北教大・福教大	2		○	2						オムニバス・共同（一部）
	臨床技術科教材開発研究	2前		北教大・福教大	2		○	2						オムニバス・共同（一部）
	臨床技術科内容学研究	1後		北教大・福教大	2		○	2						オムニバス・共同（一部）
	臨床家庭科教育研究	1後		大教大・福教大	2		○	2						オムニバス・共同（一部）
	臨床家庭科教材開発研究	2前		大教大・福教大	2		○	2						オムニバス・共同（一部）
	臨床家庭科内容学研究	1後		大教大・福教大	2		○	2						オムニバス・共同（一部）
	小計（33科目）	—			0	66	0	—	23	8	1	0	0	0
合計（58科目）		—			10	102	0	—	40	21	2	0	0	1
学位		博士（教育学）			学位の分野				教育学・保育学関係					
卒業・修了要件及び履修方法					開設大学	開設単位数（必修）			授業期間等					
本共同専攻の標準修業年限は3年であるが、特に優れた研究業績をあげた者にあつては修了年限の短縮も可能である。 修了に必要な取得単位数は20単位以上とし、課題研究科目は6単位、共通科目は8単位、分野科目は6単位以上である。 なお、分野科目は選択必修科目から6単位以上を取得する必要があるが、分野・領域を超えた履修も可能である。 本共同専攻は、必要な研究指導を受けて作成した学位論文の審査及び論文の内容や専門分野に関する最終試験に合格することを修了要件として課す。なお、学位論文の提出要件は、本共同専攻内の申し合わせに基づくものとする。					北海道教育大学	82（7）			1 学年の学期区分			2期		
					大阪教育大学	98（7）			1 学期の授業期間			15週		
					福岡教育大学	70（7）			1 時限の授業の標準時間			90分		

（注）

- 1 共同学科等を設置する場合は、別記様式第2号（その2の1）に代えて、この書類を作成すること。
- 2 共同学科等を設置する場合は、この書類に加え、別記様式第2号（その2の1）の例により、構成大学別のものを作成すること。
- 3 学部等、研究科等の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 4 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 5 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 6 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。
- 7 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 8 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 9 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 10 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科若しくは研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 11 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 12 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - （1）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - （2）「学位」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - （3）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(福岡教育大学大学院教育学研究科共同学校教育学専攻)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 (助手 以外 の教 員)		
課題 研究 科目	発達教育学科学特別研究Ⅰ	1通			2			○		5	2					共同	
	発達教育学科学特別研究Ⅱ	2通			2			○		5	2					共同	
	発達教育学科学特別研究Ⅲ	3通			2			○		5	2					共同	
	小計(3科目)	—		0	6	0		—		5	2	0	0	0	0		
	教科学特別研究Ⅰ	1通			2			○		6						共同	
	教科学特別研究Ⅱ	2通			2			○		6						共同	
教科学特別研究Ⅲ	3通			2			○		6						共同		
小計(3科目)	—		0	6	0		—		6	0	0	0	0	0			
共 通 科 目	学校教育学原論Ⅰ	1前		1			○			1						オムニバス・共同(一部)	
	学校教育学原論Ⅱ	1後		1			○				1					オムニバス・共同(一部)	
	教育臨床参画研究Ⅰ	1後		1				○		1						オムニバス・共同(一部)	
	教育臨床参画研究Ⅱ	2前		1				○		1						オムニバス・共同(一部)	
	教員養成学開発論	2前		2			○				1					オムニバス	
	教員養成学臨床研究	2後		2				○			1					オムニバス・共同(一部)	
	小計(6科目)	—		8	0	0		—		1	2	0	0	0	0		
分 野 科 目	地域教育課題研究	1前		2				○		2	1					オムニバス・共同(一部)	
	小計(1科目)	—		2	0	0		—		2	1	0	0	0	0		
	人間発達理解研究	1後			2				○		2	1					オムニバス
	人間発達支援研究Ⅰ	1後			2				○		2	1					オムニバス・共同(一部)
	人間発達支援研究Ⅱ	2前			2				○		2	1					オムニバス・共同(一部)
	キャリア支援研究	2前			2				○		1						オムニバス・共同(一部)
	小計(4科目)	—		0	8	0		—		3	1	0	0	0	0		
	特別支援教育研究	2前			2				○		2						オムニバス
	小計(1科目)	—		0	2	0		—		2	0	0	0	0	0		
学 校 文 化 研 究 領 域 科 学 分 野																	
	小計(0科目)	—		0	0	0		—		0	0	0	0	0	0		
臨 床 教 科 学 分 野	臨床国語科教育研究	1後			2				○		1					オムニバス・共同(一部)	
	臨床国語科教材開発研究	2前			2				○		1						オムニバス・共同(一部)
	臨床国語科内容学研究	1後			2				○		1						オムニバス・共同(一部)
	臨床社会科教育研究	1後			2				○		1						オムニバス・共同(一部)
	臨床社会科教材開発研究	2前			2				○		1						オムニバス・共同(一部)
	臨床社会科内容学研究	1後			2				○		1						オムニバス・共同(一部)
	臨床理科教育研究	1後			2				○			1					オムニバス・共同(一部)
	臨床数学科教育研究	1後			2				○		1						オムニバス・共同(一部)
	臨床数学科教材開発研究	2前			2				○		1						オムニバス・共同(一部)
	臨床数学科内容学研究	1後			2				○		1						オムニバス・共同(一部)
	臨床保健体育科教育研究	1後			2				○		1						オムニバス・共同(一部)
	臨床保健体育科教材開発研究	2前			2				○		1						オムニバス・共同(一部)
	臨床保健体育科内容学研究	1後			2				○		1						オムニバス・共同(一部)
	臨床技術科教育研究	1後			2				○		1						オムニバス・共同(一部)
	臨床技術科教材開発研究	2前			2				○		1						オムニバス・共同(一部)
	臨床技術科内容学研究	1後			2				○		1						オムニバス・共同(一部)
	臨床家庭科教育研究	1後			2				○		1						オムニバス・共同(一部)
	臨床家庭科教材開発研究	2前			2				○		1						オムニバス・共同(一部)
	臨床家庭科内容学研究	1後			2				○		1						オムニバス・共同(一部)
小計(19科目)	—		0	38	0		—		6	1	0	0	0	0			
合計(37科目)		—		10	60	0		—		10	4	0	0	0	0		

学位又は称号	博士（教育学）	学位又は学科の分野	教育学・保育学関係
卒業・修了要件及び履修方法			授業期間等
本共同専攻の標準修業年限は3年であるが、特に優れた研究業績をあげた者にあつては修了年限の短縮も可能である。 修了に必要な取得単位数は20単位以上とし、課題研究科目は6単位、共通科目は8単位、分野科目は6単位以上である。 なお、分野科目は選択必修科目から6単位以上を取得する必要があるが、分野・領域を超えた履修も可能である。 本共同専攻は、必要な研究指導を受けて作成した学位論文の審査及び論文の内容や専門分野に関する最終試験に合格することを修了要件として課す。なお、学位論文の提出要件は、本共同専攻内の申し合わせに基づくものとする。		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業の標準時間	90分

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(北海道教育大学大学院教育学研究科共同学校教育学専攻)																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員			
課題研究科目	発達教育学科学特別研究Ⅰ	1通			2			○		5	4					共同		
	発達教育学科学特別研究Ⅱ	2通			2			○		5	4					共同		
	発達教育学科学特別研究Ⅲ	3通			2			○		5	4					共同		
	小計（3科目）	—		0	6	0		—		5	4	0	0	0	0			
	教科学特別研究Ⅰ	1通			2			○		10	2	1				共同		
	教科学特別研究Ⅱ	2通			2			○		10	2	1				共同		
教科学特別研究Ⅲ	3通			2			○		10	2	1				共同			
小計（3科目）	—		0	6	0		—		10	2	1	0	0	0	0			
共通科目	学校教育学原論Ⅰ	1前		1			○			2						オムニバス・共同（一部）		
	学校教育学原論Ⅱ	1後			1		○			1	1					オムニバス・共同（一部）		
	教育臨床参画研究Ⅰ	1後			1			○		2						オムニバス・共同（一部）		
	教育臨床参画研究Ⅱ	2前			1			○		2						オムニバス・共同（一部）		
	教員養成学開発論	2前			2		○			1	1					オムニバス		
	教員養成学臨床研究	2後			2			○			1					オムニバス・共同（一部）		
	小計（6科目）	—			8	0	0		—		4	2	0	0	0	0		
分野科目	地域教育課題研究	1前		2				○		1						オムニバス・共同（一部）		
	小計（1科目）	—			2	0	0		—		1	0	0	0	0	0		
	人間発達理解研究	1後			2			○			1					オムニバス		
	人間発達支援研究Ⅰ	1後			2			○		1						オムニバス・共同（一部）		
	人間発達支援研究Ⅱ	2前			2			○			1					オムニバス・共同（一部）		
	キャリア支援研究	2前			2			○			1					オムニバス・共同（一部）		
	小計（4科目）	—		0	8	0		—		1	3	0	0	0	0	0		
	教育方法学研究	1後			2			○			1						オムニバス	
	特別支援教育研究	2前			2			○		1						オムニバス		
	小計（2科目）	—		0	4	0		—		1	1	0	0	0	0	0		
	学校コミュニティ支援研究	1後			2			○		1							オムニバス	
	教員キャリア・研修マネジメント研究	2前			2			○		1						オムニバス・共同（一部）		
	小計（2科目）	—		0	4	0		—		2	0	0	0	0	0	0		
	臨床教科学分野	臨床国語科教育研究	1後			2			○			1						オムニバス・共同（一部）
		臨床国語科教材開発研究	2前			2			○		1	1						オムニバス・共同（一部）
臨床国語科内容学研究		1後			2			○		1	1						オムニバス・共同（一部）	
臨床英語科教育研究		1後			2			○		1							共同	
臨床英語科教材開発研究		2前			2			○		1							共同	
臨床英語科内容学研究		1後			2			○		1							共同	
臨床社会科教材開発研究		2前			2			○		1							オムニバス・共同（一部）	
臨床社会科内容学研究		1後			2			○		1							オムニバス・共同（一部）	
臨床理科教材開発研究		2前			2			○		1	1						オムニバス・共同（一部）	
臨床理科内容学研究		1後			2			○		1	1						オムニバス・共同（一部）	
臨床数学科教育研究		1後			2			○					1				オムニバス・共同（一部）	
臨床数学科教材開発研究		2前			2			○					1				オムニバス・共同（一部）	
臨床数学科内容学研究		1後			2			○					1				オムニバス・共同（一部）	
臨床美術科教育研究		1後			2			○		1							オムニバス・共同（一部）	
臨床美術科教材開発研究		2前			2			○		1							オムニバス・共同（一部）	
臨床美術科内容学研究		1後			2			○		1							オムニバス	
臨床保健体育科教育研究		1後			2			○		1							オムニバス・共同（一部）	
臨床保健体育科教材開発研究		2前			2			○		4							オムニバス・共同（一部）	
臨床保健体育科内容学研究		1後			2			○		4							オムニバス・共同（一部）	
臨床技術科教育研究		1後			2			○		1							オムニバス・共同（一部）	
臨床技術科教材開発研究		2前			2			○		1							オムニバス・共同（一部）	
臨床技術科内容学研究		1後			2			○		1							オムニバス・共同（一部）	
小計（22科目）	—		0	44	0		—		10	2	1	0	0	0	0			
合計（43科目）		—		10	72	0		—		15	6	1	0	0	0	0		

学位又は称号	博士（教育学）	学位又は学科の分野	教育学・保育学関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
本共同専攻の標準修業年限は3年であるが、特に優れた研究業績をあげた者にあつては修了年限の短縮も可能である。 修了に必要な取得単位数は20単位以上とし、課題研究科目は6単位、共通科目は8単位、分野科目は6単位以上である。 なお、分野科目は選択必修科目から6単位以上を取得する必要があるが、分野・領域を超えた履修も可能である。 本共同専攻は、必要な研究指導を受けて作成した学位論文の審査及び論文の内容や専門分野に関する最終試験に合格することを修了要件として課す。なお、学位論文の提出要件は、本共同専攻内の申し合わせに基づくものとする。		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業の標準時間	90分

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大阪教育大学大学院学校教育学研究科共同学校教育学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 (助手を 除く) 教員	
課題 研究 科目	発達教育科学特別研究Ⅰ	1通			2			○		9	6	1				共同
	発達教育科学特別研究Ⅱ	2通			2			○		9	6	1				共同
	発達教育科学特別研究Ⅲ	3通			2			○		9	6	1				共同
	小計（3科目）	—		0	6	0		—		9	6	1	0	0	0	
	教科学特別研究Ⅰ	1通			2			○		6	5					共同
野 臨床 教 科 学 分 野	教科学特別研究Ⅱ	2通			2			○		6	5					共同
	教科学特別研究Ⅲ	3通			2			○		6	5					共同
	小計（3科目）	—		0	6	0		—		6	5	0	0	0	0	
	学校教育学原論Ⅰ	1前		1			○				2	1				オムニバス・共同（一部）
	学校教育学原論Ⅱ	1後		1			○			1	2	1				オムニバス・共同（一部）
共 通 科 目	教育臨床参画研究Ⅰ	1後		1				○		1	1					オムニバス・共同（一部）
	教育臨床参画研究Ⅱ	2前		1				○		1	1					オムニバス・共同（一部）
	教員養成学開発論	2前		2			○			1	1					オムニバス
	教員養成学臨床研究	2後		2				○		1	1					オムニバス・共同（一部）
	小計（6科目）	—		8	0	0		—		3	4	1	0	0	0	
分 野 科 目	地域教育課題研究	1前		2				○		1	1					オムニバス・共同（一部）
	小計（1科目）	—		2	0	0		—		1	1	0	0	0	0	
	人間発達理解研究	1後			2			○			1	1				オムニバス
	人間発達支援研究Ⅰ	1後			2			○		1						オムニバス・共同（一部）
	人間発達支援研究Ⅱ	2前			2			○		2						オムニバス・共同（一部）
分 野 臨 床 ／ 発 達 支 援 研 究 科 学 分 野	学習認知研究	2前			2			○			1	1				オムニバス・共同（一部）
	小計（4科目）	—		0	8	0		—		3	1	1	0	0	0	
	教育方法学研究	1後			2			○			2					オムニバス
	教育DX研究	2前			2			○		3					1	オムニバス・共同（一部）
	特別支援教育研究	2前			2			○		2						オムニバス
分 野 臨 床 ／ 教 育 実 践 研 究 科 学 分 野	小計（3科目）	—		0	6	0		—		5	2	0	0	0	1	
	学校安全研究	2前			2			○		2						オムニバス・共同（一部）
	学校コミュニティ支援研究	1後			2			○		1	1					オムニバス
	教育データサイエンス研究	1後			2			○			1					オムニバス・共同（一部）
	教員キャリア・研修マネジメント研究	2前			2			○			1					オムニバス・共同（一部）
学 校 支 援 研 究 科 学 分 野	小計（4科目）	—		0	8	0		—		2	3	0	0	0	0	
	臨床英語科教育研究	1後			2			○			1					共同
	臨床英語科教材開発研究	2前			2			○			1					共同
	臨床英語科内容学研究	1後			2			○			1					共同
	臨床社会科教育研究	1後			2			○		1						オムニバス・共同（一部）
臨 床 教 科 学 分 野	臨床社会科教材開発研究	2前			2			○		1						オムニバス・共同（一部）
	臨床社会科内容学研究	1後			2			○		1						オムニバス・共同（一部）
	臨床理科教育研究	1後			2			○		1						オムニバス・共同（一部）
	臨床理科教材開発研究	2前			2			○		1						オムニバス・共同（一部）
	臨床理科内容学研究	1後			2			○		2						オムニバス・共同（一部）
	臨床数学科教育研究	1後			2			○		1						オムニバス・共同（一部）
	臨床数学科教材開発研究	2前			2			○		1						オムニバス・共同（一部）
	臨床数学科内容学研究	1後			2			○		1						オムニバス・共同（一部）
	臨床情報科教育研究	1後			2			○		2						オムニバス・共同（一部）
	臨床情報科教材開発研究	1後			2			○		2						オムニバス・共同（一部）
	臨床情報科内容学研究	2前			2			○		2						オムニバス・共同（一部）
	臨床音楽科教育研究	1後			2			○			1					オムニバス・共同（一部）
	臨床音楽科教材開発研究	2前			2			○			1					オムニバス・共同（一部）
	臨床音楽科内容学研究	1後			2			○			1					オムニバス・共同（一部）
	臨床美術科教育研究	1後			2			○			1					オムニバス・共同（一部）
	臨床美術科教材開発研究	2前			2			○			1					オムニバス・共同（一部）
	臨床美術科内容学研究	1後			2			○			1					オムニバス

	臨床保健体育科教育研究	1後		2			○		2					オムニバス・共同（一部）
	臨床保健体育科教材開発研究	2前		2			○		2					オムニバス・共同（一部）
	臨床保健体育科内容学研究	1後		2			○		2					オムニバス・共同（一部）
	臨床家庭科教育研究	1後		2			○	1						オムニバス・共同（一部）
	臨床家庭科教材開発研究	2前		2			○	1						オムニバス・共同（一部）
	臨床家庭科内容学研究	1後		2			○	1						オムニバス・共同（一部）
	小計（27科目）	—		0	54	0	—	7	5	0	0	0	0	
合計（51科目）		—		10	88	0	—	15	11	1	0	0	1	
学位又は称号		博士（教育学）			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係						
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等						
本共同専攻の標準修業年限は3年であるが、特に優れた研究業績をあげた者にあつては修了年限の短縮も可能である。 修了に必要な取得単位数は20単位以上とし、課題研究科目は6単位、共通科目は8単位、分野科目は6単位以上である。 なお、分野科目は選択必修科目から6単位以上を取得する必要があるが、分野・領域を超えた履修も可能である。 本共同専攻は、必要な研究指導を受けて作成した学位論文の審査及び論文の内容や専門分野に関する最終試験に合格することを修了要件として課す。なお、学位論文の提出要件は、本共同専攻内の申し合わせに基づくものとする。								1 学年の学期区分				2期		
								1 学期の授業期間				15週		
								1 時限の授業の標準時間				90分		

（注）

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要 （ 共 同 学 科 等 ）					
（北海道教育大学大学院教育学研究科共同学校教育学専攻・大阪教育大学大学院学校教育学研究科共同学校教育学専攻・福岡教育大学大学院教育学研究科共同学校教育学専攻）					
科目 区分	開設大学	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題 研究 科目	臨床 発達 教育 科学 分野	北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学	発達教育科学特別研究Ⅰ	臨床発達教育科学に係る学位論文作成に向けて、「学校教育学」の研究領域としての位置づけに基づき、研究課題を明確化する。また、研究課題に関する先行研究を整理するとともに、研究方法に関する知見を活かして研究構想を具体化する。 (8 川前 あゆみ) へき地・小規模校教育に関する研究指導を行う。 (9 杉本 任士) 行動分析学の方法論を用いた学校、学年・学級経営の改善に関する研究指導を行う。 (11 片桐 正敏) 発達障害のある人、ギフテッドなど特別な教育的ニーズを持つ子どもに対して、基礎研究（認知神経科学）及び心理アセスメントから臨床発達支援に結びつける研究指導を行う。 (13 姫野 完治) 教育工学、特に教師の発達過程の解明とそれに基づく教育・研修方法の開発に関する研究指導を行う。 (14 木村 育恵) 教育社会学、特に教員育成政策及び教員のキャリア形成、教員世界におけるジェンダーに関する研究指導を行う。 (42 小林 淳一) 教員養成・教職志望者・教師の資質能力に関する研究指導を行う。 (43 半澤 礼之) 教育心理学、特に青年期・成人期のキャリア形成に関する研究指導を行う。 (45 齋藤 暢一朗) 不登校・ひきこもり支援、虐待やいじめ等のトラウマケアを含む学校メンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (47 水野 君平) いじめ、学校適応、友人グループ、学級風土、子どものメンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (16 水野 治久) 不登校児童生徒の支援、いじめ被害児童生徒の支援方法及び予防方法、子ども・保護者・教師の援助要請の視点からのチーム学校のあり方に関する研究、学校コミュニティの支援に関する研究指導を行う。 (18 大内田 裕) 認知・運動機能障害に対して脳科学の知見を利用した機能改善手法の開発に関する研究指導を行う。 (19 後藤 健介) 安全教育学、特に自然災害科学、公衆衛生学、防災教育、環境教育に関する研究指導を行う。 (20 小松 孝至) 発達心理学、教育心理学、特に幼児期、児童期の社会的発達（コミュニケーション、自己の発達）に関する研究指導を行う。 (22 高橋 登) 発達心理学、教育心理学、特に子どもの読み書きの発達とつまづきの支援、子どもの文化的発達に関する研究指導を行う。 (23 寺嶋 浩介) 教育工学、特に教師教育、教育方法、教員研修、メディア教育、ICT活用、情報教育に関する研究指導を行う。 (24 豊沢 純子) 教育心理学、社会心理学、特に防災教育、防犯教育に関する心理学研究指導を行う。 (25 仲矢 史雄) 科学教育、生物科学、特に科学技術コミュニケーション、教育評価方法、ICT・AI活用に関する研究指導を行う。 (26 平賀 健太郎) 特別支援教育、特に病弱教育、病弱児、院内学級、復学支援に関する研究指導を行う。 (50 田中 真秀) 教育学、特に学校経営（チーム学校、学校財務）、教育行財政学、教師教育、教育制度、学校教育（コミュニティスクール：家庭・地域との連携）に関する研究指導を行う。 (51 寺坂 明子) 臨床心理学、学校心理学、特に予防的心理教育、問題行動を起こりにくくする学級経営法に関する研究指導を行う。 (52 庭山 和貴) 教育心理学、特別支援教育、応用行動分析、ポジティブ行動支援に関する研究指導を行う。 (54 八田 幸恵) カリキュラム論、教育評価論、教師の力量形成論に関する研究指導を行う。 (55 吉田 茂孝) 教育方法学・インクルーシブ教育、特に授業づくり、学級づくり、教授学、学習集団、教育実践に関する研究指導を行う。 (57 渡邊 創太) 認知科学・学習心理学の応用（特に学習指導、教師自身の認知）に関する研究指導を行う。 (64 森 兼隆) 認知心理学、教育心理学、特に学習活動の認知過程の理解、効果的な学習支援、有意義学習・深い学びに関する研究指導を行う。 (3 坂井 清隆) 授業実践（単元展開及び授業展開）における学習者の認知・非認知の変容を、質的アプローチ（授業分析、様相一解的的分析など）を用いて明らかにし、個々の学習者理解を深めつつ、個に応じた学習指導の方法と自律的な学習を促す評価に関する研究指導を行う。 (32 西山 久子) 校内適応指導教室利用生徒のキャリア発達の促進に関する研究、中等教育における一次支援としてのキャリアカウンセリングの展開に関する研究、教育相談コーディネーターの専門的力量的形成に関する研究指導を行う。 (33 相澤 宏充) 聴覚障害児に関する研究、学齢期の言語の発達・教育に関する研究指導を行う。 (4 見上 昌睦) 言語障害のある子どもの教育的支援に関する研究（学校教育期を中心にライフステージを通しての指導・支援、通常の学級における支援）、吃音・流暢性障害に関する研究指導を行う。 (36 一木 薫) 自立活動の理論、特別支援教育における教師の専門性、特別支援学校のカリキュラム評価に関する研究指導を行う。 (59 川口 俊明) 学力調査をはじめとする各種の調査（質問調査等の計量的分析はもちろん、インタビュー・参与観察等の質的調査も含む）を利用し、教育の不平等の実態把握およびその改善策を明らかにする研究指導を行う。 (62 山田 洋平) 1次の援助サービスにおける社会性と情動の学習を中心とした心理学的介入に関する研究指導を行う。	共同

課題研究科目	臨床発達教育科学分野	北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学	発達教育科学特別研究Ⅱ	臨床発達教育科学に係る学位論文作成に向けて、研究仮説と研究方法を構築する。また、臨床的研究の位置づけに基づき、学校現場での検証、データ収集、分析等を通して仮説検証を行い、エビデンスをもって課題の解決に向けた主張を構成する。さらに、各自の研究の成果については、共同ネットワークラボの活動を通して共有・意見交換を行い、今後の研究の方向性に対する示唆を得る。 (8 川前 あゆみ) へき地・小規模校教育に関する研究指導を行う。 (9 杉本 任士) 行動分析学の方法論を用いた学校、学年・学級経営の改善に関する研究指導を行う。 (11 片桐 正敏) 発達障害のある人、ギフテッドなど特別な教育的ニーズを持つ子どもに対して、基礎研究(認知神経科学)及び心理アセスメントから臨床発達支援に結びつける研究指導を行う。 (13 姫野 完治) 教育工学、特に教師の発達過程の解明とそれに基づく教育・研修方法の開発に関する研究指導を行う。 (14 木村 育恵) 教育社会学、特に教員育成政策及び教員のキャリア形成、教員世界におけるジェンダーに関する研究指導を行う。 (42 小林 淳一) 教員養成・教職志望者・教師の資質能力に関する研究指導を行う。 (43 半澤 礼之) 教育心理学、特に青年期・成人期のキャリア形成に関する研究指導を行う。 (45 齋藤 暢一郎) 不登校・ひきこもり支援、虐待やいじめ等のトラウマケアを含む学校メンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (47 水野 君平) いじめ、学校適応、友人グループ、学級風土、子どものメンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (16 水野 治久) 不登校児童生徒の支援、いじめ被害児童生徒の支援方法及び予防方法、子ども・保護者・教師の援助要請の視点からのチーム学校のあり方に関する研究、学校コミュニティの支援に関する研究指導を行う。 (18 大内田 裕) 認知・運動機能障害に対して脳科学の知見を利用した機能改善手法の開発に関する研究指導を行う。 (19 後藤 健介) 安全教育学、特に自然災害科学、公衆衛生学、防災教育、環境教育に関する研究指導を行う。 (20 小松 孝至) 発達心理学、教育心理学、特に幼児期、児童期の社会的発達(コミュニケーション、自己の発達)に関する研究指導を行う。 (22 高橋 登) 発達心理学、教育心理学、特に子どもの読み書きの発達とつまづきの支援、子どもの文化的発達に関する研究指導を行う。 (23 寺嶋 浩介) 教育工学、特に教師教育、教育方法、教員研修、メディア教育、ICT活用、情報教育に関する研究指導を行う。 (24 豊沢 純子) 教育心理学、社会心理学、特に防災教育、防犯教育に関する心理学研究指導を行う。 (25 仲矢 史雄) 科学教育、生物科学、特に科学技術コミュニケーション、教育評価方法、ICT・AI活用に関する研究指導を行う。 (26 平賀 健太郎) 特別支援教育、特に病弱教育、病弱児、院内学級、復学支援に関する研究指導を行う。 (50 田中 真秀) 教育学、特に学校経営(チーム学校、学校財務)、教育行財政学、教師教育、教育制度、学校教育(コミュニティスクール：家庭・地域との連携)に関する研究指導を行う。 (51 寺坂 明子) 臨床心理学、学校心理学、特に予防的心理教育、問題行動を起こりにくくする学級経営法に関する研究指導を行う。 (52 庭山 和貴) 教育心理学、特別支援教育、応用行動分析、ポジティブ行動支援に関する研究指導を行う。 (54 八田 幸恵) カリキュラム論、教育評価論、教師の力量形成論に関する研究指導を行う。 (55 吉田 茂孝) 教育方法学・インクルーシブ教育、特に授業づくり、学級づくり、教授学、学習集団、教育実践に関する研究指導を行う。 (57 渡邊 創太) 認知科学・学習心理学の応用(特に学習指導、教師自身の認知)に関する研究指導を行う。 (64 森 兼隆) 認知心理学、教育心理学、特に学習活動の認知過程の理解、効果的な学習支援、意味学習・深い学びに関する研究指導を行う。 (3 坂井 清隆) 授業実践(単元展開及び授業展開)における学習者の認知・非認知の姿容を、質的アプローチ(授業分析、様相一解釈的分析など)を用いて明らかにし、個々の学習者理解を深めつつ、個に応じた学習指導の方法と自律的な学習を促す評価に関する研究指導を行う。 (32 西山 久子) 校内適応指導教室利用生徒のキャリア発達の促進に関する研究、中等教育における一次支援としてのキャリアアカウンティングの展開に関する研究、教育相談コーディネーターの専門的力量的形成に関する研究指導を行う。 (33 相澤 宏充) 聴覚障害児に関する研究、学齢期の言語の発達・教育に関する研究指導を行う。 (4 見上 昌睦) 言語障害のある子どもの教育的支援に関する研究(学校教育期を中心にライフステージを通しての指導・支援、通常の学級における支援)、吃音・流暢性障害に関する研究指導を行う。 (36 一木 薫) 自立活動の理論、特別支援教育における教師の専門性、特別支援学校のカリキュラム評価に関する研究指導を行う。 (59 川口 俊明) 学力調査をはじめとする各種の調査(質問調査等の計量的分析はもちろん、インタビュー・参与観察等の質的調査も含む)を利用し、教育の不平等の実態把握およびその改善策を明らかにする研究指導を行う。 (62 山田 洋平) 1次的援助サービスにおける社会性と情動の学習を中心とした心理学的介入に関する研究指導を行う。	共同
--------	------------	-----------------------	-------------	---	----

課題研究科目	臨床発達教育科学分野	北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学	発達教育科学特別研究Ⅲ		臨床発達教育科学に係る学位論文作成に向けて、収集したデータや検証の分析・考察を通して、臨床的研究としての研究成果を明確化する。また、これまでの研究の取り組みを、研究の背景、研究仮説や研究方法の構築、データ分析や検証の結果と考察等の観点から、学術的な研究成果としてまとめる。必要に応じて、各自の研究の成果を共同ネットワークラボの活動を通して共有しながら研究成果のまとめを行う。 (8 川前 あゆみ) へき地・小規模校教育に関する研究指導を行う。 (9 杉本 任士) 行動分析学の方法論を用いた学校、学年・学級経営の改善に関する研究指導を行う。 (11 片桐 正敏) 発達障害のある人、ギフテッドなど特別な教育的ニーズを持つ子どもに対して、基礎研究（認知神経科学）及び心理アセスメントから臨床発達支援に結びつける研究指導を行う。 (13 姫野 完治) 教育工学，特に教師の発達過程の解明とそれに基づく教育・研修方法の開発に関する研究指導を行う。 (14 木村 育恵) 教育社会学，特に教員育成政策及び教員のキャリア形成、教員世界におけるジェンダーに関する研究指導を行う。 (42 小林 淳一) 教員養成・教職志望者・教師の資質能力に関する研究指導を行う。 (43 半澤 礼之) 教育心理学，特に青年期・成人期のキャリア形成に関する研究指導を行う。 (45 齋藤 暢一郎) 不登校・ひきこもり支援、虐待やいじめ等のトラウマケアを含む学校メンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (47 水野 君平) いじめ、学校適応、友人グループ、学級風土、子どものメンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (16 水野 治久) 不登校児童生徒の支援、いじめ被害児童生徒の支援方法及び予防方法、子ども・保護者・教師の援助要請の視点からのチーム学校のあり方に関する研究、学校コミュニティの支援に関する研究指導を行う。 (18 大内田 裕) 認知・運動機能障害に対して脳科学の知見を利用した機能改善手法の開発に関する研究指導を行う。 (19 後藤 健介) 安全教育学，特に自然災害科学，公衆衛生学，防災教育，環境教育に関する研究指導を行う。 (20 小松 孝至) 発達心理学，教育心理学，特に幼児期，児童期の社会的発達（コミュニケーション、自己の発達）に関する研究指導を行う。 (22 高橋 登) 発達心理学，教育心理学，特に子どもの読み書きの発達とつまづきの支援，子どもの文化的発達に関する研究指導を行う。 (23 寺嶋 浩介) 教育工学，特に教師教育，教育方法，教員研修，メディア教育，ICT活用，情報教育に関する研究指導を行う。 (24 豊沢 純子) 教育心理学，社会心理学，特に防災教育，防犯教育に関する心理学研究指導を行う。 (25 仲矢 史雄) 科学教育，生物科学，特に科学技術コミュニケーション，教育評価方法，ICT・AI活用に関する研究指導を行う。 (26 平賀 健太郎) 特別支援教育，特に病弱教育，病弱児，院内学級，復学支援に関する研究指導を行う。 (50 田中 真秀) 教育学，特に学校経営（チーム学校，学校財務），教育行財政学，教師教育，教育制度，学校教育（コミュニティスクール：家庭・地域との連携）に関する研究指導を行う。 (51 寺坂 明子) 臨床心理学，学校心理学，特に予防的心理教育，問題行動を起こりにくくする学級経営法に関する研究指導を行う。 (52 庭山 和貴) 教育心理学，特別支援教育，応用行動分析，ポジティブ行動支援に関する研究指導を行う。 (54 八田 幸恵) カリキュラム論，教育評価論，教師の力量形成論に関する研究指導を行う。 (55 吉田 茂孝) 教育方法学・インクルーシブ教育，特に授業づくり，学級づくり，教授学，学習集団，教育実践に関する研究指導を行う。 (57 渡邊 創太) 認知科学・学習心理学の応用（特に学習指導，教師自身の認知）に関する研究指導を行う。 (64 森 兼隆) 認知心理学，教育心理学，特に学習活動の認知過程の理解，効果的な学習支援，意味学習・深い学びに関する研究指導を行う。 (3 坂井 清隆) 授業実践（単元展開及び授業展開）における学習者の認知・非認知の姿容を、質的アプローチ（授業分析、様相－解釈的分析など）を用いて明らかにし、個々の学習者理解を深めつつ、個に応じた学習指導の方法と自律的な学習を促す評価に関する研究指導を行う。 (32 西山 久子) 校内適応指導教室利用生徒のキャリア発達の促進に関する研究、中等教育における一次支援としてのキャリアカウンセリングの展開に関する研究、教育相談コーディネーターの専門的力の形成に関する研究指導を行う。 (33 相澤 宏充) 聴覚障害児に関する研究，学齢期の言語の発達・教育に関する研究指導を行う。 (4 見上 昌睦) 言語障害のある子どもの教育的支援に関する研究（学校教育期を中心にライフステージを通しての指導・支援，通常の学級における支援），吃音・流暢性障害に関する研究指導を行う。 (36 一木 薫) 自立活動の理論，特別支援教育における教師の専門性，特別支援学校のカリキュラム評価に関する研究指導を行う。 (59 川口 俊明) 学力調査をはじめとする各種の調査（質問調査等の計量的分析はもちろん，インタビュー・参与観察等の質的調査も含む）を利用し，教育の不平等の実態把握およびその改善策を明らかにする研究指導を行う。 (62 山田 洋平) 1次の援助サービスにおける社会性と情動の学習を中心とした心理学的介入に関する研究指導を行う。	共同
--------	------------	-----------------------	-------------	--	--	----

課題 研究 科目	臨床 教科 学分 野	北海道教育大学・ 大阪教育 大学・福 岡教育大 学	教科学特別研究Ⅰ	臨床教科学に係る学位論文作成に向けて、「学校教育学」の研究領域としての位置づけに基づき、研究課題を明確化する。また、研究課題に関する先行研究を整理するとともに、研究方法に関する知見を活かして研究構想を具体化する。 (1) 神林 勲) 子どもの健康および体力・運動能力に関する研究指導を行う。 (2) 笠原 究) 第二言語習得に関する研究指導を行う。 (3) 藤川 聡) 教育方法、評価、特に技術科の教材開発と指導と評価の在り方、達成動機付けの原因帰属と教訓帰納に基づく認知カウンセリングに関する研究指導を行う。 (4) 尾関 俊浩) 雪氷物理学に関する研究、特に雪害科学に関する研究や、雪崩ユース教育に関する研究指導を行う。 (5) 大橋 賢一) 漢字漢文教育に関する研究指導を行う。 (6) 李 知恩) 美術、特にデザイン、美術鑑賞、感性評価に関する研究指導を行う。 (7) 板谷 厚) 運動の発達と学習の過程の解明、及びそれに基づく運動指導に関する研究指導を行う。 (10) 中島 寿宏) 保健体育科教育学、教育心理学、特に体育・保健体育における教師と児童生徒のコミュニケーションにおける心理的作用に関する研究指導を行う。 (12) 森田 憲輝) 子どもの学力・認知機能と体力・体格との関係に関する研究(認知科学・生理学・疫学的研究)指導を行う。 (15) 津田 拓郎) 外国史、特に西洋中世史や中世グローバル・ヒストリーに関する研究指導を行う。 (44) 小山 耕平) 理科教育、特に植物生態学と森林生態学および生物野外計測に関する研究指導を行う。 (46) 幸坂 健太郎) 国語科教育の授業方法、論理的思考力育成に関する研究指導を行う。 (63) 大滝 孝治) 教授人間学理論(ATD)に基づく学校数学教育に関する研究指導を行う。 (17) 碓田 智子) 家政学、生活科学、特に住環境学、住生活学、住まい・まちづくり学習に関する研究指導を行う。 (1) 鈴木 剛) 生物学、特に植物分子遺伝学・植物育種学・染色体工学に関する研究指導を行う。 (27) 町頭 義朗) 幾何学、特にリーマン幾何学、離散幾何学、微分可能多様体に関する研究指導を行う。 (2) 三島 和宏) 情報工学、特に情報システム、ネットワークの視点を用いた、情報教育、ICT活用教育に関する研究指導を行う。 (29) 峯 明秀) 教育学、教科教育学、教育方法及び社会科教育に関する研究指導を行う。 (30) 吉本 直弘) 科学教育、教科教育(地学教育・理科教育)、気象学、防災教育の視点を用いた、理科教育学に関する研究指導を行う。 (48) 石川 美久) スポーツ科学、特にコーチング、武道、柔道、安全教育に関する研究指導を行う。 (49) 兼平 佳枝) コミュニケーション、共感、音楽的思考等を視点とした音楽教育実践学に関する研究指導を行う。 (53) 橋本 健一) 第二言語習得、心理言語学の視点に基づく英語教育学に関する研究指導を行う。 (55) 林 洋輔) メタ体育学、体育・スポーツ哲学、哲学の方法・視点を用いた保健体育学研究、単元「体育理論」の諸問題に関する研究指導を行う。 (58) 渡邊 美香) 子どもの表現・鑑賞、図画工作科・美術科の教科教育学に関する研究指導を行う。 (3) 坂井 清隆) シティズンシップ教育実践を中心に各教科等での教育実践における質的な授業研究(授業分析)及び学習評価に関する研究指導を行う。 (37) 青山 之典) テクスト研究、学習者研究に焦点をあてた読解指導論構築に関する研究指導を行う。 (38) 本多 壮太郎) 知識の構造化とその活用を図る体育科・保健体育科学習指導に関する研究、反転授業を取り入れた体育科・保健体育科学習指導に関する研究指導を行う。 (39) 大内 毅) 科学教育、特に初等・中等教育における科学的・工学的アプローチを基軸としたSTEAM型ものづくりに関する研究指導を行う。 (40) 貴志 倫子) 責任ある生活者育成のための初等中等家庭科のカリキュラム、授業研究、学習指導、教師教育に関する研究指導を行う。 (41) 有元 康一) 数学科教育学および代数学・数学基礎に関する研究、特に、算数・数学科における学習指導、教材開発、またその背景となる、数論、離散数学、計算機数学、数学史に関する研究指導を行う。	共同
----------------	---------------------	---------------------------------------	----------	---	----

課題 研究 科目	臨床 教科 学分 野	北海道教育大学・ 大阪教育大学・福 岡教育大学	教科学特別研究Ⅱ	臨床教科学に係る学位論文作成に向けて、研究仮説と研究方法を構築する。また、臨床的研究の位置づけに基づき、学校現場での検証、データ収集、分析等を通して仮説検証を行い、エビデンスをもって課題の解決に向けた主張を構成する。さらに、各自の研究の成果については、共同ネットワークラボの活動を通して共有・意見交換を行い、今後の研究の方向性に対する示唆を得る。 (1) 神林 勲) 子どもの健康および体力・運動能力に関する研究指導を行う。 (2) 笠原 究) 第二言語習得に関する研究指導を行う。 (3) 藤川 聡) 教育方法、評価、特に技術科の教材開発と指導と評価の在り方、達成動機付けの原因帰属と教訓帰納に基づく認知カウンセリングに関する研究指導を行う。 (4) 尾関 俊浩) 雪氷物理学に関する研究、特に雪害科学に関する研究や、雪崩ユース教育に関する研究指導を行う。 (5) 大橋 賢一) 漢字漢文教育に関する研究指導を行う。 (6) 李 知恩) 美術、特にデザイン、美術鑑賞、感性評価に関する研究指導を行う。 (7) 板谷 厚) 運動の発達と学習の過程の解明、及びそれに基づく運動指導に関する研究指導を行う。 (10) 中島 寿宏) 保健体育科教育学、教育心理学、特に体育・保健体育における教師と児童生徒のコミュニケーションにおける心理的作用に関する研究指導を行う。 (12) 森田 憲輝) 子どもの学力・認知機能と体力・体格との関係に関する研究(認知科学・生理学・疫学的研究)指導を行う。 (15) 津田 拓郎) 外国史、特に西洋中世史や中世グローバル・ヒストリーに関する研究指導を行う。 (44) 小山 耕平) 理科教育、特に植物生態学と森林生態学および生物野外計測に関する研究指導を行う。 (46) 幸坂 健太郎) 国語科教育の授業方法、論理的思考力育成に関する研究指導を行う。 (63) 大滝 孝治) 教授人間学理論(ATD)に基づく学校数学教育に関する研究指導を行う。 (17) 碓田 智子) 家政学、生活科学、特に住環境学、住生活学、住まい・まちづくり学習に関する研究指導を行う。 (1) 鈴木 剛) 生物学、特に植物分子遺伝学・植物育種学・染色体工学に関する研究指導を行う。 (27) 町頭 義朗) 幾何学、特にリーマン幾何学、離散幾何学、微分可能多様体に関する研究指導を行う。 (2) 三島 和宏) 情報工学、特に情報システム、ネットワークの視点をを用いた、情報教育、ICT活用教育に関する研究指導を行う。 (29) 峯 明秀) 教育学、教科教育学、教育方法及び社会科教育に関する研究指導を行う。 (30) 吉本 直弘) 科学教育、教科教育(地学教育・理科教育)、気象学、防災教育の視点をを用いた、理科教育学に関する研究指導を行う。 (48) 石川 美久) スポーツ科学、特にコーチング、武道、柔道、安全教育に関する研究指導を行う。 (49) 兼平 佳枝) コミュニケーション、共感、音楽的思考等を視点とした音楽教育実践学に関する研究指導を行う。 (53) 橋本 健一) 第二言語習得、心理言語学の視点に基づく英語教育学に関する研究指導を行う。 (55) 林 洋輔) メタ体育学、体育・スポーツ哲学、哲学の方法・視点をを用いた保健体育学研究、単元「体育理論」の諸問題に関する研究指導を行う。 (58) 渡邊 美香) 子どもの表現・鑑賞、図画工作科・美術科の教科教育学に関する研究指導を行う。 (3) 坂井 清隆) シティズンシップ教育実践を中心に各教科等での教育実践における質的な授業研究(授業分析)及び学習評価に関する研究指導を行う。 (37) 青山 之典) テキスト研究、学習者研究に焦点をあてた読解指導論構築に関する研究指導を行う。 (38) 本多 壮太郎) 知識の構造化とその活用を図る体育科・保健体育科学学習指導に関する研究、反転授業を取り入れた体育科・保健体育科学学習指導に関する研究指導を行う。 (39) 大内 毅) 科学教育、特に初等・中等教育における科学的・工学的アプローチを基軸としたSTEAM型ものづくりに関する研究指導を行う。 (40) 貴志 倫子) 責任ある生活者育成のための初等中等家庭科のカリキュラム、授業研究、学習指導、教師教育に関する研究指導を行う。 (41) 有元 康一) 数学科教育学および代数学・数学基礎に関する研究、特に、算数・数学科における学習指導、教材開発、またその背景となる、数論、離散数学、計算機数学、数学史に関する研究指導を行う。	共同
----------------	---------------------	-------------------------------	----------	---	----

課題研究 科目	臨床 教科 学分 野	北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学	教科学特別研究Ⅲ	臨床教科学に係る学位論文作成に向けて、収集したデータや検証の分析・考察を通して、臨床的研究としての研究成果を明確化する。また、これまでの研究の取り組みを、研究の背景、研究仮説や研究方法の構築、データ分析や検証の結果と考察等の観点から、学術的な研究成果としてまとめる。必要に応じて、各自の研究の成果を共同ネットワークラボの活動を通して共有しながら研究成果のまとめを行う。 (1) 神林 勲) 子どもの健康および体力・運動能力に関する研究指導を行う。 (2) 笠原 究) 第二言語習得に関する研究指導を行う。 (3) 藤川 聡) 教育方法、評価、特に技術科の教材開発と評価の在り方、達成動機付けの原因帰属と教師帰属に基づく認知カウンセリングに関する研究指導を行う。 (4) 尾関 俊浩) 雪氷物理学に関する研究、特に雪害科学に関する研究や、雪崩コース教育に関する研究指導を行う。 (5) 大橋 賢一) 漢字漢文教育に関する研究指導を行う。 (6) 李 知恩) 美術、特にデザイン、美術鑑賞、感性評価に関する研究指導を行う。 (7) 板谷 厚) 運動の発達と学習の過程の解明、及びそれに基づく運動指導に関する研究指導を行う。 (10) 中島 寿宏) 保健体育科教育学、教育心理学、特に体育・保健体育における教師と児童生徒のコミュニケーションにおける心理的作用に関する研究指導を行う。 (12) 森田 憲輝) 子どもの学力・認知機能と体力・体格との関係に関する研究(認知科学・生理学・疫学的研究)指導を行う。 (15) 津田 拓郎) 外国史、特に西洋中世史や中世グローバル・ヒストリーに関する研究指導を行う。 (44) 小山 耕平) 理科教育、特に植物生態学と森林生態学および生物野外計測に関する研究指導を行う。 (46) 幸坂 健太郎) 国語科教育の授業方法、論理的思考力育成に関する研究指導を行う。 (63) 大滝 孝治) 教授人間学理論(ATD)に基づく学校数学教育に関する研究指導を行う。 (17) 碓田 智子) 家政学、生活科学、特に住環境学、住生活学、住まい・まちづくり学習に関する研究指導を行う。 (①) 鈴木 剛) 生物学、特に植物分子遺伝学・植物育種学・染色体工学に関する研究指導を行う。 (27) 町頭 義朗) 幾何学、特にリーマン幾何学、離散幾何学、微分可多様体に関する研究指導を行う。 (②) 三島 和宏) 情報工学、特に情報システム、ネットワークの視点を用いた、情報教育、ICT活用教育に関する研究指導を行う。 (29) 峯 明秀) 教育学、教科教育学、教育方法及び社会科教育に関する研究指導を行う。 (30) 吉本 直弘) 科学教育、教科教育(地学教育・理科教育)、気象学、防災教育の視点を用いた、理科教育学に関する研究指導を行う。 (48) 石川 美久) スポーツ科学、特にコーチング、武道、柔道、安全教育に関する研究指導を行う。 (49) 兼平 佳枝) コミュニケーション、共感、音楽的思考等を視点とした音楽教育実践学に関する研究指導を行う。 (63) 橋本 健一) 第二言語習得、心理言語学の視点に基づく英語教育学に関する研究指導を行う。 (55) 林 洋輔) メタ体育学、体育・スポーツ哲学、哲学の方法・視点を用いた保健体育学研究、単元「体育理論」の諸問題に関する研究指導を行う。 (58) 渡邊 美香) 子どもの表現・鑑賞、図画工作科・美術科の教科教育学に関する研究指導を行う。 (③) 坂井 清隆) シティズンシップ教育実践を中心に各教科等での教育実践における質的な授業研究(授業分析)及び学習評価に関する研究指導を行う。 (37) 青山 之典) テキスト研究、学習者研究に焦点をあてた読解指導論構築に関する研究指導を行う。 (38) 本多 壮太郎) 知識の構造化とその活用を図る体育科・保健体育科学習指導に関する研究、反転授業を取り入れた体育科・保健体育科学習指導に関する研究指導を行う。 (39) 大内 毅) 科学教育、特に初等・中等教育における科学的・工学的アプローチを基軸としたSTEAM型ものづくりに関する研究指導を行う。 (40) 貴志 倫子) 責任ある生活者育成のための初等中等家庭科のカリキュラム、授業研究、学習指導、教師教育に関する研究指導を行う。 (41) 有元 康一) 数学科教育学および代数学・数学基礎に関する研究、特に、算数・数学科における学習指導、教材開発、またその背景となる、数論、離散数学、計算機数学、数学史に関する研究指導を行う。	共同
------------	---------------------	-----------------------	----------	---	----

共通 科目	共通 科目	北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学	学校教育学原論Ⅰ		学校教育の諸課題の整理とその課題にどのようにアプローチするのかについて整理する。まず、学校教育の課題について、内外の文献から整理する。そしてその解決を促す臨床的研究について、教育学、心理学、教科教育学からアプローチする。 (オムニバス方式／全8回) (13 姫野 完治／1回)「教員養成の課題」を担当する。 (8 川前あゆみ／1回)「学校・地域・家庭の課題」を担当する。 (⑤ 吉田 茂孝／2回)「諸外国との比較から考える」「インクルーシブ教育の課題」を担当する。 (53 橋本 健一／1回)「教科教育・学力の課題(中等教育)」を担当する。 (64 森 兼隆／1回)「子どもの学習の課題(認知の観点から)」を担当する。 (③ 坂井 清隆／1回)「教科教育・学力の課題(初等教育)」を担当する。 (全員／1回)(共同)「臨床的研究からみた学校教育の諸課題」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
共通 科目	共通 科目	北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学	学校教育学原論Ⅱ		学校教育学原論Ⅰで整理した学校教育の諸課題について、臨床的研究の視点から整理する。受講生の一人ひとりの研究テーマを掘り下げるために、内外の学術雑誌を読み込み、その領域に対する研究を概観し、臨床的研究への方向性を明確にする。 (オムニバス方式／全8回) (43 半澤 礼之／1回)「子どもの適応の課題についての国内外の研究・政策動向：教育心理学の観点から」を担当する。 (9 杉本 任士／1回)「子どもの適応の課題についての国内外の研究・政策動向：行動分析学の観点から」を担当する。 (⑤ 吉田 茂孝／1回)「特別なニーズのある子どもの教育についての国内外の研究・政策動向：教育方法学の観点から」を担当する。 (23 寺嶋 浩介／1回)「研究テーマの展望的な検討の方法」を担当する。 (53 橋本 健一／1回)「教科教育、学力の課題についての国内外の研究・政策動向：英語教育の観点から」を担当する。 (64 森 兼隆／1回)「特別なニーズのある子どもの教育についての国内外の研究・政策動向」を担当する。 (59 川口 俊明／1回)「教科教育、学力の課題についての国内外の研究・政策動向：学力調査の観点から」を担当する。 (全員／1回)(共同)「授業進め方及び研究テーマの確認」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)

共通 科目	共通 科目	北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学	教育臨床参画研究Ⅰ	研究フィールドとしての学校現場へ参画する。そのためにまずは研究倫理，アクション・リサーチについての理解を深める。その後，学校現場で，臨床的な課題を観察する。その上で，院生が，自身の研究課題との関連を明確化するとともに，課題研究の構想に役立てることをめざす。研究フィールドは，派遣の現職教員においては勤務校，その他の学生は附属学校を想定する。 (オムニバス方式／全8回) (8 川前あゆみ／1回)「学校の課題に対する参画研究の実際」を担当する。 (16 水野 治久／1回)「学校教育の諸課題の整理とその課題にどのようにアプローチするのか」を担当する。 (16 水野 治久・57 渡邊 創太／1回) (共同)「広義のアクション・リサーチの方法」を担当する。 (8 川前あゆみ・14 木村 育恵・16 水野 治久・57 渡邊 創太・③ 坂井 清隆／5回) (共同)「臨床的参画の計画の発表会」，「臨床的参画」，「学校現場での参与観察・介入(参画)の中間発表」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
共通 科目	共通 科目	北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学	教育臨床参画研究Ⅱ	教育臨床参画研究Ⅰでの学校現場への参画を継続しながら，各自の研究課題を焦点化するとともに，臨床的研究としての研究構想を具体化する機会を設定する。そして，そのために，具体的に教育現場への参画研究を実施する。その研究成果をまとめる。 (オムニバス方式／全8回) (8 川前あゆみ／1回)「参画研究で学校の課題の捉え方」を担当する。 (14 木村 育恵／1回)「ジェンダー視点に基づく分析者のキャリア形成と臨床的参画研究」を担当する。 (16 水野 治久／1回)「授業の進行と教育臨床参画研究のシェアリング」を担当する。 (16 水野 治久・57 渡邊 創太／1回) (共同)「臨床的な視点のシェアリングと教育臨床参画研究Ⅱにおける参画計画」を担当する。 (8 川前あゆみ・14 木村 育恵・16 水野 治久・57 渡邊 創太・③ 坂井 清隆／4回) (共同)「臨床的参画」，「学校現場での臨床的参画研究のまとめの発表会」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

共通科目	共通科目	北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学	教員養成学開発論		教員養成への目的意識を向上させ、教員養成における今日的課題を理解するとともに、次世代における教員養成のあり方を探究する。教師教育、教員養成に関する学術的な知見を得ることによって、教員養成学を開発する基盤を構築する。 (オムニバス方式／全15回) (13 姫野 完治／3回)「教育の実践と理論の統合」,「成人の発達と教師の発達」,「専門職の学習と教師の学習」を担当する。 (42 小林 淳一／3回)「教師像の歴史的展開」,「地域社会ニーズと子どものニーズを踏まえた新しい教師像の開発」,「教員養成学部教員に必要な資質とその開発」を担当する。 (54 八田 幸恵／3回)「日本の教員養成制度の歴史的展開」,「教員養成の論点」,「教員養成と臨床的研究」を担当する。 (29 峯 明秀／3回)「初等・中等教員養成カリキュラムの構成原理」,「教職科目・教科専門・教科教育法の有機的連関」を担当する。 (60 兼安 章子／3回)「効果的な教育実習の時期・内容・形態」,「大学院における教員養成・現職教育のあり方」,「教員養成カリキュラムの効果検証」を担当する。	オムニバス方式
共通科目	共通科目	北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学	教員養成学臨床研究		大学教員のTA等を通して、教育学部・教職大学院等の学生に対する「教職課程コアカリキュラム」に係る科目の指導を経験し、教員養成大学の教員の専門性のあり方について学ぶ機会とする。現職教員の場合は学校現場や教育委員会で教員志望の学生を受け入れている場面でのTAを体験する。また、自らの課題研究の成果の教員養成や教員研修への活用を考察することを通して、各自の課題研究の、教員養成学を内包する学校教育学としての位置付けを明確化させる。 (オムニバス方式／全15回) (29 峯 明秀／2回)「教育養成場面の課題のまとめとTA体験のリフレクション」,「振り返りの発表「教員養成の課題と今後の展望」」を担当する。 (54 八田 幸恵／2回)「教育養成場面の課題のまとめとTA体験のリフレクション」,「振り返りの発表「教員養成の課題と今後の展望」」を担当する。 (42 小林 淳一・54 八田 幸恵・29 峯 明秀・60 兼安 章子／11回)(共同)「授業の進め方 教員養成学への臨床的アプローチ」,「教員養成場面へのTA体験」,「教育養成場面の課題のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)

分野 科目	分野 コア 科目	北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学	地域教育課題研究	北海道，大阪，福岡における学校現場の地域課題について，量的・質的データをもとに把握し，その課題解決についてアクション・リサーチを行う。課題については，北海道の「へき地・小規模校教育」，大阪の「ダイバーシティ教育（外国につながる子どもの教育・インクルーシブ教育等）」，福岡の「特別支援教育・学校適応支援」の視点から各地域を理解し，課題にアプローチする。 （オムニバス方式／全15回） （8 川前あゆみ／4回）「北海道の「へき地・小規模校教育」の臨床的課題及び研究成果のレビュー」を担当する。 （62 山田 洋平／1回（「福岡の「特別支援教育・学校適応支援」の研究成果のレビュー」を担当する。 （22 高橋 登・⑤ 吉田 茂孝／4回）（共同）「大阪の「ダイバーシティ教育（外国につながる子どもの教育・インクルーシブ教育等）」の臨床的課題及び研究成果のレビュー」を担当する。 （④ 見上 昌睦・36 一木 薫／3回）（共同）「福岡の「特別支援教育・学校適応支援」の臨床的課題及び研究成果のレビュー」を担当する。 （8 川前あゆみ・⑤ 吉田 茂孝・22 高橋 登・36 一木 薫・④ 見上 昌睦・62 山田 洋平／3回）（共同）「授業の進め方」，「各自の研究テーマから見た地域課題」を担当する。	オムニバス方式・共同（一部）
分野 科目	臨床発達教育科学分野／発達支援領域	北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学	人間発達理解研究	人間理解，発達理解のため心理学や障がい科学分野で膨大な蓄積があるが，本授業では，人間の発達，学習活動，社会性，対人関係についての把握の方法論（広義のアセスメント）および研究の動向をレビューすることで，院生はこれらの研究領域における方法論および知見についての最新の情報を得る。 （オムニバス方式／全15回） （47 水野 君平／3回）「子どもの発達とパーソナリティ」，「子どもの発達と社会的認知」，「子どもの発達と問題行動」を担当する。 （57 渡邊 創太／3回）「授業の進め方」，「人間発達の理解のための方法論及び研究の動向」等を担当する。 （64 森 兼隆／3回）「子どもの学習活動の理解」，「子どもの発達を理解した学習支援の研究」等を担当する。 （32 西山 久子／2回）「子どもの学校適応・対人関係の理解とアセスメント」等を担当する。 （33 相澤 宏充／3回）「障がいのある子どもの発達の理解」等を担当する。 （62 山田 洋平／1回）「子どもの発達の理解の学校での支援」等を担当する。	オムニバス方式

分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／ 発達 支援 領域	北海道教育大学・ 大阪教育大学・福 岡教育大学	人間発達支援研究Ⅰ		子どもの発達支援を、個別支援、クラスワイド、スクールワイドの観点から検討する。国内外の研究を概観する。子どもの人間関係の広がり意識したグループアプローチによる支援を検討する。インクルーシブ教育の観点から、学級における特別なニーズを有する子どもにも焦点をあてる。 (オムニバス方式／全15回) (16 水野 治久／3回)「授業の進め方」,「人間発達の理解」,「心理教育的援助サービスの展開及び支援の実際と効果測定」を担当する。 (11 片桐 正敏／3回)「特別なニーズを有する子どもの視点からの通常学級の人間発達の理解」を担当する。 (32 西山 久子／2回)「クラスワイドの発達の支援の方法」,「予防的プログラムの展開と発達の支援」を担当する。 (④ 見上 昌睦／3回)「特別支援学級から見た人間発達」,「特別支援学校から見た人間発達(幼児期・児童期)」,「特別支援学校から見た人間発達(青年期)」を担当する。 (62 山田 洋平／1回)「スクールワイドの発達の支援の実際」を担当する。 (全員／3回) (共同)「院生の発表」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／ 発達 支援 領域	北海道教育大学・ 大阪教育大学・福 岡教育大学	人間発達支援研究Ⅱ		子どもの発達支援について、言語と社会性の発達の理解をふまえ、学校適応支援、特別支援教育の観点から検討する。その後、虐待などのトラウマ体験からの回復について検討する。 (オムニバス方式／全15回) (45 齋藤 暢一郎／2回) (「子どもの臨床的な理解と支援」を担当する。 (20 小松 孝至／2回)「子どもの社会性の発達の理解と支援」を担当する。 (22 高橋 登／3回)「授業の進め方」,「発達をふまえた支援の在り方」,「子どもの言語発達のメカニズム・アセスメントと支援」を担当する。 (32 西山 久子／2回)「様々な発達段階の子どもに対する心理支援・生徒指導」を担当する。 (33 相澤 宏充／2回)「障がいとともに生きる子どもの理解」,「障がいの理解と支援」を担当する。 (62 山田 洋平／1回)「発達段階を考慮した予防的プログラム」を担当する。 (全員／3回) (共同)「研究の発表」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／ 発達 支援 領域	大阪教育大学	学習認知研究		認知科学の理論から、学習者の学習活動について理解を深め、個別最適化の学習視点への応用を模索する。学習理論や動機づけ理論など種々の理論に立ち返りながら、どのような関わり方が子どもの学習を促進するかといった実践との往還から、理論のより深い理解と実践の展開の促進を図る。 (オムニバス方式／全15回) (57 渡邊 創太／7回)「オリエンテーション」,「学習理論」,「モチベーション理論」,「メタ認知」を担当する。 (64 森 兼隆／7回)「知識獲得の認知メカニズム」,「知識活用に関わる理論」,「ワーキングメモリ理論と教育・教科学習」,「実行機能と行動の制御」を担当する。 (57 渡邊 創太・64 森 兼隆／1回) (共同)「まとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)

分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／ 発達 支援 領域	北海道教育大学・福岡教育大学	キャリア支援研究		子どものキャリア発達を理解，そしてその支援について検討する。とくに，キャリア教育の現状と課題について言及する。加えて内外の教師のキャリア発達の支援についても，検討していく。 (オムニバス方式／全15回) (43 半澤 礼之／8回)「子どものキャリア発達の諸相(発達心理学的側面)」，「キャリア発達研究の内外の動向」，「キャリア教育の動向」，「教員のキャリア発達と教員養成」を担当する。 (32 西山 久子／5回)「子どものキャリア発達の諸相(学校心理学的側面)」，「キャリア教育の動向」，「教師のキャリア支援」を担当する。 (43 半澤 礼之・32 西山 久子／2回)(共同)教員養成のキャリア支援の動向と課題」，「教員のキャリア発達と教員養成」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／ 教育実 践領域	北海道教育大学・大阪教育大学	教育方法学研究		カリキュラム，授業，生活指導を開発する諸理論の布置を描いた上で，カリキュラム，授業，生活指導をめぐる教育改革の国際的動向について概観する。その上で，日本の教育方法実践史を取り上げ，日本に特徴的な子どもの生活現実やニーズからカリキュラム，授業，生活指導をつくる実践のあり方の現代的意義を検討する。 (オムニバス方式／全15回) (42 小林 淳一／5回)「日本の教育改革の動向と教育方法学研究」，「子どもの生活現実と教育実践」，「現代的課題と教育方法学」を担当する。 (54 八田 幸恵／5回)「教育方法学研究の構図」，「米国・英国の教育方法学研究」，「教育改革の国際的動向」，「戦後日本の教育方法論の史的展開」を担当する。 (5 吉田 茂孝／5回)「ヨーロッパの教育方法学研究」，「教育改革の国際的動向」，「戦後日本の教育方法論の史的展開」を担当する。	オムニバス方式
分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／ 教育実 践領域	大阪教育大学	教育DX研究		教育におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)について，それが何を指し，教育のどういった分野で進展する可能性があるのか，社会的な背景や政策をもとに議論をする。特に「遠隔・オンライン教育(対面とのブレンド含む)」，「先進テクノロジーの活用」，「AI・データ駆動型教育」について，研究動向を解説するとともに，今後の研究可能性について検討する。 (オムニバス方式／全15回) (23 寺嶋 浩介／3回)「遠隔・オンライン教育」を担当する。 (2 三島 和宏／3回)「先進テクノロジーの活用」を担当する。情報機器の活用、SNS等情報サービスの活用、仮想デスクトップ基盤、ネットワーク統合の領域を扱う。 (1 鈴木 剛・6 安松 健／3回)(共同)「AI・データ駆動型教育」を担当する。安松がAI・データサイエンス・データ駆動型教育の社会的な動向、鈴木が教育現場での実践を中心に解説し、今後の研究可能性を含めて共同で担当する。 (全員／6回)(共同)「オリエンテーションおよび各研究トピックの概要紹介」，「教育DXの社会的背景，国内外での事例や全体的な動向」，「3つの研究トピックの振り返りと研究計画の検討」，「研究計画の立案と改善」，「受講生による研究計画のプレゼンテーション」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)

分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／教 育実 践領 域	北海道教 育大学・ 大阪教育 大学・福 岡教育大 学	特別支援教育研究		特別支援教育の基本的な理念や制度について押さえた後、特別支援教育の対象となる代表的な障がいに関する基礎から応用までの包括的な内容、代表的な研究テーマや手法、現代的なトピックについて解説する。 (オムニバス方式／全15回) (36 一木 薫／3回)「特別支援教育の理念及び制度の基本」,「肢体不自由教育に関する総合的理解,研究動向と最新トピック」を担当する。 (11 片桐 正敏／3回)「自閉スペクトラム症に関する総合的理解,研究内容や手法と最新トピック」を担当する。 (26 平賀 健太郎／3回)「病弱教育に関する総合的理解,研究手法と最新トピック」を担当する。 (4 見上 昌睦／3回)「言語障害教育に関する総合的理解,研究内容や手法と最新トピック」を担当する。 (18 大内田 裕／3回)「各種障害の運動障害に関する総合的理解,研究内容や手法と最新トピック」を担当する。	オムニバス方式
分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／学 校支 援領 域	大阪教育 大学	学校安全研究		国の学校安全の考え方について確認した後に、学校安全の考え方とその促進方法について議論する。特に子どもの発達段階を考慮した学校安全の基本的な考え方とその最新の実践及び効果測定について論じる。 (オムニバス方式／全15回) (24 豊沢 純子／7回)「子どもの発達段階を踏まえた安全教育と効果測定の方法」,「リスクに対する心のバイアス・集団心理」,「学術的観点からの過去の事件・事事故例の分析」等を担当する。 (19 後藤 健介／7回)「環境教育と安全教育」,「生活安全・災害安全・交通安全の研究」,「フィールドワークの実践」,「データ分析法の応用」,「セーフティプロモーションスクール」を担当する。 (24 豊沢 純子・19 後藤 健介／1回) (共同)「ガイドランス」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／学 校支 援領 域	北海道教 育大学・ 大阪教育 大学	学校コミュニティ支援研究		学校コミュニティ支援に関する各テーマについて、国内外の文献を講読して議論をおこない、学校コミュニティの改善が子どものウェルビーイングにどのように影響するのか検討する。 (オムニバス方式／全15回) (51 寺坂 明子／5回)「学校コミュニティ支援の考え方」「子どもと子どもを取り巻く環境との関係」「学校コミュニティ支援の方法と展開」「エビデンスに基づく教育アプローチとプログラム評価の方法」を担当する。 (24 豊沢 純子／5回)「学校コミュニティにおける安全」「安全教育の担い手としての学部生へのアプローチ」「ポジティブ心理学と安全教育」を担当する。 (9 杉本 任士／5回)「行動分析学を用いた学年・学級コミュニティの改善」「学校コミュニティにおけるポジティブ行動支援」「地域コミュニティにおける生徒指導体制の構築」「学校コミュニティにおける心理的安全性とウェルビーイング」を担当する。	オムニバス方式
分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／学 校支 援領 域	大阪教育 大学	教育データサイエンス研究		学校現場の課題解決に資するデータ分析やその活用について、研究倫理を遵守しながらどのように行うのか解説する。臨床的な研究のためにどのようなデータが活用できるのか、どのようなアウトカムが学校現場の諸課題を解決するのに役立つのか、演習形式で検討する。	

分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／学 校支 援領 域	北海道教 育大学・ 大阪教育 大学	教員キャリア・研修 マネジメント研究	教員が①自身のキャリア、②管理職やミドルリー ダーとして若手教員のキャリア形成に関与、教員研 修をマネジメントできる人材の育成を目指すため に、量的・質的データをもとに現状の課題を把握 し、その課題解決についてアクション・リサーチを 行う。最終的には理論と経験に基づいた新たな研修 システムを提案できるようにする。 (オムニバス方式／全15回) (13 姫野 完治／1回)「教員育成に関する教育工 学的アプローチ」を担当する。 (50 田中 真秀／2回)「変化の時代に対応した子 どもを育成する教員の育成―教員評価の構築―」, 「教員育成に関する行政学・経営学・社会学的アプ ローチ」を担当する。 (13 姫野 完治・50 田中 真秀／12回)(共 同)「授業の進め方、受講生の問題意識の確認、臨 床的研究の概念の確認」,「教員キャリア」の視点 へのアプローチ」,「研修の体系化に向けた多角的 な学問の視点」,「未来を見据えた教員研修制度の 提案」を担当する。	オムニバス方 式・共同(一 部)
分野 科目	臨床 教科 科学 分野	北海道教 育大学・ 福岡教育 大学	臨床国語科教育研究	国語科教育学に関する最新の研究動向について概 観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床 国語科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究 について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得 る。 (オムニバス方式／全15回) (37 青山 之典／4回)「臨床国語教育の必要 性」,「臨床国語教育の理論的基盤」,「臨床国語 教育の目的とアプローチ」,「実践者が行う臨床国 語教育」を担当する。 (46 幸坂 健太郎／4回)「研究者が行う臨床国語 教育」,「臨床国語教育の倫理」,「データの収 集・分析方法」,「学会発表・論文執筆の方法」を 担当する。 (37 青山 之典・46 幸坂 健太郎／7回)(共 同)「ガイダンス」,「研究の構想の紹介と焦点 化」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方 式・共同(一 部)
分野 科目	臨床 教科 科学 分野	北海道教 育大学・ 福岡教育 大学	臨床国語科教材開発 研究	教材開発に関する最新の研究動向について概観 し、臨床国語科教育研究における教材開発研究の理 論的枠組みを理解する。また、具体的な教材開発の 演習を通して、教材開発研究における教科教育学と 教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研 究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (5 大橋 賢一／3回)「国語科内容学研究におけ る教材開発の位置付け」,「言語事項の指導におけ る教材開発事例」,「古典を読むことにおける教材 開発事例」を担当する。 (37 青山 之典／1回)「説明的文章を読むこと における教材開発事例」を担当する。 (46 幸坂 健太郎／1回)「論理的思考力育成にお ける教材開発事例」を担当する。 (37 青山 之典・46 幸坂 健太郎／1回)(共 同)「国語科教育学研究における教材開発の位置付 け」を担当する。 (全員／9回)(共同)「ガイダンス」,「国語科教 育における教材開発演習」,「教材開発における教 科教育学,教科内容学の視点」,「講義のまとめ」 を担当する。	オムニバス方 式・共同(一 部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	北海道教育 大学・福岡教育 大学	臨床国語科内容学研究		国語科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個別の専門分野の視点から臨床国語科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (5 大橋 賢一／11回)「古典教育における漢文学教材の概要」、「古典教育における漢文学(儒家の思想、諸子の思想、通史、断代史、韻文、散文)」、「古典教育における和漢比較(思想、史伝、文芸)」、「国語科教育における漢文学の役割」を担当する。 (5 大橋 賢一・46 幸坂 健太郎・37 青山 之典／4回)(共同)「ガイドランス」、「国語科内容学研究の位置付け」、「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」、「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	北海道教育 大学・大阪教育 大学	臨床英語科教育研究		英語科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得する。特に臨床英語科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解するために、日本の英語教育や第二言語習得の最新文献を素材として講義・輪読を行う。また得られた知見を各自の研究課題にどのように生かすかの議論を行う。 (2 笠原 究)「ガイドランス」、「英語科教育学の研究動向」、「英語科教育学研究の最先端」、「研究の構想の紹介と焦点化」を担当する。 (53 橋本 健一)「ガイドランス」、「英語科教育学の研究動向」、「英語科教育学研究の最先端」、「研究の構想の紹介と焦点化」を担当する。	共同
分野 科目	臨床 教科学 分野	北海道教育 大学・大阪教育 大学	臨床英語科教材開発研究		教材開発の視点を踏まえつつ、臨床英語科教育学研究における技能別指導・技能統合型指導について検討する。教科教育学と教科内容学の融合的視点も踏まえつつ、各技能、及び技能統合型の授業について映像や文献を通して知見を得て、自らの実践に生かせる教材開発の演習を行う。また、それらをベースにして、各自の研究課題・授業実践に対する示唆を得る。 (2 笠原 究)「ガイドランス」、「英語リーディング指導の最先端」(主担当)、「英語リスニング指導の最先端」(副担当)、「英語ライティング指導の最先端」(主担当)、「英語スピーキング指導の最先端」(副担当)、「技能統合型指導の最先端」を担当する。 (53 橋本 健一)「ガイドランス」、「英語リーディング指導の最先端」(副担当)、「英語リスニング指導の最先端」(主担当)、「英語ライティング指導の最先端」(副担当)、「英語スピーキング指導の最先端」(主担当)、「技能統合型指導の最先端」を担当する。	共同
分野 科目	臨床 教科学 分野	北海道教育 大学・大阪教育 大学	臨床英語科内容学研究		英語科教育における内容学研究の動向について、主として言語材料に焦点を当てつつ概観し、英語科内容学研究が臨床英語科教育学にもたらす示唆や臨床英語科内容学のあり方について検討する。また、これらの融合的視点を踏まえて、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (2 笠原 究)「ガイドランス」、「英語音声習得研究の最先端」(副担当)、「英語語彙習得研究の最先端」(主担当)、「英語文法習得研究の最先端」(副担当)、「英語圏文化研究の最先端」(主担当)、「各自の研究課題に関する検討」を担当する。 (53 橋本 健一)「ガイドランス」、「英語音声習得研究の最先端」(主担当)、「英語語彙習得研究の最先端」(副担当)、「英語文法習得研究の最先端」(主担当)、「英語圏文化研究の最先端」(副担当)、「各自の研究課題に関する検討」を担当する。	共同

分野 科目	臨床 教科学 分野	大阪教育 大学・福 岡教育大 学	臨床社会科教育研究		社会科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床社会科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究についてを理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (29 峯 明秀／4回)「社会科教育の理論的基盤(社会科の本質)」,「社会科教育学の研究動向(社会科の性格規定)」,「社会科教育学の研究方方法(教育目標と評価)」,「社会科教師教育と研究」を担当する。 (③ 坂井 清隆／4回(「社会科教育の理論的基盤(社会科の歴史と政策)」,「社会科教育学の研究動向(カリキュラム編成・単元構成)」,「社会科教育学の研究方方法(教育方法と技術)」,「社会科教師教育と研究」を担当する。 (29 峯 明秀・③ 坂井 清隆／7回)(共同)「ガイダンス」,「研究構想の紹介と焦点化」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	北海道教育 大学・大阪教育 大学・福 岡教育大 学	臨床社会科教材開発研究		教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床社会科教育学研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (③ 坂井 清隆／1回)「社会科教育学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (15 津田 拓郎／1回)「社会科内容学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (29 峯 明秀・③ 坂井 清隆／10回)(共同)「事例研究(社会科教育学における教材開発研究)」,「社会科教育における教材開発演習」を担当する。 (全員／3回)(共同)「ガイダンス」,「教材開発における教科教育学,教科内容学の視点」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	北海道教育 大学・大阪教育 大学・福 岡教育大 学	臨床社会科内容学研究		社会科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個別の専門分野の視点から社会科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (15 津田 拓郎／10回)「社会科内容学の検討(時代区分論に関する近年の動向,歴史学の新潮流,教科書における歴史学の新潮流の反映状況)」,「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」を担当する。 (15 津田 拓郎・29 峯 明秀・③ 坂井 清隆／5回)(共同)「ガイダンス」,「社会科内容学研究の位置づけ」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	大阪教育 大学・福 岡教育大 学	臨床理科教育研究		理科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床理科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (30 吉本 直弘／3回)「理科教育学の研究動向(自然体験、環境教育、STEAM教育、理科教育教師論)」,「理科教育学の研究手法(質問紙調査やインタビュー調査とその分析方法)」を担当する。 (61 甲斐 初美／5回)「理科教育学の研究動向(学習論と子どもの自然認識研究、教授論と理科授業デザイン研究、評価論と理科のカリキュラム研究)」,「理科教育学の研究手法(調査方法の概観及び調査の文脈が調査に与える影響、授業実践調査とその分析方法)」を担当する。 (30 吉本 直弘・61 甲斐 初美／7回)(共同)「ガイダンス」,「研究構想の紹介と焦点化」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	北海道教育 大学・大 阪教育大 学	臨床理科教材開発研究		教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床理科教育学研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (30 吉本 直弘／1回)「理科教育学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (4 尾関 俊浩／1回)「理科内容学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (44 小山 耕平・30 吉本 直弘／2回)(共同)「事例研究(ICT機器の活用とオンライン資料の活用事例、教材開発の臨床データの解析事例)」を担当する。 (4 尾関 俊浩・44 小山 耕平／2回)(共同)「事例研究(野外観察と室内観察による教材開発事例、教材開発のための統計データの解析手法)」を担当する。 (4 尾関 俊浩・30 吉本 直弘／1回)(共同)「事例研究(演示実験装置の教材開発事例)」を担当する。 (全員／8回)(共同)「ガイダンス」,「理科教育学における教材開発演習」,「教材開発における教科教育学、教科内容学の視点」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	北海道教育大学・大阪教育大学	臨床理科内容学研究	理科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個別の専門分野の視点から理科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (4 尾関 俊浩／3回)「理科内容学の検討(自然災害分野における研究成果紹介, 自然災害分野・放射線分野における理科内容学)」を担当する。 (44 小山 耕平／2回)「理科内容学の検討(植物生態学分野における研究成果紹介, 植物生態学分野における理科内容学)」を担当する。 (① 鈴木 剛／3回)「理科内容学の検討(植物遺伝子分野における研究成果紹介, 植物遺伝子分野における理科内容学)」を担当する。 (30 吉本 直弘／3回)「理科内容学研究の位置付け」, 「理科内容学の検討(気象学分野における研究成果紹介, 気象学分野における理科内容学)」を担当する。 (44 小山 耕平・① 鈴木 剛／1回)(共同)「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」を担当する。 (4 尾関 俊浩・30 吉本 直弘／1回)(共同)「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」を担当する。 (全員／2回)(共同)「ガイダンス」, 講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学	臨床数学科教育研究	数学教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床数学科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (63 大滝 孝治／3回)「数学教育学の研究動向(教授人間学理論(ATD)の基礎)」, 「数学教育学の研究動向(教授人間学理論(ATD)の基礎)」を担当する。 (27 町頭 義朗／2回)「数学教育学の研究動向(アクションリサーチ, デザイン研究)」を担当する。 (41 有元 康一／3回)「数学教育学の研究動向(目的・目標論, 学習指導論, 数学科内容学との接点)」を担当する。 (全員／7回)(共同)「ガイダンス」, 「研究構想の紹介と焦点化」, 「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学	臨床数学科教材開発研究	教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床数学科教育研究における教材開発研究の理論的枠組みを理解する。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (63 大滝 孝治／3回)「探究(SRP)の教授工学」を担当する。 (27 町頭 義朗／2回)「事例研究(解析・確率統計領域における教材開発事例, 領域融合による教材開発事例)」を担当する。 (41 有元 康一／3回)「数学教育学研究における教材開発」, 「数学科内容学における教材開発」, 「事例研究(代数・幾何領域における教材開発事例)」を担当する。 (全員／7回)(共同)「ガイダンス」, 「数学教育における教材開発演習」, 「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)

分野 科目	臨床 教科 学分 野	北海道教育大学・ 大阪教育 大学・福 岡教育大 学	臨床数学科内容学研 究		数学科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床数科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個別の専門分野の視点から数学科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (63 大滝 孝治／3回)「プラクセオロジー分析」を担当する。 (27 町頭 義朗／4回)「臨床数学科内容学の検討(論理, 確率・統計, 微分幾何学, 位相幾何学)」を担当する。 (41 有元 康一／3回)「臨床数学科内容学の検討(代数構造, 整数論, 離散数学)」を担当する。 (全員／5回) (共同)「ガイダンス」, 「数学科内容学研究の位置付け」, 「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」, 「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科 学分 野	大阪教育 大学	臨床情報科教育研究		情報科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床情報科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (23 寺嶋 浩介／5回)「情報科教育学の研究動向(学力論, カリキュラム・マネジメント, 授業設計理論)」, 「情報科教育学の研究手法(インストラクショナルデザイン, アクションリサーチ)」を担当する。 (② 三島 和宏／3回)「情報科教育学の研究動向(学習環境の構築, 学習者支援)」, 「情報科教育学の研究手法(システム設計)」を担当する。 (23 寺嶋 浩介・② 三島 和宏／7回) (共同)「ガイダンス」, 「研究構想の紹介と焦点化」, 「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科 学分 野	大阪教育 大学	臨床情報科教材開発 研究		教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床情報科教育研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (23 寺嶋 浩介／1回)「情報科教育研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (② 三島 和宏／1回)「情報科内容学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (23 寺嶋 浩介・② 三島 和宏／13回) (共同)「ガイダンス」, 「事例研究(情報科教育学における教材開発研究)」, 「情報科教育における教材開発演習」, 「教材開発における教科教育学, 教科内容学の視点」, 「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 教科 学分 野	大阪教育 大学	臨床情報科内容学研究		情報科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科教育学的視点から教科内容学研究の理論的枠組みを検討する。また、情報科を構成する内容領域の観点から臨床情報科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (23 寺嶋 浩介／3回)「臨床情報科内容学の検討(情報化社会の問題解決、コミュニケーションと情報デザイン、他校種との接続)」を担当する。 (② 三島 和宏／3回)「臨床情報科内容学の検討(コンピュータとプログラミング、情報通信ネットワークとデータの活用、情報Ⅰと情報Ⅱの関連、専門教科としての情報)」を担当する。 (23 寺嶋 浩介・② 三島 和宏／9回)(共同)「ガイダンス」、「情報科内容学研究の位置付け(情報科の内容構成、情報科内容学とは)」、「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」、「各自の研究課題に関する臨床教科内容学的観点からの検討」、「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
分野 科目	臨床 教科 学分 野	大阪教育 大学	臨床音楽科教育研究		音楽科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、理論と実践を往還する臨床音楽科教育研究に特有の研究手法のひとつである逐語記録を中心とした「授業分析」について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。	
分野 科目	臨床 教科 学分 野	大阪教育 大学	臨床音楽科教材開発研究		音楽科の教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床音楽科教育学における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また、小中高等学校での音楽科授業における具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における音楽科教科教育学と音楽科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。	
分野 科目	臨床 教科 学分 野	大阪教育 大学	臨床音楽科内容学研究		音楽科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における音楽科教育学的視点から音楽科内容学研究の理論的枠組みを検討する。また、音楽科を構成する内容領域の観点から臨床音楽科内容学のあり方を検討するとともに、音楽科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。	
分野 科目	臨床 教科 学分 野	北海道教育大学・ 大阪教育 大学	臨床美術科教育研究		美術教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、美術教育研究に特有の研究手法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (58 渡邊 美香／10回)「ガイダンス」、「研究動向(美術教育学とは何か、子どもの表現と人間形成、授業デザインとカリキュラム研究)」、「研究方法(美術製作と学習支援、授業者の視点とエピソード記述)」、「研究構想の紹介と焦点化」 「講義のまとめ」を担当する。 (6 李 知恩／4回)「研究動向(地域課題と感性評価、グローバル課題と感性評価)」、「研究構想の紹介と焦点化」を担当する。 (58 渡邊 美香・6 李 知恩／1回)(共同)「研究構想の紹介と焦点化(研究課題のプレゼン)」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	北海道教育大学・大阪教育大学	臨床美術科教材開発研究		題材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床美術教育学研究における題材開発研究の理論的枠組みを論じる。また、具体的な題材開発の演習を通して、題材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (58 渡邊 美香／3回)「美術教育学における題材開発の位置付け」,「美術教育における題材開発演習」を担当する。 (6 李 知恩／3回)「教科内容学研究における題材開発の位置付け」,「美術教育における題材開発演習」を担当する。 (58 渡邊 美香・6 李 知恩／9回)(共同)「ガイダンス」,「事例研究(幼児の造形, 図画工作科での表現活動, 中学校美術科での表現活動, 高等学校美術・工芸科での表現活動, 鑑賞活動)」,「美術教育における題材開発演習」「題材開発における教科教育学, 教科内容学の視点」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	北海道教育大学・大阪教育大学	臨床美術科内容学研究		美術教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における美術教育学的視点から美術内容学研究の理論的枠組みを検討する。また、図画工作・美術科を構成する内容領域の観点から臨床美術内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (6 李 知恩／11回)「ガイダンス」,「臨床美術内容学の検討(デザインの発想・表現・分析, 感性評価)」,「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」,「講義のまとめ」を担当する。 (58 渡邊 美香／4回)「臨床美術内容学の検討(小学校表現・鑑賞, 中学校表現・鑑賞)」を担当する。	オムニバス方式
分野 科目	臨床 教科学 分野	北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学	臨床保健体育科教育研究		保健体育科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床保健体育科教育学研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (55 林 洋輔／3回)「ガイダンス」,「保健体育科教育学の最新の研究動向(体育哲学の歴史と現状, 体育哲学の課題)」を担当する。 (38 本多 壮太郎／2回)「保健体育科教育学の最新の研究動向(体育科教育学の歴史と現状, 体育科教育学の課題)」を担当する。 (10 中島 寿宏／3回)「保健体育科教育学の最新の研究動向(初等中等教育学の歴史と現状, 初等中等教育学の課題)」,「講義のまとめ」を担当する。 (48 石川 美久／2回)「保健体育科教育学の最新の研究動向(武道学の歴史と現状, 武道学の課題)」を担当する。 (全員／5回)(共同)「研究構想の紹介と焦点化」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学	臨床保健体育科教材 開発研究		教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床保健体育科教育学研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (55 林 洋輔／2回)「ガイダンス」,「講義のまとめ」を担当する。 (7 板谷 厚／1回)「保健体育科教育学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (10 中島 寿宏／1回)「保健体育科内容学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (38 本多 壮太郎／1回),「保健体育学の領域に関する,教材開発における教科教育学,教科内容学の視点」を担当する。 (1 神林 勲・12 森田 憲輝・48 石川 美久・38 本多 壮太郎・55 林 洋輔／5回)(共同)「事例研究(保健体育科教育学における教材開発研究)」を担当する。 (7 板谷 厚・10 中島 寿宏・1 神林 勲・12 森田 憲輝・48 石川 美久／5回)(共同)「保健体育科教育における教材開発演習」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学	臨床保健体育科内容 学研究		保健体育科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個別の専門分野の視点から保健体育科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (55 林 洋輔／3回)「ガイダンス」,「保健体育科内容学の検討(体育哲学の視点から)」,「講義のまとめ」を担当する。 (7 板谷 厚／2回)「保健体育科内容学研究の位置付け」,「保健体育科内容学の検討(教育学の視点から)」を担当する。 (10 中島 寿宏／2回)「保健体育科内容学の検討(初等中等教育学の視点から,臨床教科学としての位置付け)」を担当する。 (1 神林 勲／2回)「保健体育科内容学の検討(健康・スポーツ科学の視点から,臨床教科学としての位置付け)」を担当する。 (12 森田 憲輝／2回)「保健体育科内容学の検討(身体教育学の視点から,臨床教科学としての位置付け)」を担当する。 (48 石川 美久／1回)「保健体育科内容学の検討(武道学の視点から)」を担当する。 (38 本多 壮太郎／1回)「保健体育科内容学の検討(体育科教育学の視点から)」を担当する。 (48 石川 美久・38 本多 壮太郎／2回)(共同)「保健体育学の領域に関する,教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	北海道教育大学・ 福岡教育 大学	臨床技術科教育研究		技術科に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床技術科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (3 藤川 聡／8回)「技術科の研究動向(目的論, 技術科教育の系譜, 教育課程, 学習・評価, 技術教育関連分野)」, 「技術科の研究方法(カリキュラム・授業開発, 教育心理学から, 歴史, 国際比較等)」を担当する。 (3 藤川 聡・39 大内 毅／7回)(共同)「ガイドンス」, 「研究構想の紹介と焦点化」, 「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	北海道教育大学・ 福岡教育 大学	臨床技術科教材開発 研究		教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床技術科教育研究における教材開発研究の理論的枠組みを理解する。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (3 藤川 聡／4回)「技術科教育学研究における教材開発の位置付け」, 「事例研究(ガイドンス, エネルギー変換, 生物育成)」を担当する。 (39 大内 毅／4回)「技術科内容学研究における教材開発の位置付け」, 「事例研究(材料加工, 情報, 複合題材)」を担当する。 (3 藤川 聡・39 大内 毅／7回)(共同)「ガイドンス」, 「技術科教育における教材開発演習」, 「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	北海道教育大学・ 福岡教育 大学	臨床技術科内容学研究		技術科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個別の専門分野の視点から臨床技術科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (39 大内 毅／10回)「臨床技術科内容学の検討(材料加工, エネルギー変換, 生物育成, 情報, 複合的な内容)」を担当する。 (3 藤川 聡・39 大内 毅／5回)(共同)「ガイドンス」, 「技術科内容学研究の位置付け」, 「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」, 「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	大阪教育 大学・福 岡教育大 学	臨床家庭科教育研究		家庭科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、教科教育学研究に特有の研究方法を理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (40 貴志 倫子／8回)「家庭科教育学の研究動向(国内外の教科目的論, 国内外の教科カリキュラム論, 国内外の授業研究, 問題解決学習の系譜)」, 「家庭科教育学の研究手法(歴史・比較研究, 量的研究, 質的研究, アクションリサーチ)」を担当する。 (17 碓田 智子／2回)「家庭科教育学の研究動向(多様な主体との協働)」, 「家庭科教育学の研究手法(フィールド調査法)」を担当する。 (40 貴志 倫子・17 碓田 智子／5回)(共同)「ガイダンス」, 「研究構想の紹介と焦点化」, 「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	大阪教育 大学・福 岡教育大 学	臨床家庭科教材開発研究		教材開発に関する最新の研究動向について概観し、家庭科教育における教材開発研究の理論的枠組みを理解する。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (17 碓田 智子／4回)「家庭科内容学研究における教材開発の位置付け」, 「事例研究(生活文化, まちづくり, 安全な生活環境)」を担当する。 ・40 貴志 倫子／4回)「家庭科教育学研究における教材開発の位置付け」, 「事例研究(家族・家庭生活, 消費生活・環境, ESDにかかる領域融合)」を担当する。 (17 碓田 智子・40 貴志 倫子／7回)(共同)「ガイダンス」, 「家庭科教育における教材開発演習」, 「教材開発における教科教育学, 教科内容学の視点」, 「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	大阪教育 大学・福 岡教育大 学	臨床家庭科内容学研究		家庭科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、社会の諸課題との関わりから家庭科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (17 碓田 智子／8回)「臨床家庭科内容学の検討(歴史, 地域性, 生活文化, 生活環境, 人口・家族構成, ライフスタイルの多様化, 防災・安全, まちづくり)」を担当する。 (40 貴志 倫子／2回)「臨床家庭科内容学の検討(生活経営・ジェンダー, 消費市民社会)」を担当する。 (17 碓田 智子・40 貴志 倫子／5回)(共同)「ガイダンス」, 「家庭科内容学研究の位置付け」, 「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」, 「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)

(注)

- 1 共同学科等を設置する場合は、別記様式第2号(その3の1)に代えて、この書類を作成すること。
- 2 共同学科等を設置する場合は、この書類に加え、別記様式第2号(その3の1)の例により、構成大学別のものを作成すること。
- 3 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 4 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 5 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 6 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要な授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
（福岡教育大学大学院教育学研究科共同学校教育学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題 研究 科目	臨床 発達 教育 科学 分野	発達教育科学特別研究Ⅰ	臨床発達教育科学に係る学位論文作成に向けて、「学校教育学」の研究領域としての位置づけに基づき、研究課題を明確化する。また、研究課題に関する先行研究を整理するとともに、研究方法に関する知見を活かして研究構想を具体化する。 (8 川前 あゆみ) へき地・小規模校教育に関する研究指導を行う。 (9 杉本 任士) 行動分析学の方法論を用いた学校、学年・学級経営の改善に関する研究指導を行う。 (11 片桐 正敏) 発達障害のある人、ギフテッドなど特別な教育的ニーズを持つ子どもに対して、基礎研究（認知神経科学）及び心理アセスメントから臨床発達支援に結びつける研究指導を行う。 (13 姫野 完治) 教育工学、特に教師の発達過程の解明とそれに基づく教育・研修方法の開発に関する研究指導を行う。 (14 木村 育恵) 教育社会学、特に教員育成政策及び教員のキャリア形成、教員世界におけるジェンダーに関する研究指導を行う。 (42 小林 淳一) 教員養成・教職志望者・教師の資質能力に関する研究指導を行う。 (43 半澤 礼之) 教育心理学、特に青年期・成人期のキャリア形成に関する研究指導を行う。 (45 齋藤 暢一郎) 不登校・ひきこもり支援、虐待やいじめ等のトラウマケアを含む学校メンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (47 水野 君平) いじめ、学校適応、友人グループ、学級風土、子どものメンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (16 水野 治久) 不登校児童生徒の支援、いじめ被害児童生徒の支援方法及び予防方法、子ども・保護者・教師の援助要請の視点からのチーム学校のあり方に関する研究、学校コミュニティの支援に関する研究指導を行う。 (18 大内田 裕) 認知・運動機能障害に対して脳科学の知見を利用した機能改善手法の開発に関する研究指導を行う。 (19 後藤 健介) 安全教育学、特に自然災害科学、公衆衛生学、防災教育、環境教育に関する研究指導を行う。 (20 小松 孝至) 発達心理学、教育心理学、特に幼児期、児童期の社会的発達（コミュニケーション、自己の発達）に関する研究指導を行う。 (22 高橋 登) 発達心理学、教育心理学、特に子どもの読み書きの発達とつまづきの支援、子どもの文化的発達に関する研究指導を行う。 (23 寺嶋 浩介) 教育工学、特に教師教育、教育方法、教員研修、メディア教育、ICT活用、情報教育に関する研究指導を行う。 (24 豊沢 純子) 教育心理学、社会心理学、特に防災教育、防犯教育に関する心理学研究指導を行う。 (25 仲矢 史雄) 科学教育、生物科学、特に科学技術コミュニケーション、教育評価方法、ICT・AI活用に関する研究指導を行う。 (26 平賀 健太郎) 特別支援教育、特に病弱教育、病弱児、院内学級、復学支援に関する研究指導を行う。 (50 田中 真秀) 教育学、特に学校経営（チーム学校、学校財務）、教育行財政学、教師教育、教育制度、学校教育（コミュニティスクール：家庭・地域との連携）に関する研究指導を行う。 (51 寺坂 明子) 臨床心理学、学校心理学、特に予防的心理教育、問題行動を起こりにくくする学級経営法に関する研究指導を行う。 (52 庭山 和貴) 教育心理学、特別支援教育、応用行動分析、ポジティブ行動支援に関する研究指導を行う。 (54 八田 幸恵) カリキュラム論、教育評価論、教師の力量形成論に関する研究指導を行う。 (5 吉田 茂孝) 教育方法学・インクルーシブ教育、特に授業づくり、学級づくり、教授学、学習集団、教育実践に関する研究指導を行う。 (57 渡邊 創太) 認知科学・学習心理学の応用（特に学習指導、教師自身の認知）に関する研究指導を行う。 (64 森 兼隆) 認知心理学、教育心理学、特に学習活動の認知過程の理解、効果的な学習支援、意味学習・深い学びに関する研究指導を行う。 ③ 坂井 清隆) 授業実践（単元展開及び授業展開）における学習者の認知・非認知の変容を、質的アプローチ（授業分析、様相－解釈的分析など）を用いて明らかにし、個々の学習者理解を深めつつ、個に応じた学習指導の方法と自律的な学習を促す評価に関する研究指導を行う。 (32 西山 久子) 校内適応指導教室利用生徒のキャリア発達の促進に関する研究、中等教育における一次支援としてのキャリアカウンセリングの展開に関する研究、教育相談コーディネーターの専門的力量的形成に関する研究指導を行う。 (33 相澤 宏光) 聴覚障害児に関する研究、学齢期の言語の発達・教育に関する研究指導を行う。 (4 見上 昌睦) 言語障害のある子どもの教育的支援に関する研究（学校教育期を中心にライフステージを通しての指導・支援、通常の学級における支援）、吃音・流暢性障害に関する研究指導を行う。 (36 一木 薫) 自立活動の理論、特別支援教育における教師の専門性、特別支援学校のカリキュラム評価に関する研究指導を行う。 (59 川口 俊明) 学力調査をはじめとする各種の調査（質問調査等の計量的分析はもちろん、インタビュー・参与観察等の質的調査も含む）を利用し、教育の不等等の実態把握およびその改善策を明らかにする研究指導を行う。 (62 山田 洋平) 1次の援助サービスにおける社会性と情動の学習を中心とした心理学的介入に関する研究指導を行う。	共同

課題 研究 科目	臨床 発達 教育 科学 分野	発達教育科学特別研究Ⅱ		臨床発達教育科学に係る学位論文作成に向けて、研究仮説と研究方法を構築する。また、臨床的研究の位置づけに基づき、学校現場での検証、データ収集、分析等を通して仮説検証を行い、エビデンスをもって課題の解決に向けた主張を構成する。さらに、各自の研究の成果については、共同ネットワークラボの活動を通して共有・意見交換を行い、今後の研究の方向性に対する示唆を得る。 (8 川前 あゆみ) へき地・小規模校教育に関する研究指導を行う。 (9 杉本 任士) 行動分析学の方法論を用いた学校、学年・学級経営の改善に関する研究指導を行う。 (11 片桐 正敏) 発達障害のある人、ギフテッドなど特別な教育的ニーズを持つ子どもに対して、基礎研究（認知神経科学）及び心理アセスメントから臨床発達支援に結びつける研究指導を行う。 (13 姫野 完治) 教育工学、特に教師の発達過程の解明とそれに基づく教育・研修方法の開発に関する研究指導を行う。 (14 木村 育恵) 教育社会学、特に教員育成政策及び教員のキャリア形成、教員世界におけるジェンダーに関する研究指導を行う。 (42 小林 淳一) 教員養成・教職志望者・教師の資質能力に関する研究指導を行う。 (43 半澤 礼之) 教育心理学、特に青年期・成人期のキャリア形成に関する研究指導を行う。 (45 齋藤 暢一郎) 不登校・ひきこもり支援、虐待やいじめ等のトラウマケアを含む学校メンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (47 水野 君平) いじめ、学校適応、友人グループ、学級風土、子どものメンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (16 水野 治久) 不登校児童生徒の支援、いじめ被害児童生徒の支援方法及び予防方法、子ども・保護者・教師の援助要請の視点からのチーム学校のあり方に関する研究、学校コミュニティの支援に関する研究指導を行う。 (18 大内田 裕) 認知・運動機能障害に対して脳科学の知見を利用した機能改善手法の開発に関する研究指導を行う。 (19 後藤 健介) 安全教育学、特に自然災害科学、公衆衛生学、防災教育、環境教育に関する研究指導を行う。 (20 小松 孝至) 発達心理学、教育心理学、特に幼児期、児童期の社会的発達（コミュニケーション、自己の発達）に関する研究指導を行う。 (22 高橋 登) 発達心理学、教育心理学、特に子どもの読み書きの発達とつまづきの支援、子どもの文化的発達に関する研究指導を行う。 (23 寺嶋 浩介) 教育工学、特に教師教育、教育方法、教員研修、メディア教育、ICT活用、情報教育に関する研究指導を行う。 (24 豊沢 純子) 教育心理学、社会心理学、特に防災教育、防犯教育に関する心理学研究指導を行う。 (25 仲矢 史雄) 科学教育、生物科学、特に科学技術コミュニケーション、教育評価方法、ICT・AI活用に関する研究指導を行う。 (26 平賀 健太郎) 特別支援教育、特に病弱教育、病弱児、院内学級、復学支援に関する研究指導を行う。 (50 田中 真秀) 教育学、特に学校経営（チーム学校、学校財務）、教育行財政学、教師教育、教育制度、学校教育（コミュニティスクール：家庭・地域との連携）に関する研究指導を行う。 (51 寺坂 明子) 臨床心理学、学校心理学、特に予防的心理教育、問題行動を起こりにくくする学級経営法に関する研究指導を行う。 (52 庭山 和貴) 教育心理学、特別支援教育、応用行動分析、ポジティブ行動支援に関する研究指導を行う。 (54 八田 幸恵) カリキュラム論、教育評価論、教師の力量形成論に関する研究指導を行う。 (55 吉田 茂孝) 教育方法学・インクルーシブ教育、特に授業づくり、学級づくり、教授学、学習集団、教育実践に関する研究指導を行う。 (57 渡邊 創太) 認知科学・学習心理学の応用（特に学習指導、教師自身の認知）に関する研究指導を行う。 (64 森 兼隆) 認知心理学、教育心理学、特に学習活動の認知過程の理解、効果的な学習支援、意味学習・深い学びに関する研究指導を行う。 (33 坂井 清隆) 授業実践（単元展開及び授業展開）における学習者の認知・非認知の変容を、質的アプローチ（授業分析、様相－解釈的分析など）を用いて明らかにし、個々の学習者理解を深めつつ、個に応じた学習指導の方法と自律的な学習を促す評価に関する研究指導を行う。 (32 西山 久子) 校内適応指導教室利用生徒のキャリア発達の促進に関する研究、中等教育における一次支援としてのキャリアカウンセリングの展開に関する研究、教育相談コーディネーターの専門的力量的形成に関する研究指導を行う。 (33 相澤 宏充) 聴覚障害児に関する研究、学齢期の言語の発達・教育に関する研究指導を行う。 (4 見上 昌睦) 言語障害のある子どもの教育的支援に関する研究（学校教育期を中心にライフステージを通しての指導・支援、通常の学級における支援）、吃音・流暢性障害に関する研究指導を行う。 (36 一木 薫) 自立活動の理論、特別支援教育における教師の専門性、特別支援学校のカリキュラム評価に関する研究指導を行う。 (59 川口 俊明) 学力調査をはじめとする各種の調査（質問調査等の計量的分析はもちろん、インタビュー・参与観察等の質的調査も含む）を利用し、教育の不平等の実態把握およびその改善策を明らかにする研究指導を行う。 (62 山田 洋平) 1次的援助サービスにおける社会性と情動の学習を中心とした心理学的介入に関する研究指導を行う。	共同
----------------	----------------------------	-------------	--	---	----

課題 研究 科目	臨床 発達 教育 科学 分野	発達教育科学特別研究Ⅲ		臨床発達教育科学に係る学位論文作成に向けて、収集したデータや検証の分析・考察を通して、臨床的研究としての研究成果を明確化する。また、これまでの研究の取り組みを、研究の背景、研究仮説や研究方法の構築、データ分析や検証の結果と考察等の観点から、学術的な研究成果としてまとめる。必要に応じて、各自の研究の成果を共同ネットワークラボの活動を通して共有しながら研究成果のまとめを行う。 (8 川前 あゆみ) へき地・小規模校教育に関する研究指導を行う。 (9 杉本 任士) 行動分析学の方法論を用いた学校、学年・学級経営の改善に関する研究指導を行う。 (11 片桐 正敏) 発達障害のある人、ギフテッドなど特別な教育的ニーズを持つ子どもに対して、基礎研究（認知神経科学）及び心理アセスメントから臨床発達支援に結びつける研究指導を行う。 (13 姫野 完治) 教育工学、特に教師の発達過程の解明とそれに基づく教育・研修方法の開発に関する研究指導を行う。 (14 木村 育恵) 教育社会学、特に教員育成政策及び教員のキャリア形成、教員世界におけるジェンダーに関する研究指導を行う。 (42 小林 淳一) 教員養成・教職志望者・教師の資質能力に関する研究指導を行う。 (43 半澤 礼之) 教育心理学、特に青年期・成人期のキャリア形成に関する研究指導を行う。 (45 齋藤 暢一郎) 不登校・ひきこもり支援、虐待やいじめ等のトラウマケアを含む学校メンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (47 水野 君平) いじめ、学校適応、友人グループ、学級風土、子どものメンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (16 水野 治久) 不登校児童生徒の支援、いじめ被害児童生徒の支援方法及び予防方法、子ども・保護者・教師の援助要請の視点からのチーム学校のあり方に関する研究、学校コミュニティの支援に関する研究指導を行う。 (18 大内田 裕) 認知・運動機能障害に対して脳科学の知見を利用した機能改善手法の開発に関する研究指導を行う。 (19 後藤 健介) 安全教育学、特に自然災害科学、公衆衛生学、防災教育、環境教育に関する研究指導を行う。 (20 小松 孝至) 発達心理学、教育心理学、特に幼児期、児童期の社会的発達（コミュニケーション、自己の発達）に関する研究指導を行う。 (22 高橋 登) 発達心理学、教育心理学、特に子どもの読み書きの発達とつまづきの支援、子どもの文化的発達に関する研究指導を行う。 (23 寺嶋 浩介) 教育工学、特に教師教育、教育方法、教員研修、メディア教育、ICT活用、情報教育に関する研究指導を行う。 (24 豊沢 純子) 教育心理学、社会心理学、特に防災教育、防犯教育に関する心理学研究指導を行う。 (25 仲矢 史雄) 科学教育、生物科学、特に科学技術コミュニケーション、教育評価方法、ICT・AI活用に関する研究指導を行う。 (26 平賀 健太郎) 特別支援教育、特に病弱教育、病弱児、院内学級、復学支援に関する研究指導を行う。 (50 田中 真秀) 教育学、特に学校経営（チーム学校、学校財務）、教育行財政学、教師教育、教育制度、学校教育（コミュニティスクール：家庭・地域との連携）に関する研究指導を行う。 (51 寺坂 明子) 臨床心理学、学校心理学、特に予防的心理教育、問題行動を起こりにくくする学級経営法に関する研究指導を行う。 (52 庭山 和貴) 教育心理学、特別支援教育、応用行動分析、ポジティブ行動支援に関する研究指導を行う。 (54 八田 幸恵) カリキュラム論、教育評価論、教師の力量形成論に関する研究指導を行う。 (56 吉田 茂孝) 教育方法学・インクルーシブ教育、特に授業づくり、学級づくり、教授学、学習集団、教育実践に関する研究指導を行う。 (57 渡邊 創太) 認知科学・学習心理学の応用（特に学習指導、教師自身の認知）に関する研究指導を行う。 (64 森 兼隆) 認知心理学、教育心理学、特に学習活動の認知過程の理解、効果的な学習支援、意味ある学習・深い学びに関する研究指導を行う。 ③ 坂井 清隆）授業実践（単元展開及び授業展開）における学習者の認知・非認知の変容を、質的アプローチ（授業分析、様相一解釈的分析など）を用いて明らかにし、個々の学習者理解を深めつつ、個に応じた学習指導の方法と自律的な学習を促す評価に関する研究指導を行う。 (32 西山 久子) 校内適応指導教室利用生徒のキャリア発達の促進に関する研究、中等教育における一次支援としてのキャリアカウンセリングの展開に関する研究、教育相談コーディネーターの専門的力量的形成に関する研究指導を行う。 (33 相澤 宏光) 聴覚障害児に関する研究、学齢期の言語の発達・教育に関する研究指導を行う。 (4 見上 昌睦) 言語障害のある子どもの教育的支援に関する研究（学校教育期を中心にライフステージを通しての指導・支援、通常の学級における支援）、吃音・流暢性障害に関する研究指導を行う。 (36 一木 薫) 自立活動の理論、特別支援教育における教師の専門性、特別支援学校のカリキュラム評価に関する研究指導を行う。 (59 川口 俊明) 学力調査をはじめとする各種の調査（質問調査等の計量的分析はもちろん、インタビュー・参与観察等の質的調査も含む）を利用し、教育の不平等の実態把握およびその改善策を明らかにする研究指導を行う。 (62 山田 洋平) 1次的援助サービスにおける社会性と情動の学習を中心とした心理学的介入に関する研究指導を行う。	共同
----------------	----------------------------	-------------	--	---	----

課題 研究 科目	臨床 教科 学分 野	教科学特別研究 I	臨床教科学に係る学位論文作成に向けて、「学校教育学」の研究領域としての位置づけに基づき、研究課題を明確化する。また、研究課題に関する先行研究を整理するとともに、研究方法に関する知見を活かして研究構想を具体化する。 (1 神林 勲) 子どもの健康および体力・運動能力に関する研究指導を行う。 (2 笠原 究) 第二言語習得に関する研究指導を行う。 (3 藤川 聡) 教育方法、評価、特に技術科の教材開発と指導と評価の在り方、達成動機付けの原因帰属と教訓帰納に基づく認知カウンセリングに関する研究指導を行う。 (4 尾関 俊浩) 雪氷物理学に関する研究、特に雪害科学に関する研究や、雪崩コース教育に関する研究指導を行う。 (5 大橋 賢一) 漢字漢文教育に関する研究指導を行う。 (6 李 知恩) 美術、特にデザイン、美術鑑賞、感性評価に関する研究指導を行う。 (7 板谷 厚) 運動の発達と学習の過程の解明、及びそれに基づく運動指導に関する研究指導を行う。 (10 中島 寿宏) 保健体育科教育学、教育心理学、特に体育・保健体育における教師と児童生徒のコミュニケーションにおける心理的作用に関する研究指導を行う。 (12 森田 憲輝) 子どもの学力・認知機能と体力・体格との関係に関する研究（認知科学・生理学・疫学的研究）指導を行う。 (15 津田 拓郎) 外国史、特に西洋中世史や中世グローバル・ヒストリーに関する研究指導を行う。 (44 小山 耕平) 理科教育、特に植物生態学と森林生態学および生物野外計測に関する研究指導を行う。 (46 幸坂 健太郎) 国語科教育の授業方法、論理的思考力育成に関する研究指導を行う。 (63 大滝 孝治) 教授人間学理論（ATD）に基づく学校数学教育に関する研究指導を行う。 (17 確田 智子) 家政学、生活科学、特に住環境学、住生活学、住まい・まちづくり学習に関する研究指導を行う。 (18 鈴木 剛) 生物学、特に植物分子遺伝学・植物育種学・染色体工学に関する研究指導を行う。 (27 町頭 義朗) 幾何学、特にリーマン幾何学、離散幾何学、微分可多様体に関する研究指導を行う。 (28 三島 和宏) 情報工学、特に情報システム、ネットワークの視点を用いた、情報教育、ICT活用教育に関する研究指導を行う。 (29 望 明秀) 教育学、教科教育学、教育方法及び社会科教育に関する研究指導を行う。 (30 吉本 直弘) 科学教育、教科教育（地学教育・理科教育）、気象学、防災教育の視点を用いた、理科教育学に関する研究指導を行う。 (48 石川 美久) スポーツ科学、特にコーチング、武道、柔道、安全教育に関する研究指導を行う。 (49 兼平 佳枝) コミュニケーション、共感、音楽的思考等を視点とした音楽教育実践学に関する研究指導を行う。 (53 橋本 健一) 第二言語習得、心理言語学の視点に基づく英語教育学に関する研究指導を行う。 (55 林 洋輔) メタ体育学、体育・スポーツ哲学、哲学の方法・視点をを用いた保健体育学研究、単元「体育理論」の諸問題に関する研究指導を行う。 (58 渡邊 美香) 子どもの表現・鑑賞、図画工作科・美術科の教科教育学に関する研究指導を行う。 (33 坂井 清隆) シティズンシップ教育実践を中心に各教科等での教育実践における質的な授業研究（授業分析）及び学習評価に関する研究指導を行う。 (37 青山 之典) テキスト研究、学習者研究に焦点をあてた読解指導論構築に関する研究指導を行う。 (38 本多 壮太郎) 知識の構造化とその活用を図る体育科・保健体育科学習指導に関する研究、反転授業を取り入れた体育科・保健体育科学習指導に関する研究指導を行う。 (39 大内 毅) 科学教育、特に初等・中等教育における科学的・工学的アプローチを基軸としたSTEAM型ものづくりに関する研究指導を行う。 (40 貴志 倫子) 責任ある生活者育成のための初等中等家庭科のカリキュラム、授業研究、学習指導、教師教育に関する研究指導を行う。 (41 有元 康一) 数学科教育学および代数学・数学基礎に関する研究、特に、算数・数学科における学習指導、教材開発、またその背景となる、数論、離散数学、計算機数学、数学史に関する研究指導を行う。	共同
----------------	---------------------	-----------	--	----

課題 研究 科目	臨床 教科 学分 野	教科学特別研究Ⅱ	臨床教科学に係る学位論文作成に向けて、研究仮説と研究方法を構築する。また、臨床的研究の位置づけに基づき、学校現場での検証、データ収集、分析等を通して仮説検証を行い、エビデンスをもって課題の解決に向けた主張を構成する。さらに、各自の研究の成果については、共同ネットワークラボの活動を通して共有・意見交換を行い、今後の研究の方向性に対する示唆を得る。 (1 神林 勲) 子どもの健康および体力・運動能力に関する研究指導を行う。 (2 笠原 究) 第二言語習得に関する研究指導を行う。 (3 藤川 聡) 教育方法、評価、特に技術科の教材開発と指導と評価の在り方、達成動機付けの原因帰属と教訓帰納に基づく認知カウンセリングに関する研究指導を行う。 (4 尾関 俊浩) 雪氷物理学に関する研究、特に雪害科学に関する研究や、雪崩コース教育に関する研究指導を行う。 (5 大橋 賢一) 漢字漢文教育に関する研究指導を行う。 (6 李 知恩) 美術、特にデザイン、美術鑑賞、感性評価に関する研究指導を行う。 (7 板谷 厚) 運動の発達と学習の過程の解明、及びそれに基づく運動指導に関する研究指導を行う。 (10 中島 寿宏) 保健体育科教育学、教育心理学、特に体育・保健体育における教師と児童生徒のコミュニケーションにおける心理的作用に関する研究指導を行う。 (12 森田 憲輝) 子どもの学力・認知機能と体力・体格との関係に関する研究 (認知科学・生理学・疫学的研究) 指導を行う。 (15 津田 拓郎) 外国史、特に西洋中世史や中世グローバル・ヒストリーに関する研究指導を行う。 (44 小山 耕平) 理科教育、特に植物生態学と森林生態学および生物野外計測に関する研究指導を行う。 (46 幸坂 健太郎) 国語科教育の授業方法、論理的思考力育成に関する研究指導を行う。 (63 大滝 孝治) 教授人間学理論 (ATD) に基づく学校数学教育に関する研究指導を行う。 (17 確田 智子) 家政学、生活科学、特に住環境学、住生活学、住まい・まちづくり学習に関する研究指導を行う。 (① 鈴木 剛) 生物学、特に植物分子遺伝学・植物育種学・染色体工学に関する研究指導を行う。 (27 町頭 義朗) 幾何学、特にリーマン幾何学、離散幾何学、微分可多様体に関する研究指導を行う。 (② 三島 和宏) 情報工学、特に情報システム、ネットワークの視点を用いた、情報教育、ICT活用教育に関する研究指導を行う。 (29 峯 明秀) 教育学、教科教育学、教育方法及び社会科教育に関する研究指導を行う。 (30 吉本 直弘) 科学教育、教科教育 (地学教育・理科教育)、気象学、防災教育の視点を用いた、理科教育学に関する研究指導を行う。 (48 石川 美久) スポーツ科学、特にコーチング、武道、柔道、安全教育に関する研究指導を行う。 (49 兼平 佳枝) コミュニケーション、共感、音楽的思考等を視点とした音楽教育実践学に関する研究指導を行う。 (53 橋本 健一) 第二言語習得、心理言語学の視点に基づく英語教育学に関する研究指導を行う。 (55 林 洋輔) メタ体育学、体育・スポーツ哲学、哲学の方法・視点を用いた保健体育学研究、単元「体育理論」の諸問題に関する研究指導を行う。 (58 渡邊 美香) 子どもの表現・鑑賞、図画工作科・美術科の教科教育学に関する研究指導を行う。 (③ 坂井 清隆) シティズンシップ教育実践を中心に各教科等での教育実践における質的な授業研究 (授業分析) 及び学習評価に関する研究指導を行う。 (37 青山 之典) テキスト研究、学習者研究に焦点をあてた読解指導論構築に関する研究指導を行う。 (38 本多 壮太郎) 知識の構造化とその活用を図る体育科・保健体育科学習指導に関する研究、反転授業を取り入れた体育科・保健体育科学習指導に関する研究指導を行う。 (39 大内 毅) 科学教育、特に初等・中等教育における科学的・工学的アプローチを基軸としたSTEAM型ものづくりに関する研究指導を行う。 (40 貴志 倫子) 責任ある生活者育成のための初等中等家庭科のカリキュラム、授業研究、学習指導、教師教育に関する研究指導を行う。 (41 有元 康一) 数学科教育学および代数学・数学基礎に関する研究。特に、算数・数学科における学習指導、教材開発、またその背景となる、数論、離散数学、計算機数学、数学史に関する研究指導を行う。	共同
----------------	---------------------	----------	--	----

課題研究科目	臨床科学分野	教科学特別研究Ⅲ		臨床教科学に係る学位論文作成に向けて、収集したデータや検証の分析・考察を通して、臨床的研究としての研究成果を明確化する。また、これまでの研究の取り組みを、研究の背景、研究仮説や研究方法の構築、データ分析や検証の結果と考察等の観点から、学術的な研究成果としてまとめる。必要に応じて、各自の研究の成果を共同ネットワークラボの活動を通して共有しながら研究成果のまとめを行う。 (1 神林 勲) 子どもの健康および体力・運動能力に関する研究指導を行う。 (2 笠原 究) 第二言語習得に関する研究指導を行う。 (3 藤川 聡) 教育方法、評価、特に技術科の教材開発と指導と評価の在り方、達成動機付けの原因帰属と教訓帰納に基づく認知カウンセリングに関する研究指導を行う。 (4 尾関 俊浩) 雪水物理学に関する研究、特に雪害科学に関する研究や、雪崩コース教育に関する研究指導を行う。 (5 大橋 賢一) 漢字漢文教育に関する研究指導を行う。 (6 李 知恩) 美術、特にデザイン、美術鑑賞、感性評価に関する研究指導を行う。 (7 板谷 厚) 運動の発達と学習の過程の解明、及びそれに基づく運動指導に関する研究指導を行う。 (10 中島 寿宏) 保健体育科教育学、教育心理学、特に体育・保健体育における教師と児童生徒のコミュニケーションにおける心理的作用に関する研究指導を行う。 (12 森田 憲輝) 子どもの学力・認知機能と体力・体格との関係に関する研究（認知科学・生理学・疫学的研究）指導を行う。 (15 津田 拓郎) 外国史、特に西洋中世史や中世グローバル・ヒストリーに関する研究指導を行う。 (14 小山 耕平) 理科教育、特に植物生態学と森林生態学および生物野外計測に関する研究指導を行う。 (46 幸坂 健太郎) 国語科教育の授業方法、論理的思考力育成に関する研究指導を行う。 (63 大滝 孝治) 教授人間学理論（ATD）に基づく学校数学教育に関する研究指導を行う。 (17 確田 智子) 家政学、生活科学、特に住環境学、住生活学、住まい・まちづくり学習に関する研究指導を行う。 (1 鈴木 剛) 生物学、特に植物分子遺伝学・植物育種学・染色体工学に関する研究指導を行う。 (27 町頭 義朗) 幾何学、特にリーマン幾何学、離散幾何学、微分可能多様体に関する研究指導を行う。 (2 三島 和宏) 情報工学、特に情報システム、ネットワークの視点をういた、情報教育、ICT活用教育に関する研究指導を行う。 (29 峯 明秀) 教育学、教科教育学、教育方法及び社会科教育に関する研究指導を行う。 (30 吉本 直弘) 科学教育、教科教育（地学教育・理科教育）、気象学、防災教育の視点をういた、理科教育学に関する研究指導を行う。 (48 石川 美久) スポーツ科学、特にコーチング、武道、柔道、安全教育に関する研究指導を行う。 (49 兼平 佳枝) コミュニケーション、共感、音楽的思考等を視点とした音楽教育実践学に関する研究指導を行う。 (53 橋本 健一) 第二言語習得、心理言語学の視点に基づく英語教育学に関する研究指導を行う。 (55 林 洋輔) メタ体育学、体育・スポーツ哲学、哲学の方法・視点をういた保健体育学研究、単元「体育理論」の諸問題に関する研究指導を行う。 (58 渡邊 美香) 子どもの表現・鑑賞、図画工作科・美術科の教科教育学に関する研究指導を行う。 (3 坂井 清隆) シティズンシップ教育実践を中心に各教科等での教育実践における質的な授業研究（授業分析）及び学習評価に関する研究指導を行う。 (37 青山 之典) テキスト研究、学習者研究に焦点をあてた読解指導論構築に関する研究指導を行う。 (38 本多 壮太郎) 知識の構造化とその活用を図る体育科・保健体育科学習指導に関する研究、反転授業を取り入れた体育科・保健体育科学習指導に関する研究指導を行う。 (39 大内 毅) 科学教育、特に初等・中等教育における科学的・工学的アプローチを基軸としたSTEAM型ものづくりに関する研究指導を行う。 (40 貴志 倫子) 責任ある生活者育成のための初等中等家庭科のカリキュラム、授業研究、学習指導、教師教育に関する研究指導を行う。 (41 有元 康一) 数学科教育学および代数学・数学基礎に関する研究。特に、算数・数学科における学習指導、教材開発、またその背景となる、数論、離散数学、計算機数学、数学史に関する研究指導を行う。	共同
共通科目	共通科目	学校教育学原論Ⅰ		学校教育の諸課題の整理とその課題にどのようにアプローチするのかについて整理する。まず、学校教育の課題について、内外の文献から整理する。そしてその解決を促す臨床的研究について、教育学、心理学、教科教育学からアプローチする。 （オムニバス方式／全8回） (13 姫野 完治／1回) 「教員養成の課題」を担当する。 (8 川前あゆみ／1回) 「学校・地域・家庭の課題」を担当する。 (5 吉田 茂孝／2回) 「諸外国との比較から考える」「インクルーシブ教育の課題」を担当する。 (53 橋本 健一／1回) 「教科教育・学力の課題（中等教育）」を担当する。 (64 森 兼隆／1回) 「子どもの学習の課題（認知の観点から）」を担当する。 (3 坂井 清隆／1回) 「教科教育・学力の課題（初等教育）」を担当する。 （全員／1回）（共同）「臨床的研究からみた学校教育の諸課題」を担当する。	オムニバス方式・共同（一部）

共通 科目	共通 科目	学校教育学原論Ⅱ		学校教育学原論Ⅰで整理した学校教育の諸課題について、臨床的研究の視点から整理する。受講生の一人ひとりの研究テーマを掘り下げるために、内外の学術雑誌を読み込み、その領域に対する研究を概観し、臨床的研究への方向性を明確にする。 (オムニバス方式／全8回) (43 半澤 礼之／1回)「子どもの適応の課題についての国内外の研究・政策動向：教育心理学の観点から」を担当する。 (9 杉本 任士／1回)「子どもの適応の課題についての国内外の研究・政策動向：行動分析学の観点から」を担当する。 (⑤ 吉田 茂孝／1回)「特別なニーズのある子どもの教育についての国内外の研究・政策動向：教育方法学の観点から」を担当する。 (23 寺嶋 浩介／1回)「研究テーマの展望的な検討の方法」を担当する。 (53 橋本 健一／1回)「教科教育、学力の課題についての国内外の研究・政策動向：英語教育の観点から」を担当する。 (64 森 兼隆／1回)「特別なニーズのある子どもの教育についての国内外の研究・政策動向」を担当する。 (59 川口 俊明／1回)「教科教育、学力の課題についての国内外の研究・政策動向：学力調査の観点から」を担当する。 (全員／1回) (共同)「授業進め方及び研究テーマの確認」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
共通 科目	共通 科目	教育臨床参画研究Ⅰ		研究フィールドとしての学校現場へ参画する。そのためにまずは研究倫理、アクション・リサーチについての理解を深める。その後、学校現場で、臨床的な課題を観察する。その上で、院生が、自身の研究課題との関連を明確化するとともに、課題研究の構想に役立てることをめざす。研究フィールドは、派遣の現職教員においては勤務校、その他の学生は附属学校を想定する。 (オムニバス方式／全8回) (8 川前あゆみ／1回)「学校の課題に対する参画研究の実際」を担当する。 (16 水野 治久／1回)「学校教育の諸課題の整理とその課題にどのようにアプローチするのか」を担当する。 (16 水野 治久・57 渡邊 創太／1回) (共同)「広義のアクション・リサーチの方法」を担当する。 (8 川前あゆみ・14 木村 育恵・16 水野 治久・57 渡邊 創太・③ 坂井 清隆／5回) (共同)「臨床的参画の計画の発表会」,「臨床的参画」,「学校現場での参与観察・介入(参画)の中間発表」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
共通 科目	共通 科目	教育臨床参画研究Ⅱ		教育臨床参画研究Ⅰでの学校現場への参画を継続しながら、各自の研究課題を焦点化するとともに、臨床的研究としての研究構想を具体化する機会を設定する。そして、そのために、具体的に教育現場への参画研究を実施する。その研究成果をまとめる。 (オムニバス方式／全8回) (8 川前あゆみ／1回)「参画研究で学校の課題の捉え方」を担当する。 (14 木村 育恵／1回)「ジェンダー視点に基づく分析者のキャリア形成と臨床的参画研究」を担当する。 (16 水野 治久／1回)「授業の進行と教育臨床参画研究のシェアリング」を担当する。 (16 水野 治久・57 渡邊 創太／1回) (共同)「臨床的な視点のシェアリングと教育臨床参画研究Ⅱにおける参画計画」を担当する。 (8 川前あゆみ・14 木村 育恵・16 水野 治久・57 渡邊 創太・③ 坂井 清隆／4回) (共同)「臨床的参画」,「学校現場での臨床的参画研究のまとめの発表会」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

共通 科目	共通 科目	教員養成学開発論		教員養成への目的意識を向上させ、教員養成における今日的課題を理解するとともに、次世代における教員養成のあり方を探究する。教師教育、教員養成に関する学術的な知見を得ることによって、教員養成学を開発する基盤を構築する。 (オムニバス方式／全15回) (13 姫野 完治／3回)「教育の実践と理論の統合」,「成人の発達と教師の発達」,「専門職の学習と教師の学習」を担当する。 (42 小林 淳一／3回)「教師像の歴史的展開」,「地域社会ニーズと子どものニーズを踏まえた新しい教師像の開発」,「教員養成学部教員に必要な資質とその開発」を担当する。 (54 八田 幸恵／3回)「日本の教員養成制度の歴史的展開」,「教員養成の論点」,「教員養成と臨床的研究」を担当する。 (29 峯 明秀／3回)「初等・中等教員養成カリキュラムの構成原理」,「教職科目・教科専門・教科教育法の有機的連関」を担当する。 (60 兼安 章子／3回)「効果的な教育実習の時期・内容・形態」,「大学院における教員養成・現職教育のあり方」,「教員養成カリキュラムの効果検証」を担当する。	オムニバス方式
共通 科目	共通 科目	教員養成学臨床研究		大学教員のTA等を通して、教育学部・教職大学院等の学生に対する「教職課程コアカリキュラム」に係る科目の指導等を経験し、教員養成大学の教員の専門性のあり方について学ぶ機会とする。現職教員の場合は学校現場や教育委員会で教員志望の学生を受け入れている場面でのTAを体験する。また、自らの課題研究の成果の教員養成や教員研修への活用を考察することを通して、各自の課題研究の、教員養成学を内包する学校教育学としての位置付けを明確化させる。 (オムニバス方式／全15回) (29 峯 明秀／2回)「教育養成場面の課題のまとめとTA体験のリフレクション」,「振り返りの発表「教員養成の課題と今後の展望」」を担当する。 (54 八田 幸恵／2回)「教育養成場面の課題のまとめとTA体験のリフレクション」,「振り返りの発表「教員養成の課題と今後の展望」」を担当する。 (42 小林 淳一・54 八田 幸恵・29 峯 明秀・60 兼安 章子／11回)(共同)「授業の進め方 教員養成学への臨床的アプローチ」,「教員養成場面へのTA体験」,「教育養成場面の課題のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	分野 コア 科目	地域教育課題研究		北海道、大阪、福岡における学校現場の地域課題について、量的・質的データをもとに把握し、その課題解決についてアクション・リサーチを行う。課題については、北海道の「へき地・小規模校教育」,大阪の「ダイバーシティ教育(外国につながる子どもの教育・インクルーシブ教育等)」,福岡の「特別支援教育・学校適応支援」の視点から各地域を理解し、課題にアプローチする。 (オムニバス方式／全15回) (8 川前あゆみ／4回)「北海道の「へき地・小規模校教育」の臨床的課題及び研究成果のレビュー」を担当する。 (62 山田 洋平／1回)「福岡の「特別支援教育・学校適応支援」の研究成果のレビュー」を担当する。 (22 高橋 登・⑤ 吉田 茂孝／4回)(共同)「大阪の「ダイバーシティ教育(外国につながるのある子どもの教育・インクルーシブ教育等)」の臨床的課題及び研究成果のレビュー」を担当する。 (④ 見上 昌睦・36 一木 薫／3回)(共同)「福岡の「特別支援教育・学校適応支援」の臨床的課題及び研究成果のレビュー」を担当する。 (8 川前あゆみ・⑤ 吉田 茂孝・22 高橋 登・36 一木 薫・④ 見上 昌睦・62 山田 洋平／3回)(共同)「授業の進め方」,「各自の研究テーマから見た地域課題」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／ 発 達 支 援 領 域	人間発達理解研究	人間理解，発達理解のため心理学や障がい科学分野で膨大な蓄積があるが，本授業では，人間の発達，学習活動，社会性，対人関係についての把握の方法論（広義のアセスメント）および研究の動向をレビューすることで，院生はこれらの研究領域における方法論および知見についての最新の情報を得る。 （オムニバス方式／全15回） （47 水野 君平／3回）「子どもの発達とパーソナリティ」，「子どもの発達と社会的認知」，「子どもの発達と問題行動」を担当する。 （57 渡邊 創太／3回）「授業の進め方」，「人間発達の理解のための方法論及び研究の動向」等を担当する。 （64 森 兼隆／3回）「子どもの学習活動の理解」，「子どもの発達を理解した学習支援の研究」等を担当する。 （32 西山 久子／2回）「子どもの学校適応・対人関係の理解とアセスメント」等を担当する。 （33 相澤 宏充／3回）「障がいのある子どもの発達の理解」等を担当する。 （62 山田 洋平／1回）「子どもの発達の理解の学校での支援」等を担当する。	オムニバス方式
分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／ 発 達 支 援 領 域	人間発達支援研究Ⅰ	子どもの発達支援を，個別支援，クラスワイド，スクールワイドの観点から検討する。国内外の研究を概観する。子どもの人間関係の広がりを意識したグループアプローチによる支援を検討する。インクルーシブ教育の観点から，学級における特別なニーズを有する子どもにも焦点をあてる。 （オムニバス方式／全15回） （16 水野 治久／3回）「授業の進め方」，「人間発達の理解」，「心理教育的援助サービスの展開及び支援の実践と効果測定」を担当する。 （11 片桐 正敏／3回）「特別なニーズを有する子どもの視点からの通常学級の人間発達の理解」を担当する。 （32 西山 久子／2回）「クラスワイドの発達の支援の方法」，「予防的プログラムの展開と発達の支援」を担当する。 （4 見上 昌睦／3回）「特別支援学級から見た人間発達」，「特別支援学校から見た人間発達（幼児期・児童期）」，「特別支援学校から見た人間発達（青年期）」を担当する。 （62 山田 洋平／1回）「スクールワイドの発達の支援の実践」を担当する。 （全員／3回）（共同）「院生の発表」を担当する。	オムニバス方式・共同 （一部）
分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／ 発 達 支 援 領 域	人間発達支援研究Ⅱ	子どもの発達支援について，言語と社会性の発達の理解をふまえ，学校適応支援，特別支援教育の観点から検討する。その後，虐待などのトラウマ体験からの回復について検討する。 （オムニバス方式／全15回） （45 齋藤 暢一郎／2回）（「子どもの臨床的な理解と支援」を担当する。 （20 小松 孝至／2回）「子どもの社会性の発達の理解と支援」を担当する。 （22 高橋 登／3回）「授業の進め方」，「発達をふまえた支援の在り方」，「子どもの言語発達のメカニズム・アセスメントと支援」を担当する。 （32 西山 久子／2回）「様々な発達段階の子どもに対する心理支援・生徒指導」を担当する。 （33 相澤 宏充／2回）「障がいとともに生きる子どもの理解」，「障がいの理解と支援」を担当する。 （62 山田 洋平／1回）「発達段階を考慮した予防的プログラム」を担当する。 （全員／3回）（共同）「研究の発表」を担当する。	オムニバス方式・共同 （一部）

分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／ 発 達 支 援 領 域	キャリア支援研究		子どものキャリア発達の理解，そしてその支援について検討する。とくに，キャリア教育の現状と課題について言及する。加えて内外の教師のキャリア発達の支援についても，検討していく。 (オムニバス方式／全15回) (43 半澤 礼之／8回)「子どものキャリア発達の諸相(発達心理学的側面)」，「キャリア発達研究の内外の動向」，「キャリア教育の動向」，「教員のキャリア発達と教員養成」を担当する。 (32 西山 久子／5回)「子どものキャリア発達の諸相(学校心理学的側面)」，「キャリア教育の動向」，「教師のキャリア支援」を担当する。 (43 半澤 礼之・32 西山 久子／2回)(共同)教員養成のキャリア支援の動向と課題」，「教員のキャリア発達と教員養成」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／ 教 育 実 践 領 域	特別支援教育研究		特別支援教育の基本的な理念や制度について押さえた後，特別支援教育の対象となる代表的な障がいに関する基礎から応用までの包括的な内容，代表的な研究テーマや手法，現代的なトピックについて解説する。 (オムニバス方式／全15回) (36 一木 薫／3回)「特別支援教育の理念及び制度の基本」，「肢体不自由教育に関する総合的理解，研究動向と最新トピック」を担当する。 (11 片桐 正敏／3回)「自閉スペクトラム症に関する総合的理解，研究内容や手法と最新トピック」を担当する。 (26 平賀 健太郎／3回)「病弱教育に関する総合的理解，研究手法と最新トピック」を担当する。 (4 見上 昌睦／3回)「言語障害教育に関する総合的理解，研究内容や手法と最新トピック」を担当する。 (18 大内田 裕／3回)「各種障害の運動障害に関する総合的理解，研究内容や手法と最新トピック」を担当する。	オムニバス方式
分野 科目	臨床 教 科 学 分 野	臨床国語科教育研究		国語科教育学に関する最新の研究動向について概観し，先進的な研究知見を習得するとともに，臨床国語科教育研究に特有の研究手法である臨床的研究について理解し，各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (37 青山 之典／4回)「臨床国語教育の必要性」，「臨床国語教育の理論的基盤」，「臨床国語教育の目的とアプローチ」，「実践者が行う臨床国語教育」を担当する。 (46 幸坂 健太郎／4回)「研究者が行う臨床国語教育」，「臨床国語教育の倫理」，「データの収集・分析方法」，「学会発表・論文執筆の方法」を担当する。 (37 青山 之典・46 幸坂 健太郎／7回)(共同)「ガイダンス」，「研究の構想の紹介と焦点化」，「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教 科 学 分 野	臨床国語科教材開発研究		教材開発に関する最新の研究動向について概観し，臨床国語科教育研究における教材開発研究の理論的枠組みを理解する。また，具体的な教材開発の演習を通して，教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し，各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (5 大橋 賢一／3回)「国語科内容学研究における教材開発の位置付け」，「言語事項の指導における教材開発事例」，「古典を読むことにおける教材開発事例」を担当する。 (37 青山 之典／1回)「説明的文章を読むことにおける教材開発事例」を担当する。 (46 幸坂 健太郎／1回)「論理的思考力育成における教材開発事例」を担当する。 (37 青山 之典・46 幸坂 健太郎／1回)(共同)「国語科教育学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (全員／9回)(共同)「ガイダンス」，「国語科教育における教材開発演習」，「教材開発における教科教育学，教科内容学の視点」，「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床国語科内容学研究		国語科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個別の専門分野の視点から臨床国語科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (5 大橋 賢一／11回)「古典教育における漢文学教材の概要」,「古典教育における漢文学(儒家の思想,諸子の思想,通史,断代史,韻文,散文)」,「古典教育における和漢比較(思想,史伝,文芸)」,「国語科教育における漢文学の役割」を担当する。 (5 大橋 賢一・46 幸坂 健太郎・37 青山 之典／4回)(共同)「ガイダンス」,「国語科内容学研究の位置付け」,「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床社会科教育研究		社会科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床社会科教育研究に特有の研究手法である臨床的研究についてを理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (29 峯 明秀／4回)「社会科教育の理論的基盤(社会科の本質)」,「社会科教育学の研究動向(社会科の性格規定)」,「社会科教育学の研究手法(教育目標と評価)」,「社会科教師教育と研究」を担当する。 (③ 坂井 清隆／4回(「社会科教育の理論的基盤(社会科の歴史と政策)」,「社会科教育学の研究動向(カリキュラム編成・単元構成)」,「社会科教育学の研究手法(教育方法と技術)」,「社会科教師教育と研究」を担当する。 (29 峯 明秀・③ 坂井 清隆／7回)(共同)「ガイダンス」,「研究構想の紹介と焦点化」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床社会科教材開発研究		教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床社会科教育研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (③ 坂井 清隆／1回)「社会科教育学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (15 津田 拓郎／1回)「社会科内容学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (29 峯 明秀・③ 坂井 清隆／10回)(共同)「事例研究(社会科教育学における教材開発研究)」,「社会科教育における教材開発演習」を担当する。 (全員／3回)(共同)「ガイダンス」,「教材開発における教科教育学,教科内容学の視点」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床社会科内容学研究		社会科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個別の専門分野の視点から社会科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (15 津田 拓郎／10回)「社会科内容学の検討(時代区分論に関する近年の動向,歴史学の新潮流,教科書における歴史学の新潮流の反映状況)」,「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」を担当する。 (15 津田 拓郎・29 峯 明秀・③ 坂井 清隆／5回)(共同)「ガイダンス」,「社会科内容学研究の位置づけ」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床理科教育研究		理科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床理科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (30 吉本 直弘／3回)「理科教育学の研究動向(自然体験、環境教育、STEAM教育、理科教育教師論)」,「理科教育学の研究手法(質問紙調査やインタビュー調査とその分析方法)」を担当する。 (61 甲斐 初美／5回)「理科教育学の研究動向(学習論と子どもの自然認識研究、教授論と理科授業デザイン研究、評価論と理科のカリキュラム研究)」,「理科教育学の研究手法(調査方法の概観及び調査の文脈が調査に与える影響、授業実践調査とその分析方法)」を担当する。 (30 吉本 直弘・61 甲斐 初美／7回)(共同)「ガイダンス」,「研究構想の紹介と焦点化」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床数学科教育研究		数学教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床数学科教育研究に特有の研究手法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (63 大滝 孝治／3回)「数学教育学の研究動向(教授人間学理論(ATD)の基礎)」,「数学教育学の研究手法(教授人間学理論(ATD)の基礎)」を担当する。 (27 町頭 義朗／2回)「数学教育学の研究手法(アクションリサーチ、デザイン研究)」を担当する。 (41 有元 康一／3回)「数学教育学の研究動向(目的・目標論、学習指導論、数学科内容学との接点)」を担当する。 (全員／7回)(共同)「ガイダンス」,「研究構想の紹介と焦点化」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床数学科教材開発研究		教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床数学科教育研究における教材開発研究の理論的枠組みを理解する。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (63 大滝 孝治／3回)「探究(SRP)の教授工学」を担当する。 (27 町頭 義朗／2回)「事例研究(解析・確率統計領域における教材開発事例、領域融合による教材開発事例)」を担当する。 (41 有元 康一／3回)「数学教育学研究における教材開発」,「数学科内容学における教材開発」,「事例研究(代数・幾何領域における教材開発事例)」を担当する。 (全員／7回)(共同)「ガイダンス」,「数学教育における教材開発演習」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床数学科内容学研究		数学科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床数科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個別の専門分野の視点から数学科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (63 大滝 孝治／3回)「ブラクセオロジー分析」を担当する。 (27 町頭 義朗／4回)「臨床数学科内容学の検討(論理、確率・統計、微分幾何学、位相幾何学)」を担当する。 (41 有元 康一／3回)「臨床数学科内容学の検討(代数構造、整数論、離散数学)」を担当する。 (全員／5回)(共同)「ガイダンス」,「数学科内容学研究の位置付け」,「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床保健体育科教育研究	保健体育科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床保健体育科教育学研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (55 林 洋輔／3回)「ガイダンス」,「保健体育科教育学の最新の研究動向(体育哲学の歴史と現状,体育哲学の課題)」を担当する。 (38 本多 壮太郎／2回)「保健体育科教育学の最新の研究動向(体育科教育学の歴史と現状,体育科教育学の課題)」を担当する。 (10 中島 寿宏／3回)「保健体育科教育学の最新の研究動向(初等中等教育学の歴史と現状,初等中等教育学の課題)」,「講義のまとめ」を担当する。 (48 石川 美久／2回)「保健体育科教育学の最新の研究動向(武道学の歴史と現状,武道学の課題)」を担当する。 (全員／5回) (共同)「研究構想の紹介と焦点化」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床保健体育科教材開発研究	教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床保健体育科教育学研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (55 林 洋輔／2回)「ガイダンス」,「講義のまとめ」を担当する。 (7 板谷 厚／1回)「保健体育科教育学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (10 中島 寿宏／1回)「保健体育科内容学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (38 本多 壮太郎／1回),「保健体育学の領域に関する,教材開発における教科教育学,教科内容学の視点」を担当する。 (1 神林 勲・12 森田 憲輝・48 石川 美久・38 本多 壮太郎・55 林 洋輔／5回) (共同)「事例研究(保健体育科教育学における教材開発研究)」を担当する。 (7 板谷 厚・10 中島 寿宏・1 神林 勲・12 森田 憲輝・48 石川 美久／5回) (共同)「保健体育科教育における教材開発演習」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床保健体育科内容学研究	保健体育科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個別の専門分野の視点から保健体育科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (55 林 洋輔／3回)「ガイダンス」,「保健体育科内容学の検討(体育哲学の視点から)」,「講義のまとめ」を担当する。 (7 板谷 厚／2回)「保健体育科内容学研究の位置付け」,「保健体育科内容学の検討(教育学の視点から)」を担当する。 (10 中島 寿宏／2回)「保健体育科内容学の検討(初等中等教育学の視点から,臨床教科学としての位置付け)」を担当する。 (1 神林 勲／2回)「保健体育科内容学の検討(健康・スポーツ科学の視点から,臨床教科学としての位置付け)」を担当する。 (12 森田 憲輝／2回)「保健体育科内容学の検討(身体教育学の視点から,臨床教科学としての位置付け)」を担当する。 (48 石川 美久／1回)「保健体育科内容学の検討(武道学の視点から)」を担当する。 (38 本多 壮太郎／1回)「保健体育科内容学の検討(体育科教育学の視点から)」を担当する。 (48 石川 美久・38 本多 壮太郎／2回) (共同)「保健体育学の領域に関する,教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床技術科教育研究		技術科に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床技術科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (3 藤川 聡／8回)「技術科の研究動向(目的論, 技術科教育の系譜, 教育課程, 学習・評価, 技術教育関連分野)」, 「技術科の研究手法(カリキュラム・授業開発, 教育心理学から, 歴史, 国際比較等)」を担当する。 (3 藤川 聡・39 大内 毅／7回)(共同)「ガイダンス」, 「研究構想の紹介と焦点化」, 「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床技術科教材開発研究		教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床技術科教育研究における教材開発研究の理論的枠組みを理解する。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (3 藤川 聡／4回)「技術科教育学研究における教材開発の位置付け」, 「事例研究(ガイダンス, エネルギー変換, 生物育成)」を担当する。 (39 大内 毅／4回)「技術科内容学研究における教材開発の位置付け」, 「事例研究(材料加工, 情報, 複合題材)」を担当する。 (3 藤川 聡・39 大内 毅／7回)(共同)「ガイダンス」, 「技術科教育における教材開発演習」, 「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床技術科内容学研究		技術科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個別の専門分野の視点から臨床技術科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (39 大内 毅／10回)「臨床技術科内容学の検討(材料加工, エネルギー変換, 生物育成, 情報, 複合的な内容)」を担当する。 (3 藤川 聡・39 大内 毅／5回)(共同)「ガイダンス」, 「技術科内容学研究の位置付け」, 「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」, 「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床家庭科教育研究		家庭科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、教科 教育学研究に特有の研究方法を理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (40 貴志 倫子／8回)「家庭科教育学の研究動向(国内外の教科目的論, 国内外の教科カリキュラム論, 国内外の授業研究, 問題解決学習の系譜)」, 「家庭科教育学の研究手法(歴史・比較研究, 量的研究, 質的研究, アクションリサーチ)」を担当する。 (17 碓田 智子／2回)「家庭科教育学の研究動向(多様な主体との協働)」, 「家庭科教育学の研究手法(フィールド調査法)」を担当する。 (40 貴志 倫子・17 碓田 智子／5回)(共同)「ガイダンス」, 「研究構想の紹介と焦点化」, 「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床家庭科教材開発研究	教材開発に関する最新の研究動向について概観し、家庭科教育における教材開発研究の理論的枠組みを理解する。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (17 碓田 智子／4回)「家庭科内容学研究における教材開発の位置付け」,「事例研究(生活文化,まちづくり,安全な生活環境)」を担当する。 ・40 貴志 倫子／4回)「家庭科教育学研究における教材開発の位置付け」,「事例研究(家族・家庭生活,消費生活・環境,ESDにかかわる領域融合)」を担当する。 (17 碓田 智子・40 貴志 倫子／7回)(共同)「ガイダンス」,「家庭科教育における教材開発演習」,「教材開発における教科教育学,教科内容学の視点」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床家庭科内容学研究	家庭科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、社会の諸課題との関わりからの視点から家庭科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (17 碓田 智子／8回)「臨床家庭科内容学の検討(歴史,地域性,生活文化,生活環境,人口・家族構成,ライフスタイルの多様化,防災・安全,まちづくり)」を担当する。 (40 貴志 倫子／2回)「臨床家庭科内容学の検討(生活経営・ジェンダー,消費市民社会)」を担当する。 (17 碓田 智子・40 貴志 倫子／5回)(共同)「ガイダンス」,「家庭科内容学研究の位置付け」,「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
（北海道教育大学大学院教育学研究科共同学校教育学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題 研究 科目	臨床 発達 教育 科学 分野	発達教育科学特別研究Ⅰ	臨床発達教育科学に係る学位論文作成に向けて、「学校教育学」の研究領域としての位置づけに基づき、研究課題を明確化する。また、研究課題に関する先行研究を整理するとともに、研究方法に関する知見を活かして研究構想を具体化する。 (8 川前 あゆみ) へき地・小規模校教育に関する研究指導を行う。 (9 杉本 任士) 行動分析学の方法論を用いた学校、学年・学級経営の改善に関する研究指導を行う。 (11 片桐 正敏) 発達障害のある人、ギフテッドなど特別な教育的ニーズを持つ子どもに対して、基礎研究（認知神経科学）及び心理アセスメントから臨床発達支援に結びつける研究指導を行う。 (13 姫野 完治) 教育工学、特に教師の発達過程の解明とそれに基づく教育・研修方法の開発に関する研究指導を行う。 (14 木村 育恵) 教育社会学、特に教員育成政策及び教員のキャリア形成、教員世界におけるジェンダーに関する研究指導を行う。 (42 小林 淳一) 教員養成・教職志望者・教師の資質能力に関する研究指導を行う。 (43 半澤 礼之) 教育心理学、特に青年期・成人期のキャリア形成に関する研究指導を行う。 (45 齋藤 暢一朗) 不登校・ひきこもり支援、虐待やいじめ等のトラウマケアを含む学校メンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (47 水野 君平) いじめ、学校適応、友人グループ、学級風土、子どものメンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (16 水野 治久) 不登校児童生徒の支援、いじめ被害児童生徒の支援方法及び予防方法、子ども・保護者・教師の援助要請の視点からのチーム学校のあり方に関する研究、学校コミュニティの支援に関する研究指導を行う。 (18 大内田 裕) 認知・運動機能障害に対して脳科学の知見を利用した機能改善手法の開発に関する研究指導を行う。 (19 後藤 健介) 安全教育学、特に自然災害科学、公衆衛生学、防災教育、環境教育に関する研究指導を行う。 (20 小松 孝至) 発達心理学、教育心理学、特に幼児期、児童期の社会的発達（コミュニケーション、自己の発達）に関する研究指導を行う。 (22 高橋 登) 発達心理学、教育心理学、特に子どもの読み書きの発達とつまづきの支援、子どもの文化的発達に関する研究指導を行う。 (23 寺嶋 浩介) 教育工学、特に教師教育、教育方法、教員研修、メディア教育、ICT活用、情報教育に関する研究指導を行う。 (24 豊沢 純子) 教育心理学、社会心理学、特に防災教育、防犯教育に関する心理学研究指導を行う。 (25 仲矢 史雄) 科学教育、生物科学、特に科学技術コミュニケーション、教育評価方法、ICT・AI活用に関する研究指導を行う。 (26 平賀 健太郎) 特別支援教育、特に病弱教育、病弱児、院内学級、復学支援に関する研究指導を行う。 (50 田中 真秀) 教育学、特に学校経営（チーム学校、学校財務）、教育行財政学、教師教育、教育制度、学校教育（コミュニティスクール：家庭・地域との連携）に関する研究指導を行う。 (51 寺坂 明子) 臨床心理学、学校心理学、特に予防的心理教育、問題行動を起こりにくくする学級経営法に関する研究指導を行う。 (52 庭山 和貴) 教育心理学、特別支援教育、応用行動分析、ポジティブ行動支援に関する研究指導を行う。 (54 八田 幸恵) カリキュラム論、教育評価論、教師の力量形成論に関する研究指導を行う。 (55 吉田 茂孝) 教育方法学・インクルーシブ教育、特に授業づくり、学級づくり、教授学、学習集団、教育実践に関する研究指導を行う。 (57 渡邊 創太) 認知科学・学習心理学の応用（特に学習指導、教師自身の認知）に関する研究指導を行う。 (64 森 兼隆) 認知心理学、教育心理学、特に学習活動の認知過程の理解、効果的な学習支援、意味学習・深い学びに関する研究指導を行う。 (3 坂井 清隆) 授業実践（単元展開及び授業展開）における学習者の認知・非認知の変容を、質的アプローチ（授業分析、様相一解釈的分析など）を用いて明らかにし、個々の学習者理解を深めつつ、個に応じた学習指導の方法と自律的な学習を促す評価に関する研究指導を行う。 (32 西山 久子) 校内適応指導教室利用生徒のキャリア発達の促進に関する研究、中等教育における一次支援としてのキャリアカウンセリングの展開に関する研究、教育相談コーディネーターの専門的力量的形成に関する研究指導を行う。 (33 相澤 宏充) 聴覚障害児に関する研究、学齢期の言語の発達・教育に関する研究指導を行う。 (4 見上 昌睦) 言語障害のある子どもの教育的支援に関する研究（学校教育期を中心にライフステージを通しての指導・支援、通常の学級における支援）、吃音・流暢性障害に関する研究指導を行う。 (36 一木 薫) 自立活動の理論、特別支援教育における教師の専門性、特別支援学校のカリキュラム評価に関する研究指導を行う。 (59 川口 俊明) 学力調査をはじめとする各種の調査（質問調査等の計量的分析はもちろん、インタビュー・参与観察等の質的調査も含む）を利用し、教育の不平等の実態把握およびその改善策を明らかにする研究指導を行う。 (62 山田 洋平) 1次的援助サービスにおける社会性と情動の学習を中心とした心理学的介入に関する研究指導を行う。	共同

課題 研究 科目	臨床 発達 教育 科学 分野	発達教育科学特別研究Ⅱ	臨床発達教育科学に係る学位論文作成に向けて、研究仮説と研究方法を構築する。また、臨床的研究の位置づけに基づき、学校現場での検証、データ収集、分析等を通して仮説検証を行い、エビデンスをもって課題の解決に向けた主張を構成する。さらに、各自の研究の成果については、共同ネットワークラボの活動を通して共有・意見交換を行い、今後の研究の方向性に対する示唆を得る。 (8 川前 あゆみ) へき地・小規模校教育に関する研究指導を行う。 (9 杉本 任士) 行動分析学の方法論を用いた学校、学年・学級経営の改善に関する研究指導を行う。 (11 片桐 正敏) 発達障害のある人、ギフテッドなど特別な教育的ニーズを持つ子どもに対して、基礎研究（認知神経科学）及び心理アセスメントから臨床発達支援に結びつける研究指導を行う。 (13 姫野 完治) 教育工学、特に教師の発達過程の解明とそれに基づく教育・研修方法の開発に関する研究指導を行う。 (14 木村 育恵) 教育社会学、特に教員育成政策及び教員のキャリア形成、教員世界におけるジェンダーに関する研究指導を行う。 (42 小林 淳一) 教員養成・教職志望者・教師の資質能力に関する研究指導を行う。 (43 半澤 礼之) 教育心理学、特に青年期・成人期のキャリア形成に関する研究指導を行う。 (45 齋藤 暢一郎) 不登校・ひきこもり支援、虐待やいじめ等のトラウマケアを含む学校メンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (47 水野 君平) いじめ、学校適応、友人グループ、学級風土、子どものメンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (16 水野 治久) 不登校児童生徒の支援、いじめ被害児童生徒の支援方法及び予防方法、子ども・保護者・教師の援助要請の視点からのチーム学校のあり方に関する研究、学校コミュニティの支援に関する研究指導を行う。 (18 大内田 裕) 認知・運動機能障害に対して脳科学の知見を利用した機能改善手法の開発に関する研究指導を行う。 (19 後藤 健介) 安全教育学、特に自然災害科学、公衆衛生学、防災教育、環境教育に関する研究指導を行う。 (20 小松 孝至) 発達心理学、教育心理学、特に幼児期、児童期の社会的発達（コミュニケーション、自己の発達）に関する研究指導を行う。 (22 高橋 登) 発達心理学、教育心理学、特に子どもの読み書きの発達とつまづきの支援、子どもの文化的発達に関する研究指導を行う。 (23 寺嶋 浩介) 教育工学、特に教師教育、教育方法、教員研修、メディア教育、ICT活用、情報教育に関する研究指導を行う。 (24 豊沢 純子) 教育心理学、社会心理学、特に防災教育、防犯教育に関する心理学研究指導を行う。 (25 仲矢 史雄) 科学教育、生物科学、特に科学技術コミュニケーション、教育評価方法、ICT・AI活用に関する研究指導を行う。 (26 平賀 健太郎) 特別支援教育、特に病弱教育、病弱児、院内学級、復学支援に関する研究指導を行う。 (50 田中 真秀) 教育学、特に学校経営（チーム学校、学校財務）、教育行財政学、教師教育、教育制度、学校教育（コミュニティスクール：家庭・地域との連携）に関する研究指導を行う。 (51 寺坂 明子) 臨床心理学、学校心理学、特に予防的心理教育、問題行動を起こりにくくする学級経営法に関する研究指導を行う。 (52 庭山 和貴) 教育心理学、特別支援教育、応用行動分析、ポジティブ行動支援に関する研究指導を行う。 (54 八田 幸恵) カリキュラム論、教育評価論、教師の力量形成論に関する研究指導を行う。 (55 吉田 茂孝) 教育方法学・インクルーシブ教育、特に授業づくり、学級づくり、教授学、学習集団、教育実践に関する研究指導を行う。 (57 渡邊 創太) 認知科学・学習心理学の応用（特に学習指導、教師自身の認知）に関する研究指導を行う。 (64 森 兼隆) 認知心理学、教育心理学、特に学習活動の認知過程の理解、効果的な学習支援、意味学習・深い学びに関する研究指導を行う。 ③ 坂井 清隆) 授業実践（単元展開及び授業展開）における学習者の認知・非認知の変容を、質的アプローチ（授業分析、様相－解釈的分析など）を用いて明らかにし、個々の学習者理解を深めつつ、個に応じた学習指導の方法と自律的な学習を促す評価に関する研究指導を行う。 (32 西山 久子) 校内適応指導教室利用生徒のキャリア発達の促進に関する研究、中等教育における一次支援としてのキャリアカウンセリングの展開に関する研究、教育相談コーディネーターの専門的力量的形成に関する研究指導を行う。 (33 相澤 宏充) 聴覚障害児に関する研究、学齢期の言語の発達・教育に関する研究指導を行う。 ④ 見上 昌睦) 言語障害のある子どもの教育的支援に関する研究（学校教育期を中心にライフステージを通しての指導・支援、通常の学級における支援）、吃音・流暢性障害に関する研究指導を行う。 (36 一木 薫) 自立活動の理論、特別支援教育における教師の専門性、特別支援学校のカリキュラム評価に関する研究指導を行う。 (59 川口 俊明) 学力調査をはじめとする各種の調査（質問調査等の計量的分析はもちろん、インタビュー・参与観察等の質的調査も含む）を利用し、教育の不平等の実態把握およびその改善策を明らかにする研究指導を行う。 (62 山田 洋平) 1次的援助サービスにおける社会性と情動の学習を中心とした心理学的介入に関する研究指導を行う。	共同
----------------	----------------------------	-------------	--	----

課題 研究 科目	臨床 発達 教育 科学 分野	発達教育科学特別研究Ⅲ	臨床発達教育科学に係る学位論文作成に向けて、収集したデータや検証の分析・考察を通して、臨床的研究としての研究成果を明確化する。また、これまでの研究の取り組みを、研究の背景、研究仮説や研究方法の構築、データ分析や検証の結果と考察等の観点から、学術的な研究成果としてまとめる。必要に応じて、各自の研究の成果を共同ネットワークラボの活動を通して共有しながら研究成果のまとめを行う。 (8 川前 あゆみ) へき地・小規模校教育に関する研究指導を行う。 (9 杉本 任士) 行動分析学の方法論を用いた学校、学年・学級経営の改善に関する研究指導を行う。 (11 片桐 正敏) 発達障害のある人、ギフテッドなど特別な教育的ニーズを持つ子どもに対して、基礎研究（認知神経科学）及び心理アセスメントから臨床発達支援に結びつける研究指導を行う。 (13 姫野 完治) 教育工学、特に教師の発達過程の解明とそれに基づく教育・研修方法の開発に関する研究指導を行う。 (14 木村 育恵) 教育社会学、特に教員育成政策及び教員のキャリア形成、教員世界におけるジェンダーに関する研究指導を行う。 (42 小林 淳一) 教員養成・教職志望者・教師の資質能力に関する研究指導を行う。 (43 半澤 礼之) 教育心理学、特に青年期・成人期のキャリア形成に関する研究指導を行う。 (45 齋藤 暢一郎) 不登校・ひきこもり支援、虐待やいじめ等のトラウマケアを含む学校メンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (47 水野 君平) いじめ、学校適応、友人グループ、学級風土、子どものメンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (16 水野 治久) 不登校児童生徒の支援、いじめ被害児童生徒の支援方法及び予防方法、子ども・保護者・教師の援助要請の視点からのチーム学校のあり方に関する研究、学校コミュニティの支援に関する研究指導を行う。 (18 大内田 裕) 認知・運動機能障害に対して脳科学の知見を利用した機能改善手法の開発に関する研究指導を行う。 (19 後藤 健介) 安全教育学、特に自然災害科学、公衆衛生学、防災教育、環境教育に関する研究指導を行う。 (20 小松 孝至) 発達心理学、教育心理学、特に幼児期、児童期の社会的発達（コミュニケーション、自己の発達）に関する研究指導を行う。 (22 高橋 登) 発達心理学、教育心理学、特に子どもの読み書きの発達とつまづきの支援、子どもの文化的発達に関する研究指導を行う。 (23 寺嶋 浩介) 教育工学、特に教師教育、教育方法、教員研修、メディア教育、ICT活用、情報教育に関する研究指導を行う。 (24 豊沢 純子) 教育心理学、社会心理学、特に防災教育、防犯教育に関する心理学研究指導を行う。 (25 仲矢 史雄) 科学教育、生物科学、特に科学技術コミュニケーション、教育評価方法、ICT・AI活用に関する研究指導を行う。 (26 平賀 健太郎) 特別支援教育、特に病弱教育、病弱児、院内学級、復学支援に関する研究指導を行う。 (50 田中 真秀) 教育学、特に学校経営（チーム学校、学校財務）、教育行財政学、教師教育、教育制度、学校教育（コミュニティスクール：家庭・地域との連携）に関する研究指導を行う。 (51 寺坂 明子) 臨床心理学、学校心理学、特に予防的心理教育、問題行動を起こりにくくする学級経営法に関する研究指導を行う。 (52 庭山 和貴) 教育心理学、特別支援教育、応用行動分析、ポジティブ行動支援に関する研究指導を行う。 (54 八田 幸恵) カリキュラム論、教育評価論、教師の力量形成論に関する研究指導を行う。 (56 吉田 茂孝) 教育方法学・インクルーシブ教育、特に授業づくり、学級づくり、教授学、学習集団、教育実践に関する研究指導を行う。 (57 渡邊 創太) 認知科学・学習心理学の応用（特に学習指導、教師自身の認知）に関する研究指導を行う。 (64 森 兼隆) 認知心理学、教育心理学、特に学習活動の認知過程の理解、効果的な学習支援、意味ある学習・深い学びに関する研究指導を行う。 ③ 坂井 清隆) 授業実践（単元展開及び授業展開）における学習者の認知・非認知の変容を、質的アプローチ（授業分析、様相－解釈的分析など）を用いて明らかにし、個々の学習者理解を深めつつ、個に応じた学習指導の方法と自律的な学習を促す評価に関する研究指導を行う。 (32 西山 久子) 校内適応指導教室利用生徒のキャリア発達の促進に関する研究、中等教育における一次支援としてのキャリアカウンセリングの展開に関する研究、教育相談コーディネーターの専門的力量的形成に関する研究指導を行う。 (33 相澤 宏充) 聴覚障害児に関する研究、学齢期の言語の発達・教育に関する研究指導を行う。 (4 見上 昌睦) 言語障害のある子どもの教育的支援に関する研究（学校教育期を中心にライフステージを通しての指導・支援、通常の学級における支援）、吃音・流暢性障害に関する研究指導を行う。 (36 一木 薫) 自立活動の理論、特別支援教育における教師の専門性、特別支援学校のカリキュラム評価に関する研究指導を行う。 (59 川口 俊明) 学力調査をはじめとする各種の調査（質問調査等の計量的分析はもちろん、インタビュー・参与観察等の質的調査も含む）を利用し、教育の不平等の実態把握およびその改善策を明らかにする研究指導を行う。 (62 山田 洋平) 1次的援助サービスにおける社会性と情動の学習を中心とした心理学的介入に関する研究指導を行う。	共同
----------------	----------------------------	-------------	--	----

課題 研究 科目	臨床 教科 学 分 野	教科学特別研究 I	臨床教科学に係る学位論文作成に向けて、「学校教育学」の研究領域としての位置づけに基づき、研究課題を明確化する。また、研究課題に関する先行研究を整理するとともに、研究方法に関する知見を活かして研究構想を具体化する。 (1 神林 勲) 子どもの健康および体力・運動能力に関する研究指導を行う。 (2 笠原 究) 第二言語習得に関する研究指導を行う。 (3 藤川 聡) 教育方法、評価、特に技術科の教材開発と指導と評価の在り方、達成動機付けの原因帰属と教訓帰納に基づく認知カウンセリングに関する研究指導を行う。 (4 尾関 俊浩) 雪氷物理学に関する研究、特に雪害科学に関する研究や、雪崩コース教育に関する研究指導を行う。 (5 大橋 賢一) 漢字漢文教育に関する研究指導を行う。 (6 李 知恩) 美術、特にデザイン、美術鑑賞、感性評価に関する研究指導を行う。 (7 板谷 厚) 運動の発達と学習の過程の解明、及びそれに基づく運動指導に関する研究指導を行う。 (10 中島 寿宏) 保健体育科教育学、教育心理学、特に体育・保健体育における教師と児童生徒のコミュニケーションにおける心理的作用に関する研究指導を行う。 (12 森田 憲輝) 子どもの学力・認知機能と体力・体格との関係に関する研究（認知科学・生理学・疫学的研究）指導を行う。 (15 津田 拓郎) 外国史、特に西洋中世史や中世グローバル・ヒストリーに関する研究指導を行う。 (44 小山 耕平) 理科教育、特に植物生態学と森林生態学および生物野外計測に関する研究指導を行う。 (46 幸坂 健太郎) 国語科教育の授業方法、論理的思考力育成に関する研究指導を行う。 (63 大滝 孝治) 教授人間学理論（ATD）に基づく学校数学教育に関する研究指導を行う。 (17 確田 智子) 家政学、生活科学、特に住環境学、住生活学、住まい・まちづくり学習に関する研究指導を行う。 (1 鈴木 剛) 生物学、特に植物分子遺伝学・植物育種学・染色体工学に関する研究指導を行う。 (27 町頭 義朗) 幾何学、特にリーマン幾何学、離散幾何学、微分可能多様体に関する研究指導を行う。 (2 三島 和宏) 情報工学、特に情報システム、ネットワークの視点をういた、情報教育、ICT活用教育に関する研究指導を行う。 (29 峯 明秀) 教育学、教科教育学、教育方法及び社会科教育に関する研究指導を行う。 (30 吉本 直弘) 科学教育、教科教育（地学教育・理科教育）、気象学、防災教育の視点をういた、理科教育学に関する研究指導を行う。 (48 石川 美久) スポーツ科学、特にコーチング、武道、柔道、安全教育に関する研究指導を行う。 (49 兼平 佳枝) コミュニケーション、共感、音楽的思考等を視点とした音楽教育実践学に関する研究指導を行う。 (53 橋本 健一) 第二言語習得、心理言語学の視点に基づく英語教育学に関する研究指導を行う。 (55 林 洋輔) メタ体育学、体育・スポーツ哲学、哲学の方法・視点をういた保健体育学研究、単元「体育理論」の諸問題に関する研究指導を行う。 (58 渡邊 美香) 子どもの表現・鑑賞、図画工作科・美術科の教科教育学に関する研究指導を行う。 ③ 坂井 清隆) シティズンシップ教育実践を中心に各教科等での教育実践における質的な授業研究（授業分析）及び学習評価に関する研究指導を行う。 (37 青山 之典) テクスト研究、学習者研究に焦点をあてた読解指導論構築に関する研究指導を行う。 (38 本多 壮太郎) 知識の構造化とその活用を図る体育科・保健体育科学習指導に関する研究、反転授業を取り入れた体育科・保健体育科学習指導に関する研究指導を行う。 (39 大内 毅) 科学教育、特に初等・中等教育における科学的・工学的アプローチを基軸としたSTEAM型ものづくりに関する研究指導を行う。 (40 貴志 倫子) 責任ある生活者育成のための初等中等家庭科のカリキュラム、授業研究、学習指導、教師教育に関する研究指導を行う。 (41 有元 康一) 数学科教育学および代数学・数学基礎に関する研究、特に、算数・数学科における学習指導、教材開発、またその背景となる、数論、離散数学、計算機数学、数学史に関する研究指導を行う。	共同
----------------	-------------------------	-----------	--	----

課題 研究 科目	臨床 教科 学分 野	教科学特別研究Ⅱ	臨床教科学に係る学位論文作成に向けて、研究仮説と研究方法を構築する。また、臨床的研究の位置づけに基づき、学校現場での検証、データ収集、分析等を通して仮説検証を行い、エビデンスをもって課題の解決に向けた主張を構成する。さらに、各自の研究の成果については、共同ネットワークラボの活動を通して共有・意見交換を行い、今後の研究の方向性に対する示唆を得る。	共同
----------------	---------------------	----------	---	----

課題 研究 科目	臨床 教科 学分 野	教科学特別研究Ⅲ		臨床教科学に係る学位論文作成に向けて、収集したデータや検証の分析・考察を通して、臨床的研究としての研究成果を明確化する。また、これまでの研究の取り組みを、研究の背景、研究仮説や研究方法の構築、データ分析や検証の結果と考察等の観点から、学術的な研究成果としてまとめる。必要に応じて、各自の研究の成果を共同ネットワークラボの活動を通して共有しながら研究成果のまとめを行う。 (1 神林 勲) 子どもの健康および体力・運動能力に関する研究指導を行う。 (2 笠原 究) 第二言語習得に関する研究指導を行う。 (3 藤川 聡) 教育方法、評価、特に技術科の教材開発と指導と評価の在り方、達成動機付けの原因帰属と教訓帰納に基づく認知カウンセリングに関する研究指導を行う。 (4 尾関 俊浩) 雪水物理学に関する研究、特に雪害科学に関する研究や、雪崩コース教育に関する研究指導を行う。 (5 大橋 賢一) 漢字漢文教育に関する研究指導を行う。 (6 李 知恩) 美術、特にデザイン、美術鑑賞、感性評価に関する研究指導を行う。 (7 板谷 厚) 運動の発達と学習の過程の解明、及びそれに基づく運動指導に関する研究指導を行う。 (10 中島 寿宏) 保健体育科教育学、教育心理学、特に体育・保健体育における教師と児童生徒のコミュニケーションにおける心理的作用に関する研究指導を行う。 (12 森田 憲輝) 子どもの学力・認知機能と体力・体格との関係に関する研究（認知科学・生理学・疫学的研究）指導を行う。 (15 津田 拓郎) 外国史、特に西洋中世史や中世グローバル・ヒストリーに関する研究指導を行う。 (14 小山 耕平) 理科教育、特に植物生態学と森林生態学および生物野外計測に関する研究指導を行う。 (46 幸坂 健太郎) 国語科教育の授業方法、論理的思考力育成に関する研究指導を行う。 (63 大滝 孝治) 教授人間学理論（ATD）に基づく学校数学教育に関する研究指導を行う。 (17 確田 智子) 家政学、生活科学、特に住環境学、住生活学、住まい・まちづくり学習に関する研究指導を行う。 (1) 鈴木 剛) 生物学、特に植物分子遺伝学・植物育種学・染色体工学に関する研究指導を行う。 (27 町頭 義朗) 幾何学、特にリーマン幾何学、離散幾何学、微分可能多様体に関する研究指導を行う。 (2) 三島 和宏) 情報工学、特に情報システム、ネットワークの視点を用いた、情報教育、ICT活用教育に関する研究指導を行う。 (29 星 明秀) 教育学、教科教育学、教育方法及び社会科教育に関する研究指導を行う。 (30 吉本 直弘) 科学教育、教科教育（地学教育・理科教育）、気象学、防災教育の視点を用いた、理科教育学に関する研究指導を行う。 (48 石川 美久) スポーツ科学、特にコーチング、武道、柔道、安全教育に関する研究指導を行う。 (49 兼平 佳枝) コミュニケーション、共感、音楽的思考等を視点とした音楽教育実践学に関する研究指導を行う。 (53 橋本 健一) 第二言語習得、心理言語学の視点に基づく英語教育学に関する研究指導を行う。 (55 林 洋輔) メタ体育学、体育・スポーツ哲学、哲学の方法・視点を用いた保健体育学研究、単元「体育理論」の諸問題に関する研究指導を行う。 (58 渡邊 美香) 子どもの表現・鑑賞、図画工作科・美術科の教科教育学に関する研究指導を行う。 (3 坂井 清隆) シティズンシップ教育実践を中心に各教科等での教育実践における質的な授業研究（授業分析）及び学習評価に関する研究指導を行う。 (37 青山 之典) テキスト研究、学習者研究に焦点をあてた読解指導論構築に関する研究指導を行う。 (38 本多 壮太郎) 知識の構造化とその活用を図る体育科・保健体育科学習指導に関する研究、反転授業を取り入れた体育科・保健体育科学習指導に関する研究指導を行う。 (39 大内 毅) 科学教育、特に初等・中等教育における科学的・工学的アプローチを基軸としたSTEAM型ものづくりに関する研究指導を行う。 (40 黄志 倫子) 責任ある生活者育成のための初等中等家庭科のカリキュラム、授業研究、学習指導、教師教育に関する研究指導を行う。 (41 有元 康一) 数学科教育学および代数学・数学基礎に関する研究、特に、算数・数学科における学習指導、教材開発、またその背景となる、数論、離散数学、計算機数学、数学史に関する研究指導を行う。	共同
共通 科目	共通 科目	学校教育学原論Ⅰ		学校教育の諸課題の整理とその課題にどのようにアプローチするのかについて整理する。まず、学校教育の課題について、内外の文献から整理する。そしてその解決を促す臨床的研究について、教育学、心理学、教科教育学からアプローチする。 (オムニバス方式／全8回) (13 姫野 完治／1回) 「教員養成の課題」を担当する。 (8 川前あゆみ／1回) 「学校・地域・家庭の課題」を担当する。 (5 吉田 茂孝／2回) 「諸外国との比較から考える」「インクルーシブ教育の課題」を担当する。 (53 橋本 健一／1回) 「教科教育・学力の課題（中等教育）」を担当する。 (64 森 兼隆／1回) 「子どもの学習の課題（認知の観点から）」を担当する。 (3 坂井 清隆／1回) 「教科教育・学力の課題（初等教育）」を担当する。 (全員／1回) (共同) 「臨床的研究からみた学校教育の諸課題」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

共通 科目	共通 科目	学校教育学原論Ⅱ		学校教育学原論Ⅰで整理した学校教育の諸課題について、臨床的研究の視点から整理する。受講生の一人ひとりの研究テーマを掘り下げるために、内外の学術雑誌を読み込み、その領域に対する研究を概観し、臨床的研究への方向性を明確にする。 (オムニバス方式／全8回) (43 半澤 礼之／1回)「子どもの適応の課題についての国内外の研究・政策動向：教育心理学の観点から」を担当する。 (9 杉本 任士／1回)「子どもの適応の課題についての国内外の研究・政策動向：行動分析学の観点から」を担当する。 (⑤ 吉田 茂孝／1回)「特別なニーズのある子どもの教育についての国内外の研究・政策動向：教育方法学の観点から」を担当する。 (23 寺嶋 浩介／1回)「研究テーマの展望的な検討の方法」を担当する。 (53 橋本 健一／1回)「教科教育、学力の課題についての国内外の研究・政策動向：英語教育の観点から」を担当する。 (64 森 兼隆／1回)「特別なニーズのある子どもの教育についての国内外の研究・政策動向」を担当する。 (59 川口 俊明／1回)「教科教育、学力の課題についての国内外の研究・政策動向：学力調査の観点から」を担当する。 (全員／1回) (共同)「授業進め方及び研究テーマの確認」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
共通 科目	共通 科目	教育臨床参画研究Ⅰ		研究フィールドとしての学校現場へ参画する。そのためにまずは研究倫理、アクション・リサーチについての理解を深める。その後、学校現場で、臨床的な課題を観察する。その上で、院生が、自身の研究課題との関連を明確化するとともに、課題研究の構想に役立てることをめざす。研究フィールドは、派遣の現職教員においては勤務校、その他の学生は附属学校を想定する。 (オムニバス方式／全8回) (8 川前あゆみ／1回)「学校の課題に対する参画研究の実際」を担当する。 (16 水野 治久／1回)「学校教育の諸課題の整理とその課題にどのようにアプローチするのか」を担当する。 (16 水野 治久・57 渡邊 創太／1回) (共同)「広義のアクション・リサーチの方法」を担当する。 (8 川前あゆみ・14 木村 育恵・16 水野 治久・57 渡邊 創太・③ 坂井 清隆／5回) (共同)「臨床的参画の計画の発表会」,「臨床的参画」,「学校現場での参与観察・介入(参画)の中間発表」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
共通 科目	共通 科目	教育臨床参画研究Ⅱ		教育臨床参画研究Ⅰでの学校現場への参画を継続しながら、各自の研究課題を焦点化するとともに、臨床的研究としての研究構想を具体化する機会を設定する。そして、そのために、具体的に教育現場への参画研究を実施する。その研究成果をまとめる。 (オムニバス方式／全8回) (8 川前あゆみ／1回)「参画研究で学校の課題の捉え方」を担当する。 (14 木村 育恵／1回)「ジェンダー視点に基づく分析者のキャリア形成と臨床的参画研究」を担当する。 (16 水野 治久／1回)「授業の進行と教育臨床参画研究のシェアリング」を担当する。 (16 水野 治久・57 渡邊 創太／1回) (共同)「臨床的な視点のシェアリングと教育臨床参画研究Ⅱにおける参画計画」を担当する。 (8 川前あゆみ・14 木村 育恵・16 水野 治久・57 渡邊 創太・③ 坂井 清隆／4回) (共同)「臨床的参画」,「学校現場での臨床的参画研究のまとめの発表会」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

共通 科目	共通 科目	教員養成学開発論		教員養成への目的意識を向上させ、教員養成における今日的課題を理解するとともに、次世代における教員養成のあり方を探究する。教師教育、教員養成に関する学術的な知見を得ることによって、教員養成学を開発する基盤を構築する。 (オムニバス方式／全15回) (13 姫野 完治／3回)「教育の実践と理論の統合」,「成人の発達と教師の発達」,「専門職の学習と教師の学習」を担当する。 (42 小林 淳一／3回)「教師像の歴史的展開」,「地域社会ニーズと子どものニーズを踏まえた新しい教師像の開発」,「教員養成学部教員に必要な資質とその開発」を担当する。 (54 八田 幸恵／3回)「日本の教員養成制度の歴史的展開」,「教員養成の論点」,「教員養成と臨床的研究」を担当する。 (29 峯 明秀／3回)「初等・中等教員養成カリキュラムの構成原理」,「教職科目・教科専門・教科教育法の有機的連関」を担当する。 (60 兼安 章子／3回)「効果的な教育実習の時期・内容・形態」,「大学院における教員養成・現職教育のあり方」,「教員養成カリキュラムの効果検証」を担当する。	オムニバス方式
共通 科目	共通 科目	教員養成学臨床研究		大学教員のTA等を通して、教育学部・教職大学院等の学生に対する「教職課程コアカリキュラム」に係る科目の指導等を経験し、教員養成大学の教員の専門性のあり方について学ぶ機会とする。現職教員の場合は学校現場や教育委員会で教員志望の学生を受け入れている場面でのTAを体験する。また、自らの課題研究の成果の教員養成や教員研修への活用を考察することを通して、各自の課題研究の、教員養成学を内包する学校教育学としての位置付けを明確化させる。 (オムニバス方式／全15回) (29 峯 明秀／2回)「教育養成場面の課題のまとめとTA体験のリフレクション」,「振り返りの発表「教員養成の課題と今後の展望」」を担当する。 (54 八田 幸恵／2回)「教育養成場面の課題のまとめとTA体験のリフレクション」,「振り返りの発表「教員養成の課題と今後の展望」」を担当する。 (42 小林 淳一・54 八田 幸恵・29 峯 明秀・60 兼安 章子／11回)(共同)「授業の進め方 教員養成学への臨床的アプローチ」,「教員養成場面へのTA体験」,「教育養成場面の課題のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	分野 コア 科目	地域教育課題研究		北海道、大阪、福岡における学校現場の地域課題について、量的・質的データをもとに把握し、その課題解決についてアクション・リサーチを行う。課題については、北海道の「へき地・小規模校教育」,大阪の「ダイバーシティ教育(外国につながる子どもの教育・インクルーシブ教育等)」,福岡の「特別支援教育・学校適応支援」の視点から各地域を理解し、課題にアプローチする。 (オムニバス方式／全15回) (8 川前あゆみ／4回)「北海道の「へき地・小規模校教育」の臨床的課題及び研究成果のレビュー」を担当する。 (62 山田 洋平／1回)「福岡の「特別支援教育・学校適応支援」の研究成果のレビュー」を担当する。 (22 高橋 登・⑤ 吉田 茂孝／4回)(共同)「大阪の「ダイバーシティ教育(外国につながるのある子どもの教育・インクルーシブ教育等)」の臨床的課題及び研究成果のレビュー」を担当する。 (④ 見上 昌睦・36 一木 薫／3回)(共同)「福岡の「特別支援教育・学校適応支援」の臨床的課題及び研究成果のレビュー」を担当する。 (8 川前あゆみ・⑤ 吉田 茂孝・22 高橋 登・36 一木 薫・④ 見上 昌睦・62 山田 洋平／3回)(共同)「授業の進め方」,「各自の研究テーマから見た地域課題」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／ 発 達 支 援 領 域	人間発達理解研究	人間理解、発達理解のため心理学や障がい科学分野で膨大な蓄積があるが、本授業では、人間の発達、学習活動、社会性、対人関係についての把握の方法論（広義のアセスメント）および研究の動向をレビューすることで、院生はこれらの研究領域における方法論および知見についての最新の情報を得る。 （オムニバス方式／全15回） （47 水野 君平／3回）「子どもの発達とパーソナリティ」，「子どもの発達と社会的認知」，「子どもの発達と問題行動」を担当する。 （57 渡邊 創太／3回）「授業の進め方」，「人間発達の理解のための方法論及び研究の動向」等を担当する。 （64 森 兼隆／3回）「子どもの学習活動の理解」，「子どもの発達を理解した学習支援の研究」等を担当する。 （32 西山 久子／2回）「子どもの学校適応・対人関係の理解とアセスメント」等を担当する。 （33 相澤 宏充／3回）「障がいのある子どもの発達の理解」等を担当する。 （62 山田 洋平／1回）「子どもの発達の理解の学校での支援」等を担当する。	オムニバス方式
分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／ 発 達 支 援 領 域	人間発達支援研究Ⅰ	子どもの発達支援を、個別支援、クラスワイド、スクールワイドの観点から検討する。国内外の研究を概観する。子どもの人間関係の広がりを意識したグループアプローチによる支援を検討する。インクルーシブ教育の観点から、学級における特別なニーズを有する子どもにも焦点をあてる。 （オムニバス方式／全15回） （16 水野 治久／3回）「授業の進め方」，「人間発達の理解」，「心理教育的援助サービスの展開及び支援の実際と効果測定」を担当する。 （11 片桐 正敏／3回）「特別なニーズを有する子どもの視点からの通常学級の人間発達の理解」を担当する。 （32 西山 久子／2回）「クラスワイドの発達の支援の方法」，「予防的プログラムの展開と発達の支援」を担当する。 （④ 見上 昌睦／3回）「特別支援学級から見た人間発達」，「特別支援学校から見た人間発達（幼児期・児童期）」，「特別支援学校から見た人間発達（青年期）」を担当する。 （62 山田 洋平／1回）「スクールワイドの発達の支援の実際」を担当する。 （全員／3回）（共同）「院生の発表」を担当する。	オムニバス方式・共同 （一部）
分野 科目	臨床 発達 教育 科学 分野 ／ 発 達 支 援 領 域	人間発達支援研究Ⅱ	子どもの発達支援について、言語と社会性の発達の理解をふまえ、学校適応支援、特別支援教育の観点から検討する。その後、虐待などのトラウマ体験からの回復について検討する。 （オムニバス方式／全15回） （45 齋藤 暢一郎／2回）（「子どもの臨床的な理解と支援」を担当する。 （20 小松 孝至／2回）「子どもの社会性の発達の理解と支援」を担当する。 （22 高橋 登／3回）「授業の進め方」，「発達をふまえた支援の在り方」，「子どもの言語発達のメカニズム・アセスメントと支援」を担当する。 （32 西山 久子／2回）「様々な発達段階の子どもに対する心理支援・生徒指導」を担当する。 （33 相澤 宏充／2回）「障がいとともに生きる子どもの理解」，「障がいの理解と支援」を担当する。 （62 山田 洋平／1回）「発達段階を考慮した予防的プログラム」を担当する。 （全員／3回）（共同）「研究の発表」を担当する。	オムニバス方式・共同 （一部）

分野 科目	臨床 発達 教育学 分野／発 達支援 領域	キャリア支援研究		子どものキャリア発達の理解、そしてその支援について検討する。とくに、キャリア教育の現状と課題について言及する。加えて内外の教師のキャリア発達の支援についても、検討していく。 (オムニバス方式／全15回) (43 半澤 礼之／8回)「子どものキャリア発達の諸相(発達心理学的側面)」,「キャリア発達研究の内外の動向」,「キャリア教育の動向」,「教員のキャリア発達と教員養成」を担当する。 (32 西山 久子／5回)「子どものキャリア発達の諸相(学校心理学的側面)」,「キャリア教育の動向」,「教師のキャリア支援」を担当する。 (43 半澤 礼之・32 西山 久子／2回)(共同)教員養成のキャリア支援の動向と課題」,「教員のキャリア発達と教員養成」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 発達 教育学 分野／教 育実践 領域	教育方法学研究		カリキュラム,授業,生活指導を開発する諸理論の布置を描いた上で,カリキュラム,授業,生活指導をめぐる教育改革の国際的動向について概観する。その上で,日本の教育方法実践史を取り上げ,日本に特徴的な子どもの生活現実やニーズからカリキュラム,授業,生活指導をつくる実践のあり方の現代的意義を検討する。 (オムニバス方式／全15回) (42 小林 淳一／5回)「日本の教育改革の動向と教育方法学研究」,「子どもの生活現実と教育実践」,「現代的課題と教育方法学」を担当する。 (54 八田 幸恵／5回)「教育方法学研究の構図」,「米国・英国の教育方法学研究」,「教育改革の国際的動向」,「戦後日本の教育方法論の史的展開」を担当する。 (⑤ 吉田 茂孝／5回)「ヨーロッパの教育方法学研究」,「教育改革の国際的動向」,「戦後日本の教育方法論の史的展開」を担当する。	オムニバス方式
分野 科目	臨床 発達 教育学 分野／教 育実践 領域	特別支援教育研究		特別支援教育の基本的な理念や制度について押さえた後,特別支援教育の対象となる代表的な障がいに関する基礎から応用までの包括的な内容,代表的な研究テーマや手法,現代的なトピックについて解説する。 (オムニバス方式／全15回) (36 一木 薫／3回)「特別支援教育の理念及び制度の基本」,「肢体不自由教育に関する総合的理解,研究動向と最新トピック」を担当する。 (11 片桐 正敏／3回)「自閉スペクトラム症に関する総合的理解,研究内容や手法と最新トピック」を担当する。 (26 平賀 健太郎／3回)「病弱教育に関する総合的理解,研究手法と最新トピック」を担当する。 (④ 見上 昌睦／3回)「言語障害教育に関する総合的理解,研究内容や手法と最新トピック」を担当する。 (18 大内田 裕／3回)「各種障害の運動障害に関する総合的理解,研究内容や手法と最新トピック」を担当する。	オムニバス方式
分野 科目	臨床 発達 教育学 分野／学 校支援 領域	学校コミュニティ支援研究		学校コミュニティ支援に関する各テーマについて,国内外の文献を講読して議論をおこない,学校コミュニティの改善が子どものウェルビーイングにどのように影響するのか検討する。 (オムニバス方式／全15回) (51 寺坂 明子／5回)「学校コミュニティ支援の考え方」「子どもと子どもを取り巻く環境との関係」「学校コミュニティ支援の方法と展開」「エビデンスに基づく教育アプローチとプログラム評価の方法」を担当する。 (24 豊沢 純子／5回)「学校コミュニティにおける安全」「安全教育の担い手としての学部生へのアプローチ」「ポジティブ心理学と安全教育」を担当する。 (9 杉本 任士／5回)「行動分析学を用いた学年・学級コミュニティの改善」「学校コミュニティにおけるポジティブ行動支援」「地域コミュニティにおける生徒指導体制の構築」「学校コミュニティにおける心理的安全性とウェルビーイング」を担当する。	オムニバス方式

分野 科目	臨床 発達 教育学 科学 分野 ／学 校支 援領 域	教員キャリア・研修マネジ メント研究	教員が①自身のキャリア、②管理職やミドルリーダーとして若手教員のキャリア形成に関与、教員研修をマネジメントできる人材の育成を目指すために、量的・質的データをもとに現状の課題を把握し、その課題解決についてアクション・リサーチを行う。最終的には理論と経験に基づいた新たな研修システムを提案できるようにする。 (オムニバス方式／全15回) (13 姫野 完治／1回)「教員育成に関する教育工学的アプローチ」を担当する。 (50 田中 真秀／2回)「変化の時代に対応した子どもを育成する教員の育成—教員評価の構築—」,「教員育成に関する行政学・経営学・社会学的アプローチ」を担当する。 (13 姫野 完治・50 田中 真秀／12回)(共同)「授業の進め方,受講生の問題意識の確認,臨床的研究の概念の確認」,「教員キャリア」の視点へのアプローチ」,「研修の体系化に向けた多角的な学問の視点」,「未来を見据えた教員研修制度の提案」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床国語科教育研究	国語科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床国語科教育研究に特有の研究手法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (37 青山 之典／4回)「臨床国語教育の必要性」,「臨床国語教育の理論的基盤」,「臨床国語教育の目的とアプローチ」,「実践者が行う臨床国語教育」を担当する。 (46 幸坂 健太郎／4回)「研究者が行う臨床国語教育」,「臨床国語教育の倫理」,「データの収集・分析方法」,「学会発表・論文執筆の方法」を担当する。 (37 青山 之典・46 幸坂 健太郎／7回)(共同)「ガイダンス」,「研究の構想の紹介と焦点化」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床国語科教材開発研究	教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床国語科教育研究における教材開発研究の理論的枠組みを理解する。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (5 大橋 賢一／3回)「国語科内容学研究における教材開発の位置付け」,「言語事項の指導における教材開発事例」,「古典を読むことにおける教材開発事例」を担当する。 (37 青山 之典／1回)「説明的文章を読むことにおける教材開発事例」を担当する。 (46 幸坂 健太郎／1回)「論理的思考力育成における教材開発事例」を担当する。 (37 青山 之典・46 幸坂 健太郎／1回)(共同)「国語科教育学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (全員／9回)(共同)「ガイダンス」,「国語科教育における教材開発演習」,「教材開発における教科教育学,教科内容学の視点」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床国語科内容学研究	国語科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個別の専門分野の視点から臨床国語科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (5 大橋 賢一／11回)「古典教育における漢文学教材の概要」,「古典教育における漢文学(儒家の思想,諸子の思想,通史,断代史,韻文,散文)」,「古典教育における和漢比較(思想,史伝,文芸)」,「国語科教育における漢文学の役割」を担当する。 (5 大橋 賢一・46 幸坂 健太郎・37 青山 之典／4回)(共同)「ガイダンス」,「国語科内容学研究の位置付け」,「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床英語科教育研究		英語科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得する。特に臨床英語科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解するために、日本の英語教育や第二言語習得の最新文献を素材として講義・輪読を行う。また得られた知見を各自の研究課題にどのように生かすかの議論を行う。 (2 笠原 究)「ガイドンス」,「英語科教育学の研究動向」,「英語科教育学研究の最先端」,「研究の構想の紹介と焦点化」を担当する。 (53 橋本 健一)「ガイドンス」,「英語科教育学の研究動向」,「英語科教育学研究の最先端」,「研究の構想の紹介と焦点化」を担当する。	共同
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床英語科教材開発研究		教材開発の視点を踏まえつつ、臨床英語科教育学研究における技能別指導・技能統合型指導について検討する。教科教育学と教科内容学の融合的視点も踏まえつつ、各技能、及び技能統合型の授業について映像や文献を通して知見を得て、自らの実践に生かせる教材開発の演習を行う。また、それらをベースにして、各自の研究課題・授業実践に対する示唆を得る。 (2 笠原 究)「ガイドンス」,「英語リーディング指導の最先端」(主担当),「英語リスニング指導の最先端」(副担当),「英語ライティング指導の最先端」(主担当),「英語スピーキング指導の最先端」(副担当),「技能統合型指導の最先端」を担当する。 (53 橋本 健一)「ガイドンス」,「英語リーディング指導の最先端」(副担当),「英語リスニング指導の最先端」(主担当),「英語ライティング指導の最先端」(副担当),「英語スピーキング指導の最先端」(主担当),「技能統合型指導の最先端」を担当する。	共同
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床英語科内容学研究		英語科教育における内容学研究の動向について、主として言語材料に焦点を当てつつ概観し、英語科内容学研究が臨床英語科教育学にもたらす示唆や臨床英語科内容学のあり方について検討する。また、これらの融合的視点を踏まえて、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (2 笠原 究)「ガイドンス」,「英語音声習得研究の最先端」(副担当),「英語語彙習得研究の最先端」(主担当),「英語文法習得研究の最先端」(副担当),「英語圏文化研究の最先端」(主担当),「各自の研究課題に関する検討」を担当する。 (53 橋本 健一)「ガイドンス」,「英語音声習得研究の最先端」(主担当),「英語語彙習得研究の最先端」(副担当),「英語文法習得研究の最先端」(主担当),「英語圏文化研究の最先端」(副担当),「各自の研究課題に関する検討」を担当する。	共同
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床社会科教材開発研究		教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床社会科教育学研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (③ 坂井 清隆／1回)「社会科教育学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (15 津田 拓郎／1回)「社会科内容学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (29 峯 明秀・③ 坂井 清隆／10回)(共同)「事例研究(社会科教育学における教材開発研究)」,「社会科教育における教材開発演習」を担当する。 (全員／3回)(共同)「ガイドンス」,「教材開発における教科教育学、教科内容学の視点」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床社会科内容学研究	社会科教育における内容学研究の研究動向について概観し，臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また，個別の専門分野の視点から社会科内容学のあり方を検討するとともに，教科教育学との融合についても議論し，各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (15 津田 拓郎／10回)「社会科内容学の検討(時代区分論に関する近年の動向，歴史学の新潮流，教科書における歴史学の新潮流の反映状況)」，「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」を担当する。 (15 津田 拓郎・29 峯 明秀・③ 坂井 清隆／5回)(共同)「ガイドンス」，「社会科内容学研究の位置づけ」，「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床理科教材開発研究	教材開発に関する最新の研究動向について概観し，臨床理科教育研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また，具体的な教材開発の演習を通して，教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し，各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (30 吉本 直弘／1回)「理科教育研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (4 尾関 俊浩／1回)「理科内容学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (44 小山 耕平・30 吉本 直弘／2回)(共同)「事例研究(ICT機器の活用とオンライン資料の活用の事例，教材開発の臨床データの解析事例)」を担当する。 (4 尾関 俊浩・44 小山 耕平／2回)(共同)「事例研究(野外観察と室内観察による教材開発事例，教材開発のための統計データの解析手法)」を担当する。 (4 尾関 俊浩・30 吉本 直弘／1回)(共同)「事例研究(演示実験装置の教材開発事例)」を担当する。 (全員／8回)(共同)「ガイドンス」，「理科教育研究における教材開発演習」，「教材開発における教科教育学，教科内容学の視点」，「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床理科内容学研究	理科教育における内容学研究の研究動向について概観し，臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また，個別の専門分野の視点から理科内容学のあり方を検討するとともに，教科教育学との融合についても議論し，各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (4 尾関 俊浩／3回)「理科内容学の検討(自然災害分野における研究成果紹介，自然災害分野・放射線分野における理科内容学)」を担当する。 (44 小山 耕平／2回)「理科内容学の検討(植物生態学分野における研究成果紹介，植物生態学分野における理科内容学)」を担当する。 (① 鈴木 剛／3回)「理科内容学の検討(植物遺伝子分野における研究成果紹介，植物遺伝子分野における理科内容学)」を担当する。 (30 吉本 直弘／3回)「理科内容学研究の位置付け」，「理科内容学の検討(気象学分野における研究成果紹介，気象学分野における理科内容学)」を担当する。 (44 小山 耕平・① 鈴木 剛／1回)(共同)「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」を担当する。 (4 尾関 俊浩・30 吉本 直弘／1回)(共同)「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」を担当する。 (全員／2回)(共同)「ガイドンス」，「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床数学科教育研究		数学教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床数学科教育研究に特有の研究手法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (63 大滝 孝治／3回)「数学教育学の研究動向(教授人間学理論(ATD)の基礎)」,「数学教育学の研究手法(教授人間学理論(ATD)の基礎)」を担当する。 (27 町頭 義朗／2回)「数学教育学の研究手法(アクションリサーチ,デザイン研究)」を担当する。 (41 有元 康一／3回)「数学教育学の研究動向(目的・目標論,学習指導論,数学科内容学との接点)」を担当する。 (全員／7回)(共同)「ガイダンス」,「研究構想の紹介と焦点化」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床数学科教材開発研究		教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床数学科教育研究における教材開発研究の理論的枠組みを理解する。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (63 大滝 孝治／3回)「探究(SRP)の教授工学」を担当する。 (27 町頭 義朗／2回)「事例研究(解析・確率統計領域における教材開発事例,領域融合による教材開発事例)」を担当する。 (41 有元 康一／3回)「数学教育学研究における教材開発」,「数学科内容学における教材開発」,「事例研究(代数・幾何領域における教材開発事例)」を担当する。 (全員／7回)(共同)「ガイダンス」,「数学教育における教材開発演習」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床数学科内容学研究		数学科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床数学科における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個別の専門分野の視点から数学科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (63 大滝 孝治／3回)「ブラクセオロジー分析」を担当する。 (27 町頭 義朗／4回)「臨床数学科内容学の検討(論理,確率・統計,微分幾何学,位相幾何学)」を担当する。 (41 有元 康一／3回)「臨床数学科内容学の検討(代数構造,整数論,離散数学)」を担当する。 (全員／5回)(共同)「ガイダンス」,「数学科内容学研究の位置付け」,「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床美術科教育研究		美術教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、美術教育研究に特有の研究手法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (58 渡邊 美香／10回)「ガイダンス」,「研究動向(美術教育学とは何か,子どもの表現と人間形成,授業デザインとカリキュラム研究)」,「研究方法(美術製作と学習支援,授業者の視点とエピソード記述)」,「研究構想の紹介と焦点化」,「講義のまとめ」を担当する。 (6 李 知恩／4回)「研究動向(地域課題と感性評価,グローバル課題と感性評価)」,「研究構想の紹介と焦点化」を担当する。 (58 渡邊 美香・6 李 知恩／1回)(共同)「研究構想の紹介と焦点化(研究課題のプレゼン)」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床美術科教材開発研究		題材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床美術教育学における題材開発研究の理論的枠組みを論じる。また、具体的な題材開発の演習を通して、題材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (58 渡邊 美香／3回)「美術教育学における題材開発の位置付け」,「美術教育における題材開発演習」を担当する。 (6 李 知恩／3回)「教科内容学研究における題材開発の位置付け」,「美術教育における題材開発演習」を担当する。 (58 渡邊 美香・6 李 知恩／9回)(共同)「ガイダンス」,「事例研究(幼児の造形,図画工作科での表現活動,中学校美術科での表現活動,高等学校美術・工芸科での表現活動,鑑賞活動)」,「美術教育における題材開発演習」「題材開発における教科教育学,教科内容学の視点」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床美術科内容学研究		美術教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における美術教育学の視点から美術内容学研究の理論的枠組みを検討する。また、図画工作・美術科を構成する内容領域の観点から臨床美術内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (6 李 知恩／11回)「ガイダンス」,「臨床美術内容学の検討(デザインの発想・表現・分析,感性評価)」,「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」,「講義のまとめ」を担当する。 (58 渡邊 美香／4回)「臨床美術内容学の検討(小学校表現・鑑賞,中学校表現・鑑賞)」を担当する。	オムニバス方式
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床保健体育科教育研究		保健体育科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床保健体育科教育学研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (55 林 洋輔／3回)「ガイダンス」,「保健体育科教育学の最新の研究動向(体育哲学の歴史と現状,体育哲学の課題)」を担当する。 (38 本多 壮太郎／2回)「保健体育科教育学の最新の研究動向(体育科教育学の歴史と現状,体育科教育学の課題)」を担当する。 (10 中島 寿宏／3回)「保健体育科教育学の最新の研究動向(初等中等教育学の歴史と現状,初等中等教育学の課題)」,「講義のまとめ」を担当する。 (48 石川 美久／2回)「保健体育科教育学の最新の研究動向(武道学の歴史と現状,武道学の課題)」を担当する。 (全員／5回)(共同)「研究構想の紹介と焦点化」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床保健体育科教材開発研究		教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床保健体育科教育学研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (55 林 洋輔／2回)「ガイダンス」,「講義のまとめ」を担当する。 (7 板谷 厚／1回)「保健体育科教育学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (10 中島 寿宏／1回)「保健体育科内容学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (38 本多 壮太郎／1回),「保健体育学の領域に関する,教材開発における教科教育学,教科内容学の視点」を担当する。 (1 神林 勲・12 森田 憲輝・48 石川 美久・38 本多 壮太郎・55 林 洋輔／5回)(共同)「事例研究(保健体育科教育学における教材開発研究)」を担当する。 (7 板谷 厚・10 中島 寿宏・1 神林 勲・12 森田 憲輝・48 石川 美久／5回)(共同)「保健体育科教育における教材開発演習」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床保健体育科内容学研究		保健体育科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個別の専門分野の視点から保健体育科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (55 林 洋輔／3回)「ガイダンス」,「保健体育科内容学の検討(体育哲学の視点から)」,「講義のまとめ」を担当する。 (7 板谷 厚／2回)「保健体育科内容学研究の位置付け」,「保健体育科内容学の検討(教育学の視点から)」を担当する。 (10 中島 寿宏／2回)「保健体育科内容学の検討(初等中等教育学の視点から,臨床教科学としての位置付け)」を担当する。 (1 神林 勲／2回)「保健体育科内容学の検討(健康・スポーツ科学の視点から,臨床教科学としての位置付け)」を担当する。 (12 森田 憲輝／2回)「保健体育科内容学の検討(身体教育学の視点から,臨床教科学としての位置付け)」を担当する。 (48 石川 美久／1回)「保健体育科内容学の検討(武道学の視点から)」を担当する。 (38 本多 壮太郎／1回)「保健体育科内容学の検討(体育科教育学の視点から)」を担当する。 (48 石川 美久・38 本多 壮太郎／2回)(共同)「保健体育学の領域に関する,教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床技術科教育研究		技術科に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床技術科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (3 藤川 聡／8回)「技術科の研究動向(目的論,技術科教育の系譜,教育課程,学習・評価,技術教育関連分野)」,「技術科の研究手法(カリキュラム・授業開発,教育心理学から,歴史,国際比較等)」を担当する。 (3 藤川 聡・39 大内 毅／7回)(共同)「ガイダンス」,「研究構想の紹介と焦点化」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床技術科教材開発研究		教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床技術科教育研究における教材開発研究の理論的枠組みを理解する。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (3 藤川 聡／4回)「技術科教育学研究における教材開発の位置付け」,「事例研究(ガイダンス,エネルギー変換,生物育成)」を担当する。 (39 大内 毅／4回)「技術科内容学研究における教材開発の位置付け」,「事例研究(材料加工,情報,複合題材)」を担当する。 (3 藤川 聡・39 大内 毅／7回)(共同)「ガイダンス」,「技術科教育における教材開発演習」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床技術科内容学研究		技術科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個別の専門分野の視点から臨床技術科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (39 大内 毅／10回)「臨床技術科内容学の検討(材料加工,エネルギー変換,生物育成,情報,複合的な内容)」を担当する。 (3 藤川 聡・39 大内 毅／5回)(共同)「ガイダンス」,「技術科内容学研究の位置付け」,「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
(大阪教育大学大学院学校教育学研究科共同学校教育学専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題 研究 科目	臨床 発達 教育 科学 分野	発達教育科学特別研究Ⅰ	臨床発達教育科学に係る学位論文作成に向けて、「学校教育学」の研究領域としての位置づけに基づき、研究課題を明確化する。また、研究課題に関する先行研究を整理するとともに、研究方法に関する知見を活かして研究構想を具体化する。 (8 川前 あゆみ) へき地・小規模校教育に関する研究指導を行う。 (9 杉本 任士) 行動分析学の方法論を用いた学校、学年・学級経営の改善に関する研究指導を行う。 (11 片桐 正敏) 発達障害のある人、ギフテッドなど特別な教育的ニーズを持つ子どもに対して、基礎研究(認知神経科学)及び心理アセスメントから臨床発達支援に結びつける研究指導を行う。 (13 姫野 完治) 教育工学、特に教師の発達過程の解明とそれに基づく教育・研修方法の開発に関する研究指導を行う。 (14 木村 育恵) 教育社会学、特に教員育成政策及び教員のキャリア形成、教員世界におけるジェンダーに関する研究指導を行う。 (42 小林 淳一) 教員養成・教職志望者・教師の資質能力に関する研究指導を行う。 (43 半澤 礼之) 教育心理学、特に青年期・成人期のキャリア形成に関する研究指導を行う。 (45 齋藤 暢一郎) 不登校・ひきこもり支援、虐待やいじめ等のトラウマケアを含む学校メンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (47 水野 君平) いじめ、学校適応、友人グループ、学級風土、子どものメンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (16 水野 治久) 不登校児童生徒の支援、いじめ被害児童生徒の支援方法及び予防方法、子ども・保護者・教師の援助要請の視点からのチーム学校のあり方に関する研究、学校コミュニティの支援に関する研究指導を行う。 (18 大内田 裕) 認知・運動機能障害に対して脳科学の知見を利用した機能改善手法の開発に関する研究指導を行う。 (19 後藤 健介) 安全教育学、特に自然災害科学、公衆衛生学、防災教育、環境教育に関する研究指導を行う。 (20 小松 孝至) 発達心理学、教育心理学、特に幼児期、児童期の社会的発達(コミュニケーション、自己の発達)に関する研究指導を行う。 (22 高橋 登) 発達心理学、教育心理学、特に子どもの読み書きの発達とつまづきの支援、子どもの文化的発達に関する研究指導を行う。 (23 寺嶋 浩介) 教育工学、特に教師教育、教育方法、教員研修、メディア教育、ICT活用、情報教育に関する研究指導を行う。 (24 豊沢 純子) 教育心理学、社会心理学、特に防災教育、防犯教育に関する心理学研究指導を行う。 (25 仲矢 史雄) 科学教育、生物科学、特に科学技術コミュニケーション、教育評価方法、ICT・AI活用に関する研究指導を行う。 (26 平賀 健太郎) 特別支援教育、特に病弱教育、病弱児、院内学級、復学支援に関する研究指導を行う。 (50 田中 真秀) 教育学、特に学校経営(チーム学校、学校財務)、教育行財政学、教師教育、教育制度、学校教育(コミュニティスクール:家庭・地域との連携)に関する研究指導を行う。 (51 寺坂 明子) 臨床心理学、学校心理学、特に予防的心理教育、問題行動を起こりにくくする学級経営法に関する研究指導を行う。 (52 庭山 和貴) 教育心理学、特別支援教育、応用行動分析、ポジティブ行動支援に関する研究指導を行う。 (54 八田 幸恵) カリキュラム論、教育評価論、教師の力量形成論に関する研究指導を行う。 (55 吉田 茂孝) 教育方法学・インクルーシブ教育、特に授業づくり、学級づくり、教授法、学習集団、教育実践に関する研究指導を行う。 (57 渡邊 創太) 認知科学・学習心理学の応用(特に学習指導、教師自身の認知)に関する研究指導を行う。 (64 森 兼隆) 認知心理学、教育心理学、特に学習活動の認知過程の理解、効果的な学習支援、意味学習・深い学びに関する研究指導を行う。 ③ 坂井 清隆) 授業実践(単元展開及び授業展開)における学習者の認知・非認知の姿容を、質的アプローチ(授業分析、様相一解的的分析など)を用いて明らかにし、個々の学習者理解を深めつつ、個に応じた学習指導の方法と自律的な学習を促す評価に関する研究指導を行う。 (32 西山 久子) 校内適応指導教室利用生徒のキャリア発達の促進に関する研究、中等教育における一次支援としてのキャリアカウンセリングの展開に関する研究、教育相談コーディネーターの専門的力量的形成に関する研究指導を行う。 (33 相澤 宏充) 聴覚障害児に関する研究、学齢期の言語の発達・教育に関する研究指導を行う。 (4 見上 昌睦) 言語障害のある子どもの教育的支援に関する研究(学校教育期を中心にライフステージを通しての指導・支援、通常の学級における支援)、吃音・流暢性障害に関する研究指導を行う。 (36 一木 薫) 自立活動の理論、特別支援教育における教師の専門性、特別支援学校のカリキュラム評価に関する研究指導を行う。 (59 川口 俊明) 学力調査をはじめとする各種の調査(質問調査等の計量的分析はもちろん、インタビュー・参与観察等の質的調査も含む)を利用し、教育の不等等の実態把握およびその改善策を明らかにする研究指導を行う。 (62 山田 洋平) 1次的援助サービスにおける社会性と情動の学習を中心とした心理学的介入に関する研究指導を行う。	共同

課題 研究 科目	臨床 発達 教育 科学 分野	発達教育科学特別研究Ⅱ		臨床発達教育科学に係る学位論文作成に向けて、研究仮説と研究方法を構築する。また、臨床的研究の位置づけに基づき、学校現場での検証、データ収集、分析等を通して仮説検証を行い、エビデンスをもって課題の解決に向けた主張を構成する。さらに、各自の研究の成果については、共同ネットワークラボの活動を通して共有・意見交換を行い、今後の研究の方向性に対する示唆を得る。 (8 川前 あゆみ) へき地・小規模校教育に関する研究指導を行う。 (9 杉本 任士) 行動分析学の方法論を用いた学校、学年・学級経営の改善に関する研究指導を行う。 (11 片桐 正敏) 発達障害のある人、ギフテッドなど特別な教育的ニーズを持つ子どもに対して、基礎研究（認知神経科学）及び心理アセスメントから臨床発達支援に結びつける研究指導を行う。 (13 姫野 完治) 教育学、特に教師の発達過程の解明とそれに基づく教育・研修方法の開発に関する研究指導を行う。 (14 木村 育恵) 教育社会学、特に教員育成政策及び教員のキャリア形成、教員世界におけるジェンダーに関する研究指導を行う。 (42 小林 淳一) 教員養成・教職志望者・教師の資質能力に関する研究指導を行う。 (43 半澤 礼之) 教育心理学、特に青年期・成人期のキャリア形成に関する研究指導を行う。 (45 齋藤 暢一朗) 不登校・ひきこもり支援、虐待やいじめ等のトラウマケアを含む学校メンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (47 水野 君平) いじめ、学校適応、友人グループ、学級風土、子どものメンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (16 水野 治久) 不登校児童生徒の支援、いじめ被害児童生徒の支援方法及び予防方法、子ども・保護者・教師の援助要請の視点からのチーム学校のあり方に関する研究、学校コミュニティの支援に関する研究指導を行う。 (18 大内田 裕) 認知・運動機能障害に対して脳科学の知見を利用した機能改善手法の開発に関する研究指導を行う。 (19 後藤 健介) 安全教育学、特に自然災害科学、公衆衛生学、防災教育、環境教育に関する研究指導を行う。 (20 小松 孝至) 発達心理学、教育心理学、特に幼児期、児童期の社会的発達（コミュニケーション、自己の発達）に関する研究指導を行う。 (22 高橋 登) 発達心理学、教育心理学、特に子どもの読み書きの発達とつまづきの支援、子どもの文化的発達に関する研究指導を行う。 (23 寺嶋 浩介) 教育学、特に教師教育、教育方法、教員研修、メディア教育、ICT活用、情報教育に関する研究指導を行う。 (24 豊沢 純子) 教育心理学、社会心理学、特に防災教育、防犯教育に関する心理学研究指導を行う。 (25 沖矢 史雄) 科学教育、生物科学、特に科学技術コミュニケーション、教育評価方法、ICT・AI活用に関する研究指導を行う。 (26 平賀 健太郎) 特別支援教育、特に病弱教育、病弱児、院内学級、復学支援に関する研究指導を行う。 (50 田中 真秀) 教育学、特に学校経営（チーム学校、学校財務）、教育行財政学、教師教育、教育制度、学校教育（コミュニティスクール：家庭・地域との連携）に関する研究指導を行う。 (51 寺坂 明子) 臨床心理学、学校心理学、特に予防的心理教育、問題行動を起こりにくくする学級経営法に関する研究指導を行う。 (52 庭山 和貴) 教育心理学、特別支援教育、応用行動分析、ポジティブ行動支援に関する研究指導を行う。 (54 八田 幸恵) カリキュラム論、教育評価論、教師の力量形成論に関する研究指導を行う。 (55 吉田 茂孝) 教育方法学・インクルーシブ教育、特に授業づくり、学級づくり、教授学、学習集団、教育実践に関する研究指導を行う。 (57 渡邊 創太) 認知科学・学習心理学の応用（特に学習指導、教師自身の認知）に関する研究指導を行う。 (64 森 兼隆) 認知心理学、教育心理学、特に学習活動の認知過程の理解、効果的な学習支援、興味学習・深い学びに関する研究指導を行う。 ③ 坂井 清隆) 授業実践（単元展開及び授業展開）における学習者の認知・非認知の変容を、質的アプローチ（授業分析、様相－解釈的分析など）を用いて明らかにし、個々の学習者理解を深めつつ、個に応じた学習指導の方法と自律的な学習を促す評価に関する研究指導を行う。 (32 西山 久子) 校内適応指導教室利用生徒のキャリア発達促進に関する研究、中等教育における一次支援としてのキャリアカウンセリングの展開に関する研究、教育相談コーディネーターの専門的力量的形成に関する研究指導を行う。 (33 相澤 宏充) 聴覚障害児に関する研究、学齢期の言語の発達・教育に関する研究指導を行う。 (41 見上 昌睦) 言語障害のある子どもの教育的支援に関する研究（学校教育期を中心にライフステージを通しての指導・支援、通常の学級における支援）、吃音・流暢性障害に関する研究指導を行う。 (36 一木 薫) 自立活動の理論、特別支援教育における教師の専門性、特別支援学校のカリキュラム評価に関する研究指導を行う。 (59 川口 俊明) 学力調査をはじめとする各種の調査（質問調査等の計量的分析はもちろん、インタビュー・参与観察等の質的調査も含む）を利用し、教育の不等実態把握およびその改善策を明らかにする研究指導を行う。 (62 山田 洋平) 1次的援助サービスにおける社会性と情動の学習を中心とした心理学的介入に関する研究指導を行う。	共同
----------------	----------------------------	-------------	--	---	----

課題 研究 科目	臨床 発達 教育 科学 分野	発達教育科学特別研究Ⅲ	臨床発達教育科学に係る学位論文作成に向けて、収集したデータや検証の分析・考察を通して、臨床的研究としての研究成果を明確化する。また、これまでの研究の取り組みを、研究の背景、研究仮説や研究方法の構築、データ分析や検証の結果と考察等の観点から、学術的な研究成果としてまとめる。必要に応じて、各自の研究の成果を共同ネットワークラボの活動を通して共有しながら研究成果のまとめを行う。 (8 川前 あゆみ) へき地・小規模校教育に関する研究指導を行う。 (9 杉本 任士) 行動分析学の方法論を用いた学校、学年・学級経営の改善に関する研究指導を行う。 (11 片桐 正敏) 発達障害のある人、ギフテッドなど特別な教育的ニーズを持つ子どもに対して、基礎研究（認知神経科学）及び心理アセスメントから臨床発達支援に結びつける研究指導を行う。 (13 姫野 完治) 教育工学、特に教師の発達過程の解明とそれに基づく教育・研修方法の開発に関する研究指導を行う。 (14 木村 育恵) 教育社会学、特に教員育成政策及び教員のキャリア形成、教員世界におけるジェンダーに関する研究指導を行う。 (42 小林 淳一) 教員養成・教職志望者・教師の資質能力に関する研究指導を行う。 (43 半澤 礼之) 教育心理学、特に青年期・成人期のキャリア形成に関する研究指導を行う。 (45 齋藤 暢一郎) 不登校・ひきこもり支援、虐待やいじめ等のトラウマケアを含む学校メンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (47 水野 君平) いじめ、学校適応、友人グループ、学級風土、子どものメンタルヘルスに関する研究指導を行う。 (16 水野 治久) 不登校児童生徒の支援、いじめ被害児童生徒の支援方法及び予防方法、子ども・保護者・教師の援助要請の視点からのチーム学校のあり方に関する研究、学校コミュニティの支援に関する研究指導を行う。 (18 大内田 裕) 認知・運動機能障害に対して脳科学の知見を利用した機能改善手法の開発に関する研究指導を行う。 (19 後藤 健介) 安全教育学、特に自然災害科学、公衆衛生学、防災教育、環境教育に関する研究指導を行う。 (20 小松 孝至) 発達心理学、教育心理学、特に幼児期、児童期の社会的発達（コミュニケーション、自己の発達）に関する研究指導を行う。 (22 高橋 登) 発達心理学、教育心理学、特に子どもの読み書きの発達とつまづきの支援、子どもの文化的発達に関する研究指導を行う。 (23 寺嶋 浩介) 教育工学、特に教師教育、教育方法、教員研修、メディア教育、ICT活用、情報教育に関する研究指導を行う。 (24 豊沢 純子) 教育心理学、社会心理学、特に防災教育、防犯教育に関する心理学研究指導を行う。 (25 仲矢 史雄) 科学教育、生物科学、特に科学技術コミュニケーション、教育評価方法、ICT・AI活用に関する研究指導を行う。 (26 平賀 健太郎) 特別支援教育、特に病弱教育、病弱児、院内学級、復学支援に関する研究指導を行う。 (50 田中 真秀) 教育学、特に学校経営（チーム学校、学校財務）、教育行財政学、教師教育、教育制度、学校教育（コミュニティスクール：家庭・地域との連携）に関する研究指導を行う。 (51 寺坂 明子) 臨床心理学、学校心理学、特に予防的心理教育、問題行動を起こりにくくする学級経営法に関する研究指導を行う。 (52 庭山 和貴) 教育心理学、特別支援教育、応用行動分析、ポジティブ行動支援に関する研究指導を行う。 (54 八田 幸恵) カリキュラム論、教育評価論、教師の力量形成論に関する研究指導を行う。 (55 吉田 茂孝) 教育方法学・インクルーシブ教育、特に授業づくり、学級づくり、教授学、学習集団、教育実践に関する研究指導を行う。 (57 渡邊 創太) 認知科学・学習心理学の応用（特に学習指導、教師自身の認知）に関する研究指導を行う。 (64 森 兼隆) 認知心理学、教育心理学、特に学習活動の認知過程の理解、効果的な学習支援、意味学習・深い学びに関する研究指導を行う。 ③ 坂井 清隆) 授業実践（単元展開及び授業展開）における学習者の認知・非認知の変容を、質的アプローチ（授業分析、様相－解釈的分析など）を用いて明らかにし、個々の学習者理解を深めつつ、個に応じた学習指導の方法と自律的な学習を促す評価に関する研究指導を行う。 (32 西山 久子) 校内適応指導教室利用生徒のキャリア発達の促進に関する研究、中等教育における一次支援としてのキャリアカウンセリングの展開に関する研究、教育相談コーディネーターの専門的力量的形成に関する研究指導を行う。 (33 相澤 宏充) 聴覚障害児に関する研究、学齢期の言語の発達・教育に関する研究指導を行う。 (4 見上 昌睦) 言語障害のある子どもの教育的支援に関する研究（学校教育期を中心にライフステージを通しての指導・支援、通常の学級における支援）、吃音・流暢性障害に関する研究指導を行う。 (36 一木 薫) 自立活動の理論、特別支援教育における教師の専門性、特別支援学校のカリキュラム評価に関する研究指導を行う。 (59 川口 俊明) 学力調査をはじめとする各種の調査（質問調査等の計量的分析はもちろん、インタビュー・参与観察等の質的調査も含む）を利用し、教育の不等等の実態把握およびその改善策を明らかにする研究指導を行う。 (62 山田 洋平) 1次の援助サービスにおける社会性と情動の学習を中心とした心理学的介入に関する研究指導を行う。	共同
----------------	----------------------------	-------------	--	----

課題 研究 科目	臨床 教科 学分 野	教科学特別研究 I	臨床教科学に係る学位論文作成に向けて、「学校教育学」の研究領域としての位置づけに基づき、研究課題を明確化する。また、研究課題に関する先行研究を整理するとともに、研究方法に関する知見を活かして研究構想を具体化する。 (1 神林 勲) 子どもの健康および体力・運動能力に関する研究指導を行う。 (2 笠原 究) 第二言語習得に関する研究指導を行う。 (3 藤川 聡) 教育方法、評価、特に技術科の教材開発と指導と評価の在り方、達成動機付けの原因帰属と教訓帰納に基づく認知カウンセリングに関する研究指導を行う。 (4 尾関 俊浩) 雪氷物理学に関する研究、特に雪害科学に関する研究や、雪崩コース教育に関する研究指導を行う。 (5 大橋 賢一) 漢字漢文教育に関する研究指導を行う。 (6 李 知恩) 美術、特にデザイン、美術鑑賞、感性評価に関する研究指導を行う。 (7 板谷 厚) 運動の発達と学習の過程の解明、及びそれに基づく運動指導に関する研究指導を行う。 (10 中島 寿宏) 保健体育科教育学、教育心理学、特に体育・保健体育における教師と児童生徒のコミュニケーションにおける心理的作用に関する研究指導を行う。 (12 森田 憲輝) 子どもの学力・認知機能と体力・体格との関係に関する研究 (認知科学・生理学・疫学的研究) 指導を行う。 (15 津田 拓郎) 外国史、特に西洋中世史や中世グローバル・ヒストリーに関する研究指導を行う。 (44 小山 耕平) 理科教育、特に植物生態学と森林生態学および生物野外計測に関する研究指導を行う。 (46 幸坂 健太郎) 国語科教育の授業方法、論理的思考力育成に関する研究指導を行う。 (63 大滝 孝治) 教授人間学理論 (ATD) に基づく学校数学教育に関する研究指導を行う。 (17 磯田 智子) 家政学、生活科学、特に住環境学、住生活学、住まい・まちづくり学習に関する研究指導を行う。 (① 鈴木 剛) 生物学、特に植物分子遺伝学・植物育種学・染色体工学に関する研究指導を行う。 (27 町頭 義朗) 幾何学、特にリーマン幾何学、離散幾何学、微分可多様体に関する研究指導を行う。 (② 三島 和宏) 情報工学、特に情報システム、ネットワークの視点を用いた、情報教育、ICT活用教育に関する研究指導を行う。 (29 峯 明秀) 教育学、教科教育学、教育方法及び社会科教育に関する研究指導を行う。 (30 吉本 直弘) 科学教育、教科教育 (地学教育・理科教育)、気象学、防災教育の視点を用いた、理科教育学に関する研究指導を行う。 (48 石川 美久) スポーツ科学、特にコーチング、武道、柔道、安全教育に関する研究指導を行う。 (49 兼平 佳枝) コミュニケーション、共感、音楽的思考等を視点とした音楽教育実践学に関する研究指導を行う。 (53 橋本 健一) 第二言語習得、心理言語学の視点に基づく英語教育学に関する研究指導を行う。 (55 林 洋輔) メタ体育学、体育・スポーツ哲学、哲学の方法・視点を用いた保健体育学研究、単元「体育理論」の諸問題に関する研究指導を行う。 (58 渡邊 美香) 子どもの表現・鑑賞、図画工作科・美術科の教科教育学に関する研究指導を行う。 (③ 坂井 清隆) シティズンシップ教育実践を中心に各教科等での教育実践における質的な授業研究 (授業分析) 及び学習評価に関する研究指導を行う。 (37 青山 之典) テキスト研究、学習者研究に焦点をあてた読解指導論構築に関する研究指導を行う。 (38 本多 壮太郎) 知識の構造化とその活用を図る体育科・保健体育科学習指導に関する研究、反転授業を取り入れた体育科・保健体育科学習指導に関する研究指導を行う。 (39 大内 毅) 科学教育、特に初等・中等教育における科学的・工学的アプローチを基軸としたSTEAM型ものづくりに関する研究指導を行う。 (40 貴志 倫子) 責任ある生活者育成のための初等中等家庭科のカリキュラム、授業研究、学習指導、教師教育に関する研究指導を行う。 (41 有元 康一) 数学科教育学および代数学・数学基礎に関する研究。特に、算数・数学科における学習指導、教材開発、またその背景となる、数論、離散数学、計算機数学、数学史に関する研究指導を行う。	共同
----------------	---------------------	-----------	---	----

課題 研究 科目	臨床 教科 学分 野	教科学特別研究Ⅱ		臨床教科学に係る学位論文作成に向けて、研究仮説と研究方法を構築する。また、臨床的研究の位置づけに基づき、学校現場での検証、データ収集、分析等を通して仮説検証を行い、エビデンスをもって課題の解決に向けた主張を構成する。さらに、各自の研究の成果については、共同ネットワークラボの活動を通して共有・意見交換を行い、今後の研究の方向性に対する示唆を得る。 (1 神林 勲) 子どもの健康および体力・運動能力に関する研究指導を行う。 (2 笠原 究) 第二言語習得に関する研究指導を行う。 (3 藤川 聡) 教育方法、評価、特に技術科の教材開発と指導と評価の在り方、達成動機付けの原因帰属と教訓帰納に基づく認知カウンセリングに関する研究指導を行う。 (4 尾関 俊浩) 雪水物理学に関する研究、特に雪害科学に関する研究や、雪崩コース教育に関する研究指導を行う。 (5 大橋 賢一) 漢字漢文教育に関する研究指導を行う。 (6 李 知恩) 美術、特にデザイン、美術鑑賞、感性評価に関する研究指導を行う。 (7 板谷 厚) 運動の発達と学習の過程の解明、及びそれに基づく運動指導に関する研究指導を行う。 (10 中島 寿宏) 保健体育科教育学、教育心理学、特に体育・保健体育における教師と児童生徒のコミュニケーションにおける心理的作用に関する研究指導を行う。 (12 森田 憲輝) 子どもの学力・認知機能と体力・体格との関係に関する研究（認知科学・生理学・疫学的研究）指導を行う。 (15 津田 拓郎) 外国史、特に西洋中世史や中世グローバル・ヒストリーに関する研究指導を行う。 (44 小山 耕平) 理科教育、特に植物生態学と森林生態学および生物野外計測に関する研究指導を行う。 (46 幸坂 健太郎) 国語科教育の授業方法、論理的思考力育成に関する研究指導を行う。 (63 大滝 孝治) 教授人間学理論（ATD）に基づく学校数学教育に関する研究指導を行う。 (17 磯田 智子) 家政学、生活科学、特に住環境学、住生活学、住まい・まちづくり学習に関する研究指導を行う。 (1 鈴木 剛) 生物学、特に植物分子遺伝学・植物育種学・染色体工学に関する研究指導を行う。 (27 町頭 義朗) 幾何学、特にリーマン幾何学、離散幾何学、微分可能多様体に関する研究指導を行う。 (2 三島 和宏) 情報工学、特に情報システム、ネットワークの視点をういた、情報教育、ICT活用教育に関する研究指導を行う。 (29 峯 明秀) 教育学、教科教育学、教育方法及び社会科教育に関する研究指導を行う。 (30 吉本 直弘) 科学教育、教科教育（地学教育・理科教育）、気象学、防災教育の視点をういた、理科教育学に関する研究指導を行う。 (48 石川 美久) スポーツ科学、特にコーチング、武道、柔道、安全教育に関する研究指導を行う。 (49 兼平 佳枝) コミュニケーション、共感、音楽的思考等を視点とした音楽教育実践学に関する研究指導を行う。 (53 橋本 健一) 第二言語習得、心理言語学の視点に基づく英語教育学に関する研究指導を行う。 (55 林 洋輔) メタ体育学、体育・スポーツ哲学、哲学の方法・視点をういた保健体育学研究、単元「体育理論」の諸問題に関する研究指導を行う。 (58 渡邊 美香) 子どもの表現・鑑賞、図画工作科・美術科の教科教育学に関する研究指導を行う。 (3 坂井 清隆) シティズンシップ教育実践を中心に各教科等での教育実践における質的な授業研究（授業分析）及び学習評価に関する研究指導を行う。 (37 青山 之典) テクスト研究、学習者研究に焦点をあてた読解指導論構築に関する研究指導を行う。 (38 本多 壮太郎) 知識の構造化とその活用を図る体育科・保健体育科学習指導に関する研究、反転授業を取り入れた体育科・保健体育科学習指導に関する研究指導を行う。 (39 大内 毅) 科学教育、特に初等・中等教育における科学的・工学的アプローチを基軸としたSTEAM型ものづくりに関する研究指導を行う。 (40 黄志 倫子) 責任ある生活者育成のための初等中等家庭科のカリキュラム、授業研究、学習指導、教師教育に関する研究指導を行う。 (41 有元 康一) 数学科教育学および代数学・数学基礎に関する研究、特に、算数・数学科における学習指導、教材開発、またその背景となる、数論、離散数学、計算機数学、数学史に関する研究指導を行う。	共同
----------------	---------------------	----------	--	--	----

課題 研究 科目	臨床 教科 学 分 野	教科学特別研究Ⅲ		臨床教科学に係る学位論文作成に向けて、収集したデータや検証の分析・考察を通して、臨床的研究としての研究成果を明確化する。また、これまでの研究の取り組みを、研究の背景、研究仮説や研究方法の構築、データ分析や検証の結果と考察等の観点から、学術的な研究成果としてまとめる。必要に応じて、各自の研究の成果を共同ネットワークラボの活動を通して共有しながら研究成果のまとめを行う。 (1 神林 勲) 子どもの健康および体力・運動能力に関する研究指導を行う。 (2 笠原 究) 第二言語習得に関する研究指導を行う。 (3 藤川 聡) 教育方法、評価、特に技術科の教材開発と指導と評価の在り方、達成動機付けの原因帰属と教訓帰納に基づく認知カウンセリングに関する研究指導を行う。 (4 尾関 俊浩) 雪水物理学に関する研究、特に雪害科学に関する研究や、雪崩コース教育に関する研究指導を行う。 (5 大橋 賢一) 漢字漢文教育に関する研究指導を行う。 (6 李 知恩) 美術、特にデザイン、美術鑑賞、感性評価に関する研究指導を行う。 (7 板谷 厚) 運動の発達と学習の過程の解明、及びそれに基づく運動指導に関する研究指導を行う。 (10 中島 寿宏) 保健体育科教育学、教育心理学、特に体育・保健体育における教師と児童生徒のコミュニケーションにおける心理的作用に関する研究指導を行う。 (12 森田 憲輝) 子どもの学力・認知機能と体力・体格との関係に関する研究（認知科学・生理学・疫学的研究）指導を行う。 (15 津田 拓郎) 外国史、特に西洋中世史や中世グローバル・ヒストリーに関する研究指導を行う。 (14 小山 耕平) 理科教育、特に植物生態学と森林生態学および生物野外計測に関する研究指導を行う。 (46 幸坂 健太郎) 国語科教育の授業方法、論理的思考力育成に関する研究指導を行う。 (63 大滝 孝治) 教授人間学理論（ATD）に基づく学校数学教育に関する研究指導を行う。 (17 確田 智子) 家政学、生活科学、特に住環境学、住生活学、住まい・まちづくり学習に関する研究指導を行う。 (1) 鈴木 剛) 生物学、特に植物分子遺伝学・植物育種学・染色体工学に関する研究指導を行う。 (27 町頭 義朗) 幾何学、特にリーマン幾何学、離散幾何学、微分可能多様体に関する研究指導を行う。 (2) 三島 和宏) 情報工学、特に情報システム、ネットワークの視点をういた、情報教育、ICT活用教育に関する研究指導を行う。 (29 峯 明秀) 教育学、教科教育学、教育方法及び社会科教育に関する研究指導を行う。 (30 吉本 直弘) 科学教育、教科教育（地学教育・理科教育）、気象学、防災教育の視点をういた、理科教育学に関する研究指導を行う。 (48 石川 美久) スポーツ科学、特にコーチング、武道、柔道、安全教育に関する研究指導を行う。 (49 兼平 佳枝) コミュニケーション、共感、音楽的思考等を視点とした音楽教育実践学に関する研究指導を行う。 (53 橋本 健一) 第二言語習得、心理言語学の視点に基づく英語教育学に関する研究指導を行う。 (55 林 洋輔) メタ体育学、体育・スポーツ哲学、哲学の方法・視点をういた保健体育学研究、単元「体育理論」の諸問題に関する研究指導を行う。 (58 渡邊 美香) 子どもの表現・鑑賞、図画工作科・美術科の教科教育学に関する研究指導を行う。 (3 坂井 清隆) シティズンシップ教育実践を中心に各教科等での教育実践における質的な授業研究（授業分析）及び学習評価に関する研究指導を行う。 (37 青山 之典) テクスト研究、学習者研究に焦点をあてた読解指導論構築に関する研究指導を行う。 (38 本多 壮太郎) 知識の構造化とその活用を図る体育科・保健体育科学習指導に関する研究、反転授業を取り入れた体育科・保健体育科学習指導に関する研究指導を行う。 (39 大内 毅) 科学教育、特に初等・中等教育における科学的・工学的アプローチを基軸としたSTEAM型のづくりに関する研究指導を行う。 (40 貴志 倫子) 責任ある生活者育成のための初等中等家庭科のカリキュラム、授業研究、学習指導、教師教育に関する研究指導を行う。 (41 有元 康一) 数学科教育学および代数学・数学基礎に関する研究、特に、算数・数学科における学習指導、教材開発、またその背景となる、数論、離散数学、計算機数学、数学史に関する研究指導を行う。	共同
共通 科目	共通 科目	学校教育学原論Ⅰ		学校教育の諸課題の整理とその課題にどのようにアプローチするのかについて整理する。まず、学校教育の課題について、内外の文献から整理する。そしてその解決を促す臨床的研究について、教育学、心理学、教科教育学からアプローチする。 （オムニバス方式／全8回） (13 姫野 完治／1回) 「教員養成の課題」を担当する。 (8 川前あゆみ／1回) 「学校・地域・家庭の課題」を担当する。 (5 吉田 茂孝／2回) 「諸外国との比較から考える」「インクルーシブ教育の課題」を担当する。 (53 橋本 健一／1回) 「教科教育・学力の課題（中等教育）」を担当する。 (64 森 兼隆／1回) 「子どもの学習の課題（認知の観点から）」を担当する。 (3 坂井 清隆／1回) 「教科教育・学力の課題（初等教育）」を担当する。 （全員／1回）（共同）「臨床的研究からみた学校教育の諸課題」を担当する。	オムニバス方式・共同 （一部）

共通 科目	共通 科目	学校教育学原論Ⅱ	学校教育学原論Ⅰで整理した学校教育の諸課題について、臨床的研究の視点から整理する。受講生の一人ひとりの研究テーマを掘り下げるために、内外の学術雑誌を読み込み、その領域に対する研究を概観し、臨床的研究への方向性を明確にする。 (オムニバス方式／全8回) (43 半澤 礼之／1回)「子どもの適応の課題についての国内外の研究・政策動向：教育心理学の観点から」を担当する。 (9 杉本 任士／1回)「子どもの適応の課題についての国内外の研究・政策動向：行動分析学の観点から」を担当する。 (⑤ 吉田 茂孝／1回)「特別なニーズのある子どもの教育についての国内外の研究・政策動向：教育方法学の観点から」を担当する。 (23 寺嶋 浩介／1回)「研究テーマの展望的な検討の方法」を担当する。 (53 橋本 健一／1回)「教科教育、学力の課題についての国内外の研究・政策動向：英語教育の観点から」を担当する。 (64 森 兼隆／1回)「特別なニーズのある子どもの教育についての国内外の研究・政策動向」を担当する。 (59 川口 俊明／1回)「教科教育、学力の課題についての国内外の研究・政策動向：学力調査の観点から」を担当する。 (全員／1回) (共同)「授業進め方及び研究テーマの確認」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
共通 科目	共通 科目	教育臨床参画研究Ⅰ	研究フィールドとしての学校現場へ参画する。そのためにまずは研究倫理、アクション・リサーチについての理解を深める。その後、学校現場で、臨床的な課題を観察する。その上で、院生が、自身の研究課題との関連を明確化するとともに、課題研究の構想に役立てることをめざす。研究フィールドは、派遣の現職教員においては勤務校、その他の学生は附属学校を想定する。 (オムニバス方式／全8回) (8 川前あゆみ／1回)「学校の課題に対する参画研究の実際」を担当する。 (16 水野 治久／1回)「学校教育の諸課題の整理とその課題にどのようにアプローチするのか」を担当する。 (16 水野 治久・57 渡邊 創太／1回) (共同)「広義のアクション・リサーチの方法」を担当する。 (8 川前あゆみ・14 木村 育恵・16 水野 治久・57 渡邊 創太・③ 坂井 清隆／5回) (共同)「臨床的参画の計画の発表会」,「臨床的参画」,「学校現場での参与観察・介入(参画)の中間発表」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
共通 科目	共通 科目	教育臨床参画研究Ⅱ	教育臨床参画研究Ⅰでの学校現場への参画を継続しながら、各自の研究課題を焦点化するとともに、臨床的研究としての研究構想を具体化する機会を設定する。そして、そのために、具体的に教育現場への参画研究を実施する。その研究成果をまとめる。 (オムニバス方式／全8回) (8 川前あゆみ／1回)「参画研究で学校の課題の捉え方」を担当する。 (14 木村 育恵／1回)「ジェンダー視点に基づく分析者のキャリア形成と臨床的参画研究」を担当する。 (16 水野 治久／1回)「授業の進行と教育臨床参画研究のシェアリング」を担当する。 (16 水野 治久・57 渡邊 創太／1回) (共同)「臨床的な視点のシェアリングと教育臨床参画研究Ⅱにおける参画計画」を担当する。 (8 川前あゆみ・14 木村 育恵・16 水野 治久・57 渡邊 創太・③ 坂井 清隆／4回) (共同)「臨床的参画」,「学校現場での臨床的参画研究のまとめの発表会」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

共通 科目	共通 科目	教員養成学開発論		教員養成への目的意識を向上させ、教員養成における今日的課題を理解するとともに、次世代における教員養成のあり方を探究する。教師教育、教員養成に関する学術的な知見を得ることによって、教員養成学を開発する基盤を構築する。 (オムニバス方式／全15回) (13 姫野 完治／3回)「教育の実践と理論の統合」、「成人の発達と教師の発達」、「専門職の学習と教師の学習」を担当する。 (42 小林 淳一／3回)「教師像の歴史的展開」、「地域社会ニーズと子どものニーズを踏まえた新しい教師像の開発」、「教員養成学部教員に必要な資質とその開発」を担当する。 (54 八田 幸恵／3回)「日本の教員養成制度の歴史的展開」、「教員養成の論点」、「教員養成と臨床的研究」を担当する。 (29 峯 明秀／3回)「初等・中等教員養成カリキュラムの構成原理」、「教職科目・教科専門・教科教育法の有機的連関」を担当する。 (60 兼安 章子／3回)「効果的な教育実習の時期・内容・形態」、「大学院における教員養成・現職教育のあり方」、「教員養成カリキュラムの効果検証」を担当する。	オムニバス方式
共通 科目	共通 科目	教員養成学臨床研究		大学教員のTA等を通して、教育学部・教職大学院等の学生に対する「教職課程コアカリキュラム」に係る科目の指導等を経験し、教員養成大学の教員の専門性のあり方について学ぶ機会とする。現職教員の場合は学校現場や教育委員会で教員志望の学生を受け入れている場面でのTAを体験する。また、自らの課題研究の成果の教員養成や教員研修への活用を考察することを通して、各自の課題研究の、教員養成学を内包する学校教育学としての位置付けを明確化させる。 (オムニバス方式／全15回) (29 峯 明秀／2回)「教育養成場面の課題のまとめとTA体験のリフレクション」、「振り返りの発表「教員養成の課題と今後の展望」」を担当する。 (54 八田 幸恵／2回)「教育養成場面の課題のまとめとTA体験のリフレクション」、「振り返りの発表「教員養成の課題と今後の展望」」を担当する。 (42 小林 淳一・54 八田 幸恵・29 峯 明秀・60 兼安 章子／11回) (共同)「授業の進め方 教員養成学への臨床的アプローチ」、「教員養成場面へのTA体験」、「教育養成場面の課題のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	分野 コア 科目	地域教育課題研究		北海道、大阪、福岡における学校現場の地域課題について、量的・質的データをもとに把握し、その課題解決についてアクション・リサーチを行う。課題については、北海道の「へき地・小規模校教育」、大阪の「ダイバーシティ教育（外国につながる子どもの教育・インクルーシブ教育等）」、福岡の「特別支援教育・学校適応支援」の視点から各地域を理解し、課題にアプローチする。 (オムニバス方式／全15回) (8 川前あゆみ／4回)「北海道の「へき地・小規模校教育」の臨床的課題及び研究成果のレビュー」を担当する。 (62 山田 洋平／1回) (「福岡の「特別支援教育・学校適応支援」の研究成果のレビュー」を担当する。 (22 高橋 登・⑤ 吉田 茂孝／4回) (共同)「大阪の「ダイバーシティ教育（外国につながるのある子どもの教育・インクルーシブ教育等）」の臨床的課題及び研究成果のレビュー」を担当する。 (④ 見上 昌睦・36 一木 薫／3回) (共同)「福岡の「特別支援教育・学校適応支援」の臨床的課題及び研究成果のレビュー」を担当する。 (8 川前あゆみ・⑤ 吉田 茂孝・22 高橋 登・36 一木 薫・④ 見上 昌睦・62 山田 洋平／3回) (共同)「授業の進め方」、「各自の研究テーマから見た地域課題」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 発達 教育学 科学 分野／発 達支援領 域	人間発達理解研究	人間理解、発達理解のため心理学や障がい科学分野で膨大な蓄積があるが、本授業では、人間の発達、学習活動、社会性、対人関係についての把握の方法論（広義のアセスメント）および研究の動向をレビューすることで、院生はこれらの研究領域における方法論および知見についての最新の情報を得る。 （オムニバス方式／全15回） （47 水野 君平／3回）「子どもの発達とパーソナリティ」，「子どもの発達と社会的認知」，「子どもの発達と問題行動」を担当する。 （57 渡邊 創太／3回）「授業の進め方」，「人間発達の理解のための方法論及び研究の動向」等を担当する。 （64 森 兼隆／3回）「子どもの学習活動の理解」，「子どもの発達を理解した学習支援の研究」等を担当する。 （32 西山 久子／2回）「子どもの学校適応・対人関係の理解とアセスメント」等を担当する。 （33 相澤 宏充／3回）「障がいのある子どもの発達の理解」等を担当する。 （62 山田 洋平／1回）「子どもの発達の理解の学校での支援」等を担当する。	オムニバス方式
分野 科目	臨床 発達 教育学 科学 分野／発 達支援領 域	人間発達支援研究Ⅰ	子どもの発達支援を、個別支援、クラスワイド、スクールワイドの観点から検討する。国内外の研究を概観する。子どもの人間関係の広がり意識したグループアプローチによる支援を検討する。インクルーシブ教育の観点から、学級における特別なニーズを有する子どもにも焦点をあてる。 （オムニバス方式／全15回） （16 水野 治久／3回）「授業の進め方」，「人間発達の理解」，「心理教育的援助サービスの展開及び支援の実践と効果測定」を担当する。 （11 片桐 正敏／3回）「特別なニーズを有する子どもの視点からの通常学級の人間発達の理解」を担当する。 （32 西山 久子／2回）「クラスワイドの発達の支援の方法」，「予防的プログラムの展開と発達の支援」を担当する。 （4 見上 昌睦／3回）「特別支援学級から見た人間発達」，「特別支援学校から見た人間発達（幼児期・児童期）」，「特別支援学校から見た人間発達（青年期）」を担当する。 （62 山田 洋平／1回）「スクールワイドの発達の支援の実践」を担当する。 （全員／3回）（共同）「院生の発表」を担当する。	オムニバス方式・共同 （一部）
分野 科目	臨床 発達 教育学 科学 分野／発 達支援領 域	人間発達支援研究Ⅱ	子どもの発達支援について、言語と社会性の発達の理解をふまえ、学校適応支援、特別支援教育の観点から検討する。その後、虐待などのトラウマ体験からの回復について検討する。 （オムニバス方式／全15回） （45 齋藤 暢一郎／2回）（「子どもの臨床的な理解と支援」を担当する。 （20 小松 孝至／2回）「子どもの社会性の発達の理解と支援」を担当する。 （22 高橋 登／3回）「授業の進め方」，「発達をふまえた支援の在り方」，「子どもの言語発達のメカニズム・アセスメントと支援」を担当する。 （32 西山 久子／2回）「様々な発達段階の子どもに対する心理支援・生徒指導」を担当する。 （33 相澤 宏充／2回）「障がいとともに生きる子どもの理解」，「障がいの理解と支援」を担当する。 （62 山田 洋平／1回）「発達段階を考慮した予防的プログラム」を担当する。 （全員／3回）（共同）「研究の発表」を担当する。	オムニバス方式・共同 （一部）

分野 科目	臨床 発達 教育学 分野／ 発達 支援 領域	学習認知研究	認知科学の理論から、学習者の学習活動について理解を深め、個別最適化の学習視点への応用を模索する。学習理論や動機づけ理論など種々の理論に立ち返りながら、どのような関わり方が子どもの学習を促進するかといった実践との往還から、理論のより深い理解と実践の展開の促進を図る。 (オムニバス方式／全15回) (57 渡邊 創太／7回)「オリエンテーション」,「学習理論」,「モチベーション理論」,「メタ認知」を担当する。 (64 森 兼隆／7回)「知識獲得の認知メカニズム」,「知識活用に関わる理論」,「ワーキングメモリ理論と教育・教科学習」,「実行機能と行動の制御」を担当する。 (57 渡邊 創太・64 森 兼隆／1回) (共同)「まとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 発達 教育学 分野／ 教育 実践 領域	教育方法学研究	カリキュラム,授業,生活指導を開発する諸理論の布置を描いた上で,カリキュラム,授業,生活指導をめぐる教育改革の国際的動向について概観する。その上で,日本の教育方法実践史を取り上げ,日本に特徴的な子どもの生活現実やニーズからカリキュラム,授業,生活指導をつくる実践のあり方の現代的意義を検討する。 (オムニバス方式／全15回) (42 小林 淳一／5回)「日本の教育改革の動向と教育方法学研究」,「子どもの生活現実と教育実践」,「現代的課題と教育方法学」を担当する。 (54 八田 幸恵／5回)「教育方法学研究の構図」,「米国・英国の教育方法学研究」,「教育改革の国際的動向」,「戦後日本の教育方法論の史的展開」を担当する。 (55 吉田 茂孝／5回)「ヨーロッパの教育方法学研究」,「教育改革の国際的動向」,「戦後日本の教育方法論の史的展開」を担当する。	オムニバス方式
分野 科目	臨床 発達 教育学 分野／ 教育 実践 領域	教育DX研究	教育におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)について,それが何を指し,教育のどういった分野で進展する可能性があるのか,社会的な背景や政策をもとに議論をする。特に「遠隔・オンライン教育(対面とのブレンド含む)」「先進テクノロジーの活用」「AI・データ駆動型教育」について,研究動向を解説するとともに,今後の研究可能性について検討する。 (オムニバス方式／全15回) (23 寺嶋 浩介／3回)「遠隔・オンライン教育」を担当する。 (2 三島 和宏／3回)「先進テクノロジーの活用」を担当する。 (1 鈴木 剛・6 安松 健／3回) (共同)「AI・データ駆動型教育」を担当する。安松がAI・データサイエンス・データ駆動型教育の社会的な動向,鈴木が教育現場での実践を中心に解説し,今後の研究可能性を含めて共同で担当する。 (全員／6回) (共同)「オリエンテーションおよび各研究トピックの概要紹介」,「教育DXの社会的背景,国内外での事例や全体的な動向」,「3つの研究トピックの振り返りと研究計画の検討」,「研究計画の立案と改善」,「受講生による研究計画のプレゼンテーション」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 発達 教育学 分野／教 育実 践領 域	特別支援教育研究	特別支援教育の基本的な理念や制度について押さえた後、特別支援教育の対象となる代表的な障がいに関する基礎から応用までの包括的な内容、代表的な研究テーマや手法、現代的なトピックについて解説する。 (オムニバス方式／全15回) (36 一木 薫／3回)「特別支援教育の理念及び制度の基本」, 「肢体不自由教育に関する総合的理解, 研究動向と最新トピック」を担当する。 (11 片桐 正敏／3回)「自閉スペクトラム症に関する総合的理解, 研究内容や手法と最新トピック」を担当する。 (26 平賀 健太郎／3回)「病弱教育に関する総合的理解, 研究手法と最新トピック」を担当する。 (4 見上 昌睦／3回)「言語障害教育に関する総合的理解, 研究内容や手法と最新トピック」を担当する。 (18 大内田 裕／3回)「各種障害の運動障害に関する総合的理解, 研究内容や手法と最新トピック」を担当する。	オムニバス方式
分野 科目	臨床 発達 教育学 分野／学 校支 援領 域	学校安全研究	国の学校安全の考え方について確認した後に、学校安全の考え方とその促進方法について議論する。特に子どもの発達段階を考慮した学校安全の基本的な考え方とその最新の実践及び効果測定について論じる。 (オムニバス方式／全15回) (24 豊沢 純子／7回)「子どもの発達段階を踏まえた安全教育と効果測定の方法」, 「リスクに対する心のバイアス・集団心理」, 「学術的観点からの過去の事件・事故事例の分析」等を担当する。 (19 後藤 健介／7回)「環境教育と安全教育」, 「生活安全・災害安全・交通安全の研究」, 「フィールドワークの実際」, 「データ分析法の応用」, 「セーフティプロモーションスクール」を担当する。 (24 豊沢 純子・19 後藤 健介／1回) (共同)「ガイダンス」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 発達 教育学 分野／学 校支 援領 域	学校コミュニティ支援研究	学校コミュニティ支援に関する各テーマについて、国内外の文献を講読して議論をおこない、学校コミュニティの改善が子どものウェルビーイングにどのように影響するのか検討する。 (オムニバス方式／全15回) (51 寺坂 明子／5回)「学校コミュニティ支援の考え方」「子どもと子どもを取り巻く環境との関係」「学校コミュニティ支援の方法と展開」「エビデンスに基づく教育アプローチとプログラム評価の方法」を担当する。 (24 豊沢 純子／5回)「学校コミュニティにおける安全」「安全教育の担い手としての学部生へのアプローチ」「ポジティブ心理学と安全教育」を担当する。 (9 杉本 任士／5回)「行動分析学を用いた学年・学級コミュニティの改善」「学校コミュニティにおけるポジティブ行動支援」「地域コミュニティにおける生徒指導体制の構築」「学校コミュニティにおける心理的安全性とウェルビーイング」を担当する。	オムニバス方式
分野 科目	臨床 発達 教育学 分野／学 校支 援領 域	教育データサイエンス研究	学校現場の課題解決に資するデータ分析やその活用について、研究倫理を遵守しながらどのように行うのか解説する。臨床的な研究のためにどのようなデータが活用できるのか、どのようなアウトカムが学校現場の諸課題を解決するのに役立つのか、演習形式で検討する。	

分野 科目	臨床 発達 教育学 分野／学 校支援 領域	教員キャリア・研修マネジ メント研究		教員が①自身のキャリア、②管理職やミドルリーダーとして若手教員のキャリア形成に関与、教員研修をマネジメントできる人材の育成を目指すために、量的・質的データをもとに現状の課題を把握し、その課題解決についてアクション・リサーチを行う。最終的には理論と経験に基づいた新たな研修システムを提案できるようにする。 (オムニバス方式／全15回) (13 姫野 完治／1回)「教員育成に関する教育工学的アプローチ」を担当する。 (50 田中 真秀／2回)「変化の時代に対応した子どもを育成する教員の育成—教員評価の構築—」,「教員育成に関する行政学・経営学・社会学的アプローチ」を担当する。 (13 姫野 完治・50 田中 真秀／12回)(共同)「授業の進め方、受講生の問題意識の確認、臨床的研究の概念の確認」,「教員キャリア」の視点へのアプローチ」,「研修の体系化に向けた多角的な学問の視点」,「未来を見据えた教員研修制度の提案」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床英語科教育研究		英語科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得する。特に臨床英語科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解するために、日本の英語教育や第二言語習得の最新文献を素材として講義・輪読を行う。また得られた知見を各自の研究課題にどのように生かすかの議論を行う。 (2 笠原 究)「ガイダンス」,「英語科教育学の研究動向」,「英語科教育学研究の最先端」,「研究の構想の紹介と焦点化」を担当する。 (53 橋本 健一)「ガイダンス」,「英語科教育学の研究動向」,「英語科教育学研究の最先端」,「研究の構想の紹介と焦点化」を担当する。	共同
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床英語科教材開発研究		教材開発の視点を踏まえつつ、臨床英語科教育学研究における技能別指導・技能統合型指導について検討する。教科教育学と教科内容学の融合的視点も踏まえつつ、各技能、及び技能統合型の授業について映像や文献を通して知見を得て、自らの実践に生かせる教材開発の演習を行う。また、それらをベースにして、各自の研究課題・授業実践に対する示唆を得る。 (2 笠原 究)「ガイダンス」,「英語リーディング指導の最先端」(主担当),「英語リスニング指導の最先端」(副担当),「英語ライティング指導の最先端」(主担当),「英語スピーキング指導の最先端」(副担当),「技能統合型指導の最先端」を担当する。 (53 橋本 健一)「ガイダンス」,「英語リーディング指導の最先端」(副担当),「英語リスニング指導の最先端」(主担当),「英語ライティング指導の最先端」(副担当),「英語スピーキング指導の最先端」(主担当),「技能統合型指導の最先端」を担当する。	共同
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床英語科内容学研究		英語科教育における内容学研究の動向について、主として言語材料に焦点を当てつつ概観し、英語科内容学研究が臨床英語科教育学にもたらす示唆や臨床英語科内容学のあり方について検討する。また、これらの融合的視点を踏まえて、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (2 笠原 究)「ガイダンス」,「英語音声習得研究の最先端」(副担当),「英語語彙習得研究の最先端」(主担当),「英語文法習得研究の最先端」(副担当),「英語圏文化研究の最先端」(主担当),「各自の研究課題に関する検討」を担当する。 (53 橋本 健一)「ガイダンス」,「英語音声習得研究の最先端」(主担当),「英語語彙習得研究の最先端」(副担当),「英語文法習得研究の最先端」(主担当),「英語圏文化研究の最先端」(副担当),「各自の研究課題に関する検討」を担当する。	共同

分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床社会科教育研究	社会科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床社会科教育研究に特有の研究手法である臨床的研究についてを理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (29 峯 明秀／4回)「社会科教育の理論的基盤(社会科の本質)」,「社会科教育学の研究動向(社会科の性格規定)」,「社会科教育学の研究手法(教育目標と評価)」,「社会科教師教育と研究」を担当する。 (③ 坂井 清隆／4回(「社会科教育の理論的基盤(社会科の歴史と政策)」,「社会科教育学の研究動向(カリキュラム編成・単元構成)」,「社会科教育学の研究手法(教育方法と技術)」,「社会科教師教育と研究」を担当する。 (29 峯 明秀・③ 坂井 清隆／7回)(共同)「ガイダンス」,「研究構想の紹介と焦点化」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床社会科教材開発研究	教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床社会科教育学研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (③ 坂井 清隆／1回)「社会科教育学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (15 津田 拓郎／1回)「社会科内容学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (29 峯 明秀・③ 坂井 清隆／10回)(共同)「事例研究(社会科教育学における教材開発研究)」,「社会科教育における教材開発演習」を担当する。 (全員／3回)(共同)「ガイダンス」,「教材開発における教科教育学、教科内容学の視点」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床社会科内容学研究	社会科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個別の専門分野の視点から社会科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (15 津田 拓郎／10回)「社会科内容学の検討(時代区分論に関する近年の動向、歴史学の新潮流、教科書における歴史学の新潮流の反映状況)」,「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」を担当する。 (15 津田 拓郎・29 峯 明秀・③ 坂井 清隆／5回)(共同)「ガイダンス」,「社会科内容学研究の位置づけ」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床理科教育研究	理科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床理科教育研究に特有の研究手法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (30 吉本 直弘／3回)「理科教育学の研究動向(自然体験、環境教育、STEAM教育、理科教育教師論)」,「理科教育学の研究手法(質問紙調査やインタビュー調査とその分析方法)」を担当する。 (61 甲斐 初美／5回)「理科教育学の研究動向(学習論と子どもの自然認識研究、教授論と理科授業デザイン研究、評価論と理科のカリキュラム研究)」,「理科教育学の研究手法(調査方法の概観及び調査の文脈が調査に与える影響、授業実践調査とその分析方法)」を担当する。 (30 吉本 直弘・61 甲斐 初美／7回)(共同)「ガイダンス」,「研究構想の紹介と焦点化」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床理科教材開発研究	教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床理科教育 学研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また、具体 的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と 教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する 示唆を得ることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (30 吉本 直弘／1回)「理科教育学研究における教材開発の位 置付け」を担当する。 (4 尾関 俊浩／1回)「理科内容学研究における教材開発の位置 付け」を担当する。 (44 小山 耕平・30 吉本 直弘／2回)(共同)「事例研究 (ICT機器の活用とオンライン資料の活用の事例、教材開発の臨床 データの解析事例)」を担当する。 (4 尾関 俊浩・44 小山 耕平／2回)(共同)「事例研究(野 外観察と室内観察による教材開発事例、教材開発のための統計デー タの解析手法)」を担当する。 (4 尾関 俊浩・30 吉本 直弘／1回)(共同)「事例研究(演 示実験装置の教材開発事例)」を担当する。 (全員／8回)(共同)「ガイダンス」,「理科教育学における教 材開発演習」,「教材開発における教科教育学,教科内容学の視 点」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床理科内容学研究	理科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教 科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個 別の専門分野の視点から理科内容学のあり方を検討するとともに、 教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示 唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (4 尾関 俊浩／3回)「理科内容学の検討(自然災害分野におけ る研究成果紹介,自然災害分野・放射線分野における理科内容 学)」を担当する。 (44 小山 耕平／2回)「理科内容学の検討(植物生態学分野に おける研究成果紹介,植物生態学分野における理科内容学)」を担 当する。 (① 鈴木 剛／3回)「理科内容学の検討(植物遺伝子分野にお ける研究成果紹介,植物遺伝子分野における理科内容学)」を担当 する。 (30 吉本 直弘／3回)「理科内容学研究の位置付け」,「理科 内容学の検討(気象学分野における研究成果紹介,気象学分野にお ける理科内容学)」を担当する。 (44 小山 耕平・① 鈴木 剛／1回)(共同)「教科内容学と 教科教育学の融合に向けた議論」を担当する。 (4 尾関 俊浩・30 吉本 直弘／1回)(共同)「教科内容学と 教科教育学の融合に向けた議論」を担当する。 (全員／2回)(共同)「ガイダンス」,「講義のまとめ」を担当す る。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床数学科教育研究	数学教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研 究知見を習得するとともに、臨床数学科教育研究に特有の研究方 法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆 を得る。 (オムニバス方式／全15回) (63 大滝 孝治／3回)「数学教育学の研究動向(教授人間学理 論(ATD)の基礎)」,「数学教育学の研究方法(教授人間学理論 (ATD)の基礎)」を担当する。 (27 町頭 義朗／2回)「数学教育学の研究方法(アクションリ サーチ,デザイン研究)」を担当する。 (41 有元 康一／3回)「数学教育学の研究動向(目的・目標 論,学習指導論,数学科内容学との接点)」を担当する。 (全員／7回)(共同)「ガイダンス」,「研究構想の紹介と焦点 化」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 数科学 分野	臨床数学科教材開発研究	教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床数学科教育研究における教材開発研究の理論的枠組みを理解する。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (63 大滝 孝治／3回)「探究(SRP)の教授工学」を担当する。 (27 町頭 義朗／2回)「事例研究(解析・確率統計領域における教材開発事例、領域融合による教材開発事例)」を担当する。 (41 有元 康一／3回)「数学教育学研究における教材開発」,「数学科内容学における教材開発」,「事例研究(代数・幾何領域における教材開発事例)」を担当する。 (全員／7回)(共同)「ガイダンス」,「数学教育における教材開発演習」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 数科学 分野	臨床数学科内容学研究	数学科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床数科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個別の専門分野の視点から数学科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (63 大滝 孝治／3回)「ブラクセオロジー分析」を担当する。 (27 町頭 義朗／4回)「臨床数学科内容学の検討(論理、確率・統計、微分幾何学、位相幾何学)」を担当する。 (41 有元 康一／3回)「臨床数学科内容学の検討(代数構造、整数論、離散数学)」を担当する。 (全員／5回)(共同)「ガイダンス」,「数学科内容学研究の位置付け」,「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 数科学 分野	臨床情報科教育研究	情報科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床情報科教育研究に特有の研究手法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (23 寺嶋 浩介／5回)「情報科教育学の研究動向(学力論,カリキュラム・マネジメント,授業設計理論)」,「情報科教育学の研究手法(インストラクショナルデザイン,アクションリサーチ)」を担当する。 (② 三島 和宏／3回)「情報科教育学の研究動向(学習環境の構築,学習者支援)」,「情報科教育学の研究手法(システム設計)」を担当する。 (23 寺嶋 浩介・② 三島 和宏／7回)(共同)「ガイダンス」,「研究構想の紹介と焦点化」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床情報科教材開発研究		教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床情報科教育研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (23 寺嶋 浩介／1回)「情報科教育研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (② 三島 和宏／1回)「情報科内容学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (23 寺嶋 浩介・② 三島 和宏／13回)(共同)「ガイダンス」、「事例研究(情報科教育学における教材開発研究)」、「情報科教育における教材開発演習」、「教材開発における教科教育学、教科内容学の視点」、「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床情報科内容学研究		情報科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科教育学の視点から教科内容学研究の理論的枠組みを検討する。また、情報科を構成する内容領域の観点から臨床情報科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (23 寺嶋 浩介／3回)「臨床情報科内容学の検討(情報化社会の問題解決、コミュニケーションと情報デザイン、他校種との接続)」を担当する。 (② 三島 和宏／3回)「臨床情報科内容学の検討(コンピュータとプログラミング、情報通信ネットワークとデータの活用、情報Ⅰと情報Ⅱの関連、専門教科としての情報)」を担当する。 (23 寺嶋 浩介・② 三島 和宏／9回)(共同)「ガイダンス」、「情報科内容学研究の位置付け(情報科の内容構成、情報科内容学とは)」、「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」、「各自の研究課題に関する臨床教科内容学的観点からの検討」、「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床音楽科教育研究		音楽科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、理論と実践を往還する臨床音楽科教育研究に特有の研究手法のひとつである逐語記録を中心とした「授業分析」について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。	
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床音楽科教材開発研究		音楽科の教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床音楽科教育研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また、小中高等学校での音楽科授業における具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における音楽科教科教育学と音楽科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。	
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床音楽科内容学研究		音楽科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における音楽科教育学の視点から音楽科内容学研究の理論的枠組みを検討する。また、音楽科を構成する内容領域の観点から臨床音楽科内容学のあり方を検討するとともに、音楽科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。	

分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床美術科教育研究		美術教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、美術教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (58 渡邊 美香／10回)「ガイドンス」,「研究動向(美術教育学とは何か,子どもの表現と人間形成,授業デザインとカリキュラム研究)」,「研究方法(美術製作と学習支援,授業者の視点とエピソード記述)」,「研究構想の紹介と焦点化」「講義のまとめ」を担当する。 (6 李 知恩／4回)「研究動向(地域課題と感性評価,グローバル課題と感性評価)」,「研究構想の紹介と焦点化」を担当する。 (58 渡邊 美香・6 李 知恩／1回)(共同)「研究構想の紹介と焦点化(研究課題のプレゼン)」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床美術科教材開発研究		題材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床美術教育学における題材開発研究の理論的枠組みを論じる。また、具体的な題材開発の演習を通して、題材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (58 渡邊 美香／3回)「美術教育学における題材開発の位置付け」,「美術教育における題材開発演習」を担当する。 (6 李 知恩／3回)「教科内容学研究における題材開発の位置付け」,「美術教育における題材開発演習」を担当する。 (58 渡邊 美香・6 李 知恩／9回)(共同)「ガイドンス」,「事例研究(幼児の造形,図画工作科での表現活動,中学校美術科での表現活動,高等学校美術・工芸科での表現活動,鑑賞活動)」,「美術教育における題材開発演習」「題材開発における教科教育学,教科内容学の視点」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床美術科内容学研究		美術教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における美術教育学の視点から美術内容学研究の理論的枠組みを検討する。また、図画工作・美術科を構成する内容領域の観点から臨床美術内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (6 李 知恩／11回)「ガイドンス」,「臨床美術内容学の検討(デザインの発想・表現・分析,感性評価)」,「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」,「講義のまとめ」を担当する。 (58 渡邊 美香／4回)「臨床美術内容学の検討(小学校表現・鑑賞,中学校表現・鑑賞)」を担当する。	オムニバス方式
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床保健体育科教育研究		保健体育科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、臨床保健体育科教育学研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (55 林 洋輔／3回)「ガイドンス」,「保健体育科教育学の最新の研究動向(体育哲学の歴史と現状,体育哲学の課題)」を担当する。 (38 本多 壮太郎／2回)「保健体育科教育学の最新の研究動向(体育科教育学の歴史と現状,体育科教育学の課題)」を担当する。 (10 中島 寿宏／3回)「保健体育科教育学の最新の研究動向(初等中等教育学の歴史と現状,初等中等教育学の課題)」,「講義のまとめ」を担当する。 (48 石川 美久／2回)「保健体育科教育学の最新の研究動向(武道学の歴史と現状,武道学の課題)」を担当する。 (全員／5回)(共同)「研究構想の紹介と焦点化」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床保健体育科教材開発研究		教材開発に関する最新の研究動向について概観し、臨床保健体育科教育学研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (55 林 洋輔／2回)「ガイダンス」,「講義のまとめ」を担当する。 (7 板谷 厚／1回)「保健体育科教育学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (10 中島 寿宏／1回)「保健体育科内容学研究における教材開発の位置付け」を担当する。 (38 本多 壮太郎／1回),「保健体育学の領域に関する,教材開発における教科教育学,教科内容学の視点」を担当する。 (1 神林 勲・12 森田 憲輝・48 石川 美久・38 本多 壮太郎・55 林 洋輔／5回) (共同)「事例研究(保健体育科教育学における教材開発研究)」を担当する。 (7 板谷 厚・10 中島 寿宏・1 神林 勲・12 森田 憲輝・48 石川 美久／5回) (共同)「保健体育科教育における教材開発演習」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床保健体育科内容学研究		保健体育科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、個別の専門分野の視点から保健体育科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (55 林 洋輔／3回)「ガイダンス」,「保健体育科内容学の検討(体育哲学の視点から)」,「講義のまとめ」を担当する。 (7 板谷 厚／2回)「保健体育科内容学研究の位置付け」,「保健体育科内容学の検討(教育学の視点から)」を担当する。 (10 中島 寿宏／2回)「保健体育科内容学の検討(初等中等教育学の視点から,臨床教科学としての位置付け)」を担当する。 (1 神林 勲／2回)「保健体育科内容学の検討(健康・スポーツ科学の視点から,臨床教科学としての位置付け)」を担当する。 (12 森田 憲輝／2回)「保健体育科内容学の検討(身体教育学の視点から,臨床教科学としての位置付け)」を担当する。 (48 石川 美久／1回)「保健体育科内容学の検討(武道学の視点から)」を担当する。 (38 本多 壮太郎／1回)「保健体育科内容学の検討(体育科教育学の視点から)」を担当する。 (48 石川 美久・38 本多 壮太郎／2回) (共同)「保健体育学の領域に関する,教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床家庭科教育研究		家庭科教育学に関する最新の研究動向について概観し、先進的な研究知見を習得するとともに、教科 教育学研究に特有の研究方法を理解し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (40 貴志 倫子／8回)「家庭科教育学の研究動向(国内外の教科目的論,国内外の教科カリキュラム論,国内外の授業研究,問題解決学習の系譜)」,「家庭科教育学の研究手法(歴史・比較研究,量的研究,質的研究,アクションリサーチ)」を担当する。 (17 碓田 智子／2回)「家庭科教育学の研究動向(多様な主体との協働)」,「家庭科教育学の研究手法(フィールド調査法)」を担当する。 (40 貴志 倫子・17 碓田 智子／5回) (共同)「ガイダンス」,「研究構想の紹介と焦点化」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床家庭科教材開発研究	教材開発に関する最新の研究動向について概観し、家庭科教育における教材開発研究の理論的枠組みを理解する。また、具体的な教材開発の演習を通して、教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (17 碓田 智子／4回)「家庭科内容学研究における教材開発の位置付け」,「事例研究(生活文化,まちづくり,安全な生活環境)」を担当する。 ・40 貴志 倫子／4回)「家庭科教育学研究における教材開発の位置付け」,「事例研究(家族・家庭生活,消費生活・環境,ESDにかかわる領域融合)」を担当する。 (17 碓田 智子・40 貴志 倫子／7回)(共同)「ガイダンス」,「家庭科教育における教材開発演習」,「教材開発における教科教育学,教科内容学の視点」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)
分野 科目	臨床 教科学 分野	臨床家庭科内容学研究	家庭科教育における内容学研究の研究動向について概観し、臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また、社会の諸課題との関わりの視点から家庭科内容学のあり方を検討するとともに、教科教育学との融合についても議論し、各自の研究課題に対する示唆を得る。 (オムニバス方式／全15回) (17 碓田 智子／8回)「臨床家庭科内容学の検討(歴史,地域性,生活文化,生活環境,人口・家族構成,ライフスタイルの多様化,防災・安全,まちづくり)」を担当する。 (40 貴志 倫子／2回)「臨床家庭科内容学の検討(生活経営・ジェンダー,消費市民社会)」を担当する。 (17 碓田 智子・40 貴志 倫子／5回)(共同)「ガイダンス」,「家庭科内容学研究の位置付け」,「教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論」,「講義のまとめ」を担当する。	オムニバス方式・共同 (一部)

(注)

- 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。